2013 年度事業報告

(2014年5月23日第1回評議員会・第1回理事会 議決)

はじめに

東日本大震災から 3 年目の歳月が過ぎ、日常生活が取り戻せているようにも感じますが、沿岸部に行けば遅々として進まない復興を目の当たりにします。2013 年度被災者への医療・介護費の減免制度が打ち切られましたが、この 4 月から所得制限と大規模半壊以上という制約つきですが、運動の成果として復活することができました。しかし、利用者様の非課税世帯の割合が多くなってきており、東日本大震災の影響とあわせて、貧富の格差が拡大している実態があります。具体的には、利用料の滞納という問題で発覚していますが、普段からの援助等や抜本的な問題解決に向けた運動が必要となってきています。利用者様・ご家族に真に寄り添う活動が必要です。

2013年9月に介護老人福祉施設「田子のまち」が開設できました。宮城民医連の第5次長計として位置づけで、宮城民医連として3回の地域行動を行いました。東日本大震災の影響で2億円以上の建設費の増加、開設の遅れがありました。経営的に非常に厳しいものとなっていますが、地域や介護を必要としているご家族からの期待も大きいものがあります。

2014 年4月開設予定で、「古川くりの木保育園」、「障がい児・者サポートセンター てとて」が竣工しました。この事業も建設費が増加という事態で、非常に厳しいものとなっています。「てとて」の実際のサービス開始は2014年6月からとなっており、経営的には厳しいものがありますが、すでに多数の問い合わせもあり、地域からの期待を感じています。

栗原市の地域密着型特別養護老人ホームの公募に応募しましたが、不選定という結果となりました。 デイサービスくりこまの里単体での事業では経営面でも限界があることから、今後も多様な施設展開を 検討していきます。

社会保障活動では、各事業に責任者を配置した中で、原水爆禁止世界大会への派遣への取組、福祉ウェーブ、各種の支援行動で大きく前進しました。

宮城厚生福祉会は 450 名を超す職員、施設・事業所も 12 施設となります。法人本部機能強化が必要となっていますが、事業所の施設長・管理職が法人機能を担う体制づくり(法人全体の経営・運動課題を政策化し実行できる体制と人材づくり)が急務となっています。職員経験年数毎の研修は教育委員会で実施されており、内容を深めてきましたが、法人理念等を語れる講師育成を進めて行きます。

2013年度の経営状況は▲ 円という非常に厳しいものとなっています。

施設建設が続く中での経営状況ですが、建設でのマイナスを差し引いても、介護事業全体で収益が予算、前年度実績を下回りました。要因としては年度前半で介護職員が充足できずに利用率が上がらなかったこと、充足した後もなかなか回復できなにかったことがあります。地域のニーズを探ると同時に、経営管理も重要な要素であることが顕在化しました。

また、労働組合に提示した「ロードマップ」に基づき保育事業所で8時間勤務の試行を行いましたが、 まだ本実施に至っておりません。試行に伴い増員していますが、その後の退職などから充分な効果が得 られていない状況です。

高齢者福祉・介護事業、保育事業、児童厚生事業、障がい者事業からの事業報告となりますが、現状を認識し 2014 年度につなげる報告となっております。実践と評価を繰返してきた記録でもあります。

今後も運営・経営基盤の強化を図りつつ、人が大事にされる福祉の実現のために奮闘します。

介護事業

高齢者福祉施設「宮城野の里」

宮城野の里では年度初めに全職員、全職種でグループワークを行い、宮城野の里の基本方針をあらためて学習し、自分たちのものにするところからスタートしました。しっかりと目指す方向を確認することができたので、7事業所、医務部門、食養部門、それぞれが自分が所属する部署だけでなく『宮城野の里』全体を考えることができるようになっています。

『地域とともに』という意識も高まっています。宮城野の里まつりの開催でたくさんの地域の皆様に 足を運んでいただいたり、地域にある小・中学校、保育園等との交流の機会も増えています。ご利用者 が保育園のクリスマス行事に招待され楽しいひとときを過ごして来られることもありました。また、宮 城野高校美術科の皆さんが食養調理室ドアに素敵な絵を描いてくれたり、出入り口や廊下に作品を展示 してくれたりしたことで、施設全体の良い雰囲気が変わりご利用者との話題が広がりました。このよう な交流が今後も続いていけば大変うれしいことです。

2013年度、宮城野の里では大きな2つの取り組みをしました。

一つは『環境整備』、もう一つは『おいしい食事』への取り組みです。ご利用者目線で物事を捉え実行することができるようになっています。今後もご利用者に寄り添うケアを追求していきます。

残念ながら経営面では苦戦の年でした。今年度の反省をもとに、次年度はたくさんの皆さんにご利用 いただけるように職員一丸となって奮闘したいと思います。

I. 各事業所

【1】 福田町デイサービスセンター I

1. 利用者動向

ご利用者・ご家族が待ち望んでいた「田子のまち」入居によるキャンセル増が予想されたので、新規利用者の獲得に向けて奮闘しました。その結果、前年度新規の約1.4倍、終了者23名を11名上回る34名の新規利用者を獲得することができました。しかし、利用頻度の少ない方や要支援の方が多かった為、利用率や収入増にはつながらず、上半期の平均利用率95.6%に対し、田子のまち開設後の下半期は85.1%、年間平均利用率は90.6%で目標達成には至りませんでした。しかし、新規や外部ケアマネ依頼件数の増加は、今後につながる大きな成果です。次年度もさらに増やして、経営の安定化につなげていきたいと思います。

1) 利用者実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	前年比
営業日数	26	27	25	27	27	25	27	26	24	24	24	26	308	±0
実人数	92	89	90	87	88	85	87	89	86	89	89	91	_	_
延人数	723	799	722	781	789	692	702	637	596	593	618	711	8363	+117
登録者数	89	92	92	93	90	90	87	87	91	92	96	101	1100	+27
開始者数	8	0	1	1	0	1	5	6	2	5	4	1	34	+10

終了者数	3	1	0	4	0	5	3	1	2	2	1	1	23	±0
利用率	92.7	98.6	96.3	96.4	97.3	92.3	86.7	81.7	82.7	82.3	86.0	91.0	90.6	+1.4
平均介護度	1.5	1.6	1.5	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.6	+0.1

2) 開始理由·終了理由

開始理由	交流	入浴	口コミ・評判	見学・体験	介護負担	認知症予防
人数	11	6	7	5	2	3

終了理由	入院	死去	施設入居	転居	認知症型へ移行	デイケアへ移行	希望しない	他
人数	5	0	5	3	6	1	1	2

3) 内部・外部件数の比較(内部=居宅介護支援宮城野の里・福田町地域包括。外部=内部を除く居宅介護支援・地域包括。)

	月	,		0		0	0	10	11	10	1	9	0	₩.	中心人	前年	F度
		4	Б	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均	割合	平均	割合
要支援	内部	14	14	13	11	10	9	13	15	17	21	21	22	15件	88.8%	18.3件	90.1%
援	外部	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1.9件	11.2%	2件	9.9%
要介護	内部	40	37	38	37	40	38	35	35	35	33	34	33	36.3件	50.7%	35.6件	54.9%
護	外部	36	36	37	37	36	37	37	37	35	33	30	32	35.3件	49.3%	29.2件	45.1%

2. 取り組みについて

新入職員や経験の浅い職員が多い中「現状維持・ご利用者の満足度を下げないこと」だけに精一杯で、目標としていた「選ばれるデイサービス」になるための取り組みとしては、不十分だったと思います。しかし、どの職員も、方針である『利用者第一主義』だけはいつも胸に置き、笑顔と心配りで、ご利用者との関わりを大切にしてきました。

1)年間行事

少人数でのおでかけなど、季節行事は毎月実施しました。職員の経験の未熟さは、情熱と気配りでカバーし、さらに喜んで頂ける企画にしてきました。9月の敬老会は、準備段階から全職員が一丸となってすすめることが出来、行事食・会場設営・出し物・手作りプレゼントなど企画・演出全てにおいて大成功で、ご利用者に大変喜んでいただきました。

2) 人材育成

ほとんどの職員が、初めて教える側に立ちました。自分の指導や助言が、相手に上手く伝わらないことへの葛藤の中で、指導や助言もコミュニケーションの一つであり、話した内容以上に、しぐさや表情・口調が相手に影響を与えるのだという事を学びました。次年度も、「相手の視点に立つこと」「伝えるより伝わったかどうか」「自分では無く相手の成功体験」を大切に、みんなが成長し合える職場を作っていきたいと思います。

3) ケアの質

職員間の情報共有・連携・協力・ケアの統一が進まない中で「相手の視点・価値観の理解」の大切さに気付き、また、根拠の無いケアをしてしまった時にはアセスメントの大切さに気付きました。「自分た

ちが目指しているのは個別ケア」だと改めて実感する一年間でした。

4) 家族懇談会

「行事参観」「試食会」「震災時のデイサービスについて」「認知症の人と家族の会から講師を招いての学習会」とテーマを変えて年4回開催しました。参加者の声やアンケート調査から「デイでの様子を知りたい」「認知症を学びたい」等、参加目的が様々であることがわかりました。次年度も皆様のご要望にお応えしながら「家族と共に作る懇談会」を作っていきたいと思います。

5) 食事

「よりおいしい食事とは」を改めて考え、意見を出し合いました。好みや体調・気分にあった料理・環境 (時間・設えなど) が揃うと、人は「食事を美味しい・楽しいと感じる」という結論のもと、デイでご飯を炊く取り組みなどを開始しました。馴染みの作業である「お米とぎ」には、ご利用者が主体的に関わって下さるようになりました。

6)環境整備

環境の意味・役割について改めて学習し、話し合い、環境整備に取り組みました。プライバシーが守れないベッドスペース改善の為の大規模工事から、観葉植物の設置やティッシュや座布団カバーなど小さなところまで見直しました。居心地が良くなったと喜んで下さるご利用者も多く、環境整備の効果を実感しました。

【2】 福田町デイサービスセンターⅡ

1. 利用者動向

今年度は、2000年の開設以来、利用終了者数が最も多い年になりました。中でもお亡くなりになった方は過去最多で、例年の約4倍の8名でした。この他、施設入居された方8名等、終了者は18名に上り、これは、東日本大震災の影響で10名の方が施設入居された2011年度と同じ終了者数でした。当デイのご利用者は、認知症の周辺症状等でご家族の介護負担も大きく、ぎりぎりの状態で在宅生活を送られている方も多い為、皆様が待ち望んでいた「田子のまち」入居による終了者増・利用率低下については充分予想し、新規獲得を目指したのですが、力及ばず、新規利用者は前年度比3名増の12名に止まりました。

しかし、当事業所は外部ケアマネからの依頼が多く、現在も「ご利用者の約半数は外部」という強みがあります。ご利用者や地域の方々の声に耳を傾け、ニーズ・情勢を把握し、ケアマネ等専門職の意見も取り入れながら、次年度こそは目標を達成したいと思います。

1) 利用者実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	前年比
営業日数	26	27	25	27	27	25	27	26	24	24	24	26	308	±0
実人数	24	27	24	23	22	21	18	19	22	18	18	17	_	_
延人数	213	234	216	223	224	186	167	162	159	143	152	159	2238	-355
登録者数	26	25	26	24	25	23	18	20	21	20	20	20	268	-39
開始者数	1	3	0	1	0	0	3	1	2	0	1	0	12	+3

終了者数	3	1	2	0	2	5	1	0	3	1	0	0	18	+11
利用率	68.3	72.3	72.0	68.8	69.2	61.7	51.6	51.6	55.0	50.0	52.5	50.8	60.8	-9.4
平均介護度	3.0	2.9	3.1	3.1	3.3	3.2	3.0	2.9	2.8	3.1	2.9	2.9	3.0	-0.2

2) 開始理由·終了理由

開始理由	交流	入浴	口コミ 評判	見学体験	介護負担	認知症 予防	デイIから移行
人数	1	2	0	1	0	3	5

終了理由	入院	死去	施設入居	転居	デイIへ移行	希望しない
人数	1	8	8	0	0	1

3) 内部・外部件数の比較(内部=居宅介護支援宮城野の里。外部=内部を除く居宅介護支援事業所。)

月	4	-	0	_	0	0	10	11	19	1	9	0	亚籽	宝山人	前年	F度
	4	5	6	7	δ	9	10	11	12	1	2	3	平均	割合	平均	割合
内部ケアマネ	14	15	15	14	14	13	10	12	13	11	9	9	12.4件	58.5%	14.4件	57.8%
外部ケアマネ	10	12	9	9	8	9	8	7	9	7	9	8	8.8件	41.5%	10.5件	42.2%

2. 取り組みについて

1) 認知症ケアの技術や知識の習得

① 内部研修

認知症の学習会を定期的に行ってきました。職員一人ひとりが、関わっているご利用者の表情や行動の一つひとつに対し「なぜ?」「どうして?」と考える場面が増え、言葉にならないご利用者の思いや、言葉と行動と思いの違いに気付けるようになってきました。その方が生きてこられた歴史・習慣・こだわりを理解し、デイサービスで過ごされる時間だけでは無く、暮らし全てに目を向けたケアの大切さを再認識することができました。

② 「仙台市認知症実践者研修」実習受入開始

今年度、デイⅡの取り組みが評価され、仙台市が実施している「認知症実践者研修」の外部実習施設として選ばれました。仙台市内の事業所に勤務する実務経験 2 年以上の介護福祉士・ケアマネ・管理者などが、年4回来訪されました。当初は「見られること」への緊張がありましたが、回を重ねるにつれ、研修生と積極的に意見交換ができるようになり、また、研修生には、職員のケアに対する客観的な意見も頂けるので、自分たちのケアを振り返る機会が得られました。今後は、さらに認知症介護への理解を深め、質の高い認知症ケアを実践していきたいと思います。

2) ご家族や関係機関との連携

① ほんわか通信

毎月、デイⅡ独自のお便り「ほんわか通信」を発行しました。行事に限らず、ご飯を炊く様子、 ご友人と談笑される様子などの普段の様子を、カメラで沢山撮影し、エピソードを添えて、ご利 用者・ご家族へお届けしました。年度末には、ほんわか通信「個人用」を手作りイラストと写真 入りで、お一人おひとり個別にお渡しすることが出来ました。デイⅡで過ごされる時の活き活き した表情を、今後もご利用者・ご家族へお届けしていきたいと思います。

② 家族懇談会

予定通り年 4 回開催することが出来ました。毎回約 10 名~15 名のご家族が参加され、積極的 に意見交換が行われました。認知症のご家族を介護されている方同士が、お互いの気持ちを話す ことで気持ちが軽くなり、大変なのは自分だけではないと感じていただけるのだということを、 参加された方々の声から実感しています。今後も定期的に開催していきたいと思います。

③ ご家族との関係づくり

送迎は、できる限りデイII職員が対応し、その日のご様子をできるだけ詳しくご家族へお伝えしてきました。昨年度に比べて、連絡帳へのご家族からのコメントが増え、ご自宅とデイでの情報共有ができるようになりました。在宅介護を支える視点を大切にした、関係づくりを継続していきます。

【3】 短期入所生活介護施設福田町

1. 利用者動向

1) 今年度の特徴

毎月、予約日時点では常に満床で、沢山の方にキャンセル待ちをして頂く状況でしたが、その反面、体調不良・入院などの急な事情によるキャンセルも日常的にありました。キャンセル発生時はすぐに空床案内を出し、急な利用依頼にも迅速に応え、新たに 3 か月以上等の長期利用の受け入れも開始するなどして、稼働率の向上に努めました。しかし、それらの対策を講じても急な入院・施設入居等で発生する長期間のキャンセルや、同室者の性別・相性等への配慮が必要な多床室にキャンセルが発生した場合は埋めるのが困難で、目標としていた稼働率 97%には届きませんでした。しかし、隣に「田子のまち」が出来、お互いに連絡を密に取り合うことで、以前の単独ショートでは応えきれなかった期間の要望などにも応えられるようになったことは、皆様から大変喜ばれうれしく思っています。

次年度も積極的な空床案内、田子のまちとの協力を継続しながら、目標達成を目指します。

2) 利用者実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	30	31	30	31	31	31	30	31	31	31	28	31	366
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
利用実人数	88	89	82	88	90	78	77	79	83	79	73	78	984
利用延人数	572	620	558	568	592	559	550	552	571	567	511	584	6,804
利用率	95.3	100.0	93.0	91.6	95.5	93.2	88.7	92.0	92.1	91.5	91.6	94.5	93.2
平均介護度	2.98	3.02	2.93	2.88	3.09	2.98	2.88	2.92	2.82	2.97	3.00	2.91	2.94

2. 個別ケアの取り組み

1) 少人数ケア体制への移行

① チームワーク

ご利用者 20 名を二つのユニットに分けることにより、一人ずつの意見が多く出るようになり、ユニット内での意見交換が活発になりました。それに伴い、ショート全体でも声を掛けあうことが多くなりました。職員一人ひとりがより積極的・意欲的にケアについて考えるようになったと思います。その反面、ユニット双方の意見交換や情報共有が不足することがあり、今後は、協力ユニット間の連携・協力体制の構築が必要だと考えています。

② 「気づき」の増加

担当するご利用者が半分になったことで、今まで気づかなかったご利用者の情報が 多くなりました。今後はその情報をケアにつなげていきたいと思います。

2) 24H シートの作成

ご利用者一人ひとりの意向や好みを知り、その方の普段の生活リズムを大切にできるようになりました。今後は、よりその方の望む暮らし方や、その方に必要なケアが行えるようにしていきたいと思います。

3)環境整備

① 視点の変化

職員視点からご利用者の視点で環境整備をすすめました。視点の変化により、ショートステイ玄関や廊下、和室の整理整頓をして緑を置いたり、休む場所をつくったりと整備がすすみました。フロアや居室内についても居心地のよい空間をつくっていきたいと思います。

② ご利用者・ご家族の声

「廊下の散歩中に休めるようになった。」「いろんな所が綺麗になって前よりいいね。」と言ってくださる方や、「雰囲気がいいね。」「居心地がいい。」と言ってくださる方が増えたことは私たちのやりがいと自信につながりました。

4) 食事

お食事をよりおいしく召し上がっていただくために、ショートステイ内でご飯を炊いてよそう・味噌 汁をよそうことをはじめました。お食事前にご飯の炊ける匂いが広がり、「今日のご飯はちょうどいい塩 梅だね。」と炊き加減について話される方も多くいらっしゃいました。今後も継続し、より一層おいしく お食事ができる取り組みをしていきたいと思います。

【4】 ヘルパーステーション宮城野の里

1. 利用者動向

訪問ヘルパーへのニーズは、そのサービス内容の特徴から、比較的中度者からは少なく、少しのサポートで自立生活が送れる軽度者と、在宅生活が困難になってきている重度者から多くあります。その為、施設入居によるキャンセルは毎年あるのですが、特に今年度は、皆様のご自宅から近い場所に念願の特養「田子のまち」が開設したことで、それが例年に無く増加しました。キャンセルされた方々が多く利用されていた、単位数の高い身体介護サービスの利用件数の急激な減少は、少なからず収入額に影響しましたが、キャンセル数を上回る新規利用者を獲得し、前年度に比較し528件増、約200万円の増収と

なりました。

現在、当事業所の課題は二つあります。一つは外部の居宅介護支援事業所や地域包括支援センターからの依頼が少ないということです。現在、全体の 8 割強が、内部からの依頼になっています。二つ目は人材不足です。依頼件数は毎年着実に伸びているのですが、派遣できる訪問介護員が足りず、需要に対し、供給が追い付かないという状況が続いています。求人活動や営業活動に力を入れ、内部からも外部からも信頼される事業所、働きたいと思える魅力的な職場を、次年度は目指していきたいと思います。

1) 利用者実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	前年比
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	±0
実人数	63	66	67	67	63	63	63	59	61	61	62	61	_	
延回数	614	671	632	721	696	568	587	551	568	535	554	691	7388	+528
開始者数	2	5	2	1	1	2	2	2	1	1	2	4	25	+3
終了者数			2	1		8		1	2	2	2	3	21	+7
平均介護度	1.9	1.9	1.9	1.9	2.1	1.9	1.8	1.8	1.7	1.8	1.9	2.3	1.9	+0.7

2) 開始理由·終了理由

開始理由	掃除	買物	調理	排泄	入浴	送り出し	合計
人数	11	2	1	4	5	2	25

終了理由	入院	施設入居	死去	その他	合計
人数	2	11	6	2	21

2. 取り組みについて

1) 好印象をもっていただくために

① 場面に合わせた3種類のエプロン

前年度までは、ケアの場面に合わせて、2種類のエプロンを使い分けていました。今年度からは、調理と食事介助、掃除、排泄介助の3つの場面に合わせ、3種類のエプロンを使い分けることにしました。特に、食事のエプロンは、ご飯が美味しくなるような明るい柄にし、ご利用者に好評でした。

② 桃色のマスク

訪問介護サービスのご利用者には、経済的な問題を抱え、身寄りも無く、十分な介護サービスも受けられないままに在宅生活を送られ、ネズミがいるなどの不衛生な環境の中で、暮らし続けている方もいらっしゃいます。ヘルパーの訪問先は、その様な方のお宅もあれば、免疫力が低下した寝たきりの方のお宅もあるので、感染症を媒介しないためにも、訪問前後の着替えや、マスクの着用が欠かせません。しかし、マスクを着けていると、ご利用者に「風邪をひいているの」と不安がられたり「冷たく見える」と嫌がられたりすることがあったので、その印象を和らげる方法として、桃色のマスクの着用を始めました。だいぶ印象が明るくなり「優しそうに見えるね」「わたしも欲しいわ」と喜んで頂けるようになりました。

③ 透明のトートバック

「ヘルパーさんに盗まれたかも」と、物盗られ妄想のあるご利用者を、不安にさせてしまうという 出来事がありました。ご利用者は、信頼していたヘルパーに裏切られた気持ちになり、辛かったと思 います。疑われたヘルパーも、ご病気のことは理解していたつもりでも、悲しい気持ちになりました。 「不安感を与えない方法は無いか」と考え、「中身が全て見える透明のバッグ」を、皆で使ってみるこ とにしました。最初は「ご利用者にどう思われるのか」「違和感を与えてしまうのではないか」と心配 でしたが、「素敵」「いいね」「安心する」と言って下さる方ばかりでした。何よりも、ご利用者へ私た ちの誠意が伝わり、訪問時に安心・信頼して頂けるようになったことをうれしく思っています。

2) 個別研修

① 育成面談

訪問介護員(登録へルパー)に対する育成面談を、定期的に実施してきました。訪問介護員が抱えている不安や問題点・課題を共有し、共に解決策を考えたり、アドバイスをしたりすることで、課題に対し前向きに取り組んでいけるきっかけになりました。たった 1 人で他人の家に入りサービスを提供する、という責任の重い仕事ですので、訪問介護員たちが一人で不安を抱えてしまわない様に、また、サービスの質の向上とその均一化の為、次年度も継続していきたいと思います。

② 研修計画

今年度も、個別研修計画を作成し、実施してきましたが、内容は昨年度とほぼ変わらないものだったので、職員個々のスキルに合ったものでは無かったと思います。次年度は、日常的な指導や評価も記録に残し、新たな課題も随時計画に盛り込みながら、本当の意味の個別研修計画を作り、職員の質を高めていきたいと考えています。

【5】 ケアハウス宮城野の里

1. 入居者動向

1) 入居年数 (2014.3.1)

年数	0~5年	6~10年	~15年	計
男性	4	0	1	5
女性	14	5	6	25
計	18	5	7	30

2) 年齢状況

年齢 (歳)	61~65	66~70	71~75	76~80	81~85	86~90	91~	合計	平均年齢
男性	0	0	0	0	1	3	1	5	86. 80
女性	1	2	0	6	5	7	4	25	83. 28
合計 (人)	1	2	0	6	6	10	5	30	83. 86

3) 退所者数・理由内訳

退所理由	特養入居	自宅へ	死亡	合計	

人数(名)	6	1	1	8
/ •//• \ [-]/	_	_	_	_

4) 要介護認定者数・内訳

区分	要支援1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護3	要介護 4	要介護 5	合計
人数(名)	10	4	7	1	0	0	0	22

5) 介護保険サービス利用者数・内訳

サービス種別	訪問	介護	通所介護	通所リハ	合計
	生活援助	身体介護	地別月 曖	週別リンへ	
人数(名)	12	6	5	3	26

6) 入院者数:1名(内訳:骨折1名・循環器1名)

7) 車椅子利用者数:1名

8) 入居待機者数:50 名(2014年3/1現在)

2. 取り組み

高齢化に伴い、体調管理やメンタルケアの必要性がより高まってきました。高齢による様々な変化や症状に早期に対応できるよう、お一人お一人の心身状態を把握し、生活の継続性に取り組みました。

1) 個別処遇について

ご入居者お一人お一人の思いを直接聞くために、職員が各居室へ訪問する形での聞き 取りアンケートを実施しました。普段は自分の意見や要望が言えない方にも様々な思いを話して頂け たので、その方の生活環境・暮らし方・サポートの必要な部分が把握でき、個別計画に反映していく ことができました。

2) 健康管理について

ご入居者の心身の状態を把握するため、毎朝、居室訪問を行いました。急変時は、主治医への連絡・ 指示に基づいてスムーズに医療機関へつなぎ、早期発見・早期対応にて重篤化を防ぐことができまし た。健康づくり・介護予防の取り組みである昼食前の健康体操については実施できない日も多かった ので、次年度は継続できるようにしたいと思います。

3) 趣味活動、グループ活動について

自治会おもと会との運営懇談会を開催し、ケアハウスでいかに快適に安心して暮らし続けるかについて、役員の方々と共に話し合い、ご入居者の方々の活動や暮らしの継続を支援してきました。コーラスめだかは週2回(火・金)活動し、練習ではなかなか揃わなかった歌声も、里まつりでの発表会本番では、全員揃って素敵な歌声を披露することができました。閉じこもり予防の新たな取り組みとして、今年度11月からカラオケサークルとケアハウス独自の喫茶店を始めました。今ではご入居者の方々の楽しみの一つになっています。

3. ご家族(保証人様)・入居待機者とのつながり

長期の入居になればなる程、状態の変化により、介護保険の利用・住み替えなどの多くの場面でご

家族(保証人様)との連絡や相談が必要になります。ご入居者や施設と疎遠になっているご家族等への急な相談では、なかなか理解や協力を得る事ができませんので、この一年間はご家族(保証人様)との情報共有を大切にしてきました。ご入居者に変化が見られた際には、その都度ご家族(保証人様)へ連絡・報告し、必要時は面会をお願いしました。また、入居がスムーズに行えるよう、入居待機者との密な連絡と年一回のアンケート調査の実施にて状態把握に努め、入居が滞ることが無いよう努めました。

4. 職員のスキルアップに向けて

ケアハウスに携わって日の浅い職員2名ですが、積極的に研修へ参加してスキルアップにつなげる事ができました。次年度も積極的に研修へ参加していきたいと思います。

研修参加実績)

H25.9.6 東北ブロック老人福祉施設研究会

H25.11.11~12 東北ブロック・ユニットケア研究会 2013

H26.2.14 仙台市老施協第 10 回研究発表会

H26.2.20 福祉関係者・市町村担当者のための成年後見制度活用講座

【6】 居宅介護支援 宮城野の里

1. 利用者動向

1) 給付管理数推移

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
給付管理数	136	136	137	121	118	119	108	111	115	114	117	123

※7月、ケアマネ退職による交代、8月人事異動による交代があり、他居宅事業所に引き継いだケースがあります。また、9月に施設入所が多数あったため件数が減少しました。

2) 新規契約推移

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
新規契約者数	7	1	0	1	1	3	4	8	2	0	3	6

[※]新規紹介の経路は、地域包括からがほとんどです。

3) 契約終了理由

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
死亡	2	1		1	1		1	1	2		1	1
入所			1			12		1			1	
要支援											1	1
転居			1		1				1			
居宅変更												1

※契約終了理由は死亡、施設入所がほとんどです。9月は施設入所のため終了となるケースが多数ありま

2. 24 時間体制、電話対応件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件数	16	18	15	12	17	24	19	15	22	22	13	31

※時間外は事業所からの報告やご家族からの連絡、調整などです。

3. 困難事例開始件数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件数		1				1	1				2	1

※サービス受け入れ拒否などの事例です。

4. 職員の異動と田子のまち入居

7月、8月とほぼ同時期に職員の退職と他部署への異動が重なりました。通常より多いご利用者を抱えながら初めて2名の新人を迎えることになり、多忙を極めましたが最大限の努力はしました。

9月には担当していたご利用者のうち12名が開所を迎えた田子のまちに入居され給付管理数が大きく減少しました。後半は少しずつご利用者を増やすことができています。

5. 困難ケース

虐待や、家族との関係が薄い高齢者、ごみ屋敷になっているのに精神疾患でサービスの受け入れが困難な高齢者など、いわゆる困難ケースが増えていると感じます。幸い地域包括支援センターとの連携が密に取れ、また、内部であればサービス提供事業所からの情報も多いため、チームケアで関われていると実感できることが多くあります。もちろん行政との連携も重要です。

また、事業所内でのケース検討会議で情報を共有し、事業所全体でサポート体制が取れているのも、 一人で重い荷を担ぐ感覚にならずに済んでいる要因です。課題は簡単には解決しませんが少しでもご利 用者の声を聞き、思いに寄り添えるように支援していきたいと考えます。

【7】 福田町地域包括支援センター

1. 介護予防プラン利用者動向

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件数	120	118	114	110	116	112	119	121	126	137	134	139
新規	6	4	4	1	5	5	9	7	7	11	3	5
委託	17	17	16	15	18	14	20	17	14	21	16	17

(毎月新規の依頼を受け給付管理数が伸びた。委託件数も増えている。)

2. 相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件数	117	115	47	78	57	86	111	101	116	116	107	115

3. 介護予防の取り組み

- 1)介護予防教室について
 - ① 年間開催数及び参加者について 20回 年間延べ人数:270人 平均参加人数:23人
 - ② 開催場所数及び選定の基準 5か所 シルバーカーを押しても参加可能な地域の集会所
 - ③ 内容 運動:8回 認知:5回 口腔:2回 栄養:1回 こころ:2回 健康:2回 認知症のテーマは全会場で開催し啓発に努めました。
 - ④ 新たな試み 2次予防対象者に対して5回シリーズで運動と口腔の内容で実施し介護予防 の動機づけと元気応援教室の紹介をしました。
- 2) 自主運動サークル支援

3ヶ月に1回4か所のサークルに参加し状況の把握、課題の共有、継続に向けた支援をしました。

3)2次予防事業

対象者へ連絡し元気応援教室の紹介と参加を促し、参加者にはプランを作成し介護予防の取り 組みの動機づけができました。

4)地域活動

町内会のサロン、老人クラブで介護予防の取り組みを実施しました。

4. 包括ケア会議の開催

① 開催回数

3つの小学校区で各2回、全体会議を1回、計7回開催しました。

② 参加団体

高砂地区町内会連合会、第1第3民生委員児童委員協議会、高砂地区社会福祉協議会、高砂老人クラブ連合会、田子市民センター、小鶴老人福祉センター、鶴巻コミュニテイセンター、岡田コミュニテイセンター、グループホームデイジー、セントケア小規模多機能居宅介護、くつろぎデイサービス、ステラパークス仙台、色川内科医院、色川歯科医院、福田町クリニック、東北薬科大病院、宮城野区役所

③ 内容

包括ケアシステムについて説明の後、互助に当たる地域の社会資源について意見交換し地域の課題を共通認識しました。

5. 応急仮設住宅の支援

① 開催回数

4 か所の仮設住宅で茶話会を開催しました。3 か所で隔月開催、1 か所はニーズもあり毎月茶話会を定期開催しました。

② 内容

運動、歌、交流などで体を動かし交流の機会を作りました。また参加者から生活の様子を伺う ことができ、実態把握ができました。

③ 支援のネットワーク

自主運動サークル、福祉委員、ボランテイア、開業医、区役所に協力をいただき支援のネット ワークができました。

6. 包括支援センターの啓発活動と地域のネットワーク構築

① 包括の啓発活動

各町内会のサロン、高老連理事会、民児協定例会など様々な場面で周知に努めました。 広報誌を年3回発行し各町内への回覧と民協や老人クラブへ包括のPRをしました。

② 田子地域防災訓練

田子 10 町内、田子小、田子中、高砂小、田子市民センター、第1 民協などの地域団体の方々と 実行委員会のメンバーとして毎月の実行委員会を経て11 月に合同で防災訓練を実施しました。 各団体、関係機関との関係づくりと各町内会の災害時の対応などの情報収集ができました。

③ 関係団体とのネットワーク構築

田子を愛する住民塾、田子西地区復興住宅にかかわる支援者会議準備会、田子地区避難所運営 マニュアル作成委員会、高砂在宅ケア連絡会、グループホームデイジー推進会議、セントケア 小規模多機能居宅介護推進会議などの会議に参加し関係団体とネットワークを深めました。

Ⅱ. 各部門

【1】 食養部門

1. 嗜好に応える食事について

1) 献立の工夫

洋風のおかずに合わせて主食をパンにしたり、おやつに市販菓子を取り入れたり、新メニューとして、管理栄養士以外が考えた献立を取り入れたり、バリエーションを増やして、ご利用者・ご入居者に喜んでいただくことができました。選択食については、ケアハウスご入居者との普段の会話の中で、食べたい料理を伺い、献立に取り入れました。ご利用者・ご入居者や、食事介助にあたる介護職などとのコミュニケーションを大事にしながら、嗜好にあった献立を、これからも考えていきたいと思います。

2) アンケート調査

ご利用者・ご入居者・ご家族に向けて実施しました。それぞれに違った意見があり、食事をお一人おひとりについて考えていく必要性を感じました。お一人おひとりの要望に対する十分な取り組みは出来ませんでしたので、次年度の課題として、取り組んでいきたいと思います。

3) 個別対応

ご飯・麺・パンなど主食になるものは全て嫌い、茄子・卵・ウインナー・さきいか程度しか食べることが出来ない、という方がショートをご利用になりました。ご本人の意向や、ご自宅での食生活を尊重し、食べていただける物だけを特別に準備し、お出しすることで、安心して過ごして頂くことができました。

在宅で生活している高齢者の方々は、その方の様々な生活環境の違い(介護者の高齢化・経済力)等で、偏った食生活を、長年続けている方もいらっしゃいます。「食生活の変化・食事が口に合わない」というのは、暮らしの中の大きな変化であり、それは、居心地の悪さ・不安に繋がります。その様な方々にも、安心して暮らしていただけるよう、お一人おひとりのご自宅での食生活に目を向け、美味しいと感じて頂ける食事を提供していきたいと思います。

2. 食形態について

「介護食」については、対象の方のご利用がなかったこともあり、取り組みを一旦中止しましたが、 今年度は、果実調味料の「ヴィネッタ」を使用し「柔らか食」に取り組みました。

3. 宮城野の里全体での取り組み

居宅・包括・デイ・ショート・ケアハウス・ヘルパーなど全職員対象の全体会議にて「美味しい食事・楽しい食事とは」をテーマに、他部署・多職種によるグループディスカッションを行いました。ご利用者・ご家族・自分・自分の家族・専門職…様々な視点で意見を出し合い「人は、自分(の好み・体調・気分)に合った「料理・環境」が揃うと「美味しい・楽しい」と感じるのだ」という結論の基、宮城野の里はこれを目指すのだと確認し合いました。

ショート・デイの会議には管理栄養士も出席し、委員会とも協力しながら具体策を検討しました。初めに取り組んだのは「適時・適温」で、ショート・デイ各食堂内での炊飯、味噌汁の盛り付けにて、炊きたてのご飯と熱々の味噌汁を、食べて頂けるようになりました。ショートでは塗のお盆に変更し、器の配置、ご利用者の「食べたい時間」にも配慮できるようになりました。デイでは、お米とぎがご利用者の役割として定着しました。

今年度は「自前の厨房でも、24 時間お一人おひとりの希望に合わせた食事の提供は、工夫次第で可能である」という事も、会議の中で確認できました。「ここのご飯はいつもおいしい」「塩梅がいい」との感想を頂けることが多くなりましたが、まだ、集団給食を思わせる「配膳車」「保温庫」「おかずの取り分け」など、未解決の課題が沢山ありますので「美味しい・楽しい食事」への取り組みを、次年度も継続していきます。

4. 今年度の行事食

月	行事名	献立
4	観桜会	山菜炊き込みご飯、海老と帆立のかき揚げ、彩り茶碗蒸し、山海胡麻味噌和え、
4	既 俊云	桜ゼリー、清汁
5	新緑食事会	太巻き、海老の磯部揚げ、白魚と筍卵とじ、もずく酢、二色ゼリー、清汁
6	宮城野寿司開店	握りたてお寿司の食べ放題
7	七夕会	ツナの炊き込みご飯、そぼろ豆腐、小松菜のじゃこ梅浸し、さつま芋と南瓜の
1	しク云	クリーム、茶そば汁
8	ビアパーティー	焼き鳥、帆立のバター焼き、海老塩焼き 他
0	お盆	おはぎ、そぼろ煮、キュウリもみ、おくずがけ
9	敬老の祝い膳	赤飯、お刺身の五点盛り、カニ入り南瓜饅頭、茶碗蒸し、杏仁豆腐、清汁
10	芋煮会	おにぎり、芋煮汁、卵焼き、一夜漬け、梨
11	秋刀魚炭火焼大会	秋刀魚炭火焼き、ゆかり御飯、柿、けんちん汁
11	宮城野寿司開店	握りたてお寿司の食べ放題
10	カリコーコム	ロールパン、ハッシュドビーフ、じゃがたら煮、キャベツサラダ、リンゴの豆
12	クリスマス会	腐クリーム、コーンスープ
1	お正月	お雑煮、あんこ餅、手作りのおせち料理(鰤の照り焼き、五目かまぼこ、紅白

		なます、のし鳥松風焼き、厚焼き玉子、有頭海老酒煮、黒豆、数の子、文化巻
		き、カニクリームコロッケ)
	本 左入	しらすご飯、刺身の盛り合わせ、カニ真丈磯部揚げ、茶碗蒸し、マジックゼリ
	新年会	一、三色茶そば
0	何什 女マ 10	ちらし寿司、独活の黄身酢かけ、蕗の甘辛炒め、アサリの吸い物、甘酒、ひな
3	雛祭り	あられ

【2】 医務部門

1. 取り組みについて

1) 嘱託医、主治医、他職種との連携

ご利用者・ご入居者が、安全に介護・生活支援サービスを受けられる様、嘱託医とは 2 ヶ月毎の 医務会議・週 1 回の定期来所時に、主治医とは必要時に連絡して連携を図ることができました。また、今年度は、他部署・他職種との合同会議を開催する等、各サービスの問題点・課題について協働で取り組む体制を作ることが出来ました。次年度もこの体制を柔軟に活用しつつ、関係者間の連携を強め、質向上に努めたいと思います。

2)機能訓練

① デイIの個別機能訓練

介護職と合同でプロジェクト会議を開催し、充実に向け検討を重ねましたが、ご利用者の希望や ご自宅での暮らしぶりの把握や、それに合わせたメニューの検討などがまだ不十分です。今年度の 課題を整理し、改善に向けて取り組んでいきたいと思います。

② デイⅡ・ショートの機能訓練

今年度は、介護職中心の取り組みでしたが、次年度は、より看護職・機能訓練指導員としての専門性を活かし、他職種と協力しながら、ご自宅での暮らし方に合わせた日常動作の訓練や、季節行事・レクリェーション・趣味活動などの楽しみの中で、機能低下を防いで、よりお元気な状態でお帰り頂けるよう、取り組んでいきたいと思います。

3)薬の管理について

薬を分ける看護職とは別の看護職によるダブルチェックを初め、看護職・介護職へのマニュアル の周知・徹底により、誤薬事故の発生を防ぐことができました。

4)職員研修

① 医務職員の学習会

ご利用者・ご入居者の状態を的確に判断し、適切なケアとアドバイスができるよう、医務会議に続けて学習会を開催しました。体制上の問題から外部研修にはあまり参加できませんでした。次年度も、ご利用者・ご家族・関係者から「信頼される看護職」であるために、必要な事は何かを考えながら、知識・技術の習得に励みたいと思います。

② 施設全体の学習会

緊急時、急変時の対応、必要な医学知識、感染防止対策などについて、全体・個別講習、マニュアル訓練など、それぞれ効果的な研修形態にて実施することができました。

2. 医務職員の体制について

9月に田子のまちに看護職 1名が異動になり、その補充が間に合わず、医務業務の抜本的な見直しや、福田町デイサービスセンター I の個別機能訓練 I 加算の算定中止が必要になりました。しかし、それらの課題を前向きに捉え、解決に向け取り組むことで、他部署・多職種間で話し合う場面や協力し合う場面が増え、施設全体の団結を強めるきっかけになりました。

【3】 事務管理部門

今年度の事務管理部門の取り組みとしては、職員一人一人と経営を結びつける役割にしても、施設の 顔としての役割にしても、目指している水準には達していません。こうした役割は、来年度以降も変わ らず担っていくため、継続的に取り組みを強化していきます。

1、介護実践と経営

各事業所との打ち合わせを行って予算を作成することができました。しかし、補正予算作成時には、事業所との打ち合わせが行えませんでした。次年度は補正時にも、しっかりと事業所との打ち合わせを行う必要性があります。また、経営報告を全職会議で行って、現状の経営状況を知ってもらうことができましたが、次年度はどうすれば予算を達成できるのかなど、提案できるような報告を行えるようにします。

2、修繕計画

事業所から月次報告で修繕必要箇所を挙げてもらうことで、補正予算に反映させることができました。次年度は、計画的に修繕を行うため修繕計画をリスト化し、しっかりと執行するとともに、 随時更新していくようにします。

3、接遇

施設の顔としてふさわしい対応が出来る様、接遇・マナーについて学習し、各自向上に努めました。次年度は、よりよい接遇・マナーを行えるように、お互いに声掛けあって、高めていけるようにします。

4、実務

事務実務の内容を理解して、効率化を図ることで、処理能力の向上につながりました。次年度は 事務員同士の連携を深め、情報の共有をしっかりと行っていきます。そして、日々の業務と介護実 践のつながりを、より深く理解するようにします。また、施設内事業や制度の学習を行い、要求に 合った事業所へ、スムーズにつなげるようにします。

5、各種運動

ジャンボリー、国会要請、原発集会、平和について考える交流会など各種運動に参加することで、 知識を深め、運動の重要性を理解することができました。また、一部ですが全職会議で職員に報告 することができました。次年度も、積極的に運動に参加し、その報告をホームページや広報誌など に掲載してもらうことも検討していきます。

Ⅲ. 各委員会

【1】 地域連携・ボランティア委員会

1) ボランティアの受け入れ

閉鎖的な施設にならないようにと、積極的にボランティア募集を行ってきましたが、新規のボランティアさんの定着率は、低かったように思います。長年続けて下さっている方々は、定期的に来て下さいましたが、より多くのボランティアさんに来て頂き、長くお付き合いさせて頂くためには、職員がボランティアについてもっと学習し、来て頂く側としての配慮・心配りが出来るようになることや、ボランティアさんの希望と、各事業所のニーズを具体的に把握し、一致させることが必要なのだと気付きました。そして、このことを、この委員会が職員に対し、伝えていかなければならないのだと思っています。

- ① 今年度新規ボランティア登録者数:3名
- ② 定期的に活動して下さっている方々の活動内容・人数

活動内容	喫茶	掃除	民謡	傾聴	大正琴	受付	合計
人数	6	1	4	4	1	3	19

2) 地域の子どもたち・学生さんとの交流

地域の2か所の保育園から定期的な訪問がありました。小学校や中学校・高校などとの交流も図ることができ、ご利用者・ご入居者に喜んで頂くことができました。

3) 地域との連携

宮城野の里の名前は、地域の方に大分知られています。しかし、職員が地域に出て、直接見たり、知ろうしたりすることが少なかったように思います。次年度は受け身では無く、直接出て、見て、知るという活動に取り組んでいきたいと思います。

【2】 広報委員会

「地域の方々へ宮城野の里の情報を発信していく」を目的に、取り組んできました。

1) 広報誌について

宮城野の里7事業所の紹介、職員研修会や家族懇談会の報告、地域との交流など宮城野の里全体の取り組みや、工房歩歩、喫茶田園、喫茶ひだまりの紹介記事、ボランティア募集記事などを掲載してきました。他の広報紙なども参考にしながら、デザインや内容なども工夫して、内容の充実化に努めました。

2) ホームページ・パンフレットについて

ホームページやパンフレットの充実も目標にしていましたが、完成させることができませんでした。 次年度は完成に向け、計画的に取り組んでいきたいと思います。

【3】 食事委員会

1) 献立について

ショートでは、以前より要望があったパン食を、今年度から始めることが出来ました。

2) 食形態について

食形態変更時など、情報共有を円滑に行うことで、滞りなく、ショート・デイ・ケアハウス併用の ご利用者・ご入居者の食形態を、統一していくことができました。

3) 食事アンケートについて

アンケートは計画通り実施出来ましたが、要望に対する取り組みが不十分でした。次年度は、できるところから、随時取り組んでいきたいと思います。

4) 選択食について

日曜日のお昼の選択食、月1回の選択食を提供することが出来、ご入居者・ご利用者の楽しみになりました。次年度は、お総菜パンなどの選択食の取り組みを、検討していきたいと思います。

5) ショート・デイでの取り組みについて

全て厨房で行っていた調理のうち、御飯の炊飯・味噌汁の盛り付けを、各サービス事業所の食堂で行えるようになりました。初めは慌ただしさがありましたが、だんだん慣れ、ご飯の炊ける様子がご利用者にも伝わり、炊き立てで温かく美味しいと好評でした。

次年度は、おかずの盛り付けなどにも、取り組んでいきたいと思います。

6) 食器について

デイ・ショートの5)の取り組みに合わせて、料理に合う、より美味しく見える器の購入を検討していましたが、予定していたおかずなどの盛り付けまで進めず、器の購入もできませんでした。次年度の取り組みとして検討していきたいと思います。

【4】 入浴委員会

「ご利用者に、清潔で、安全で、楽しい入浴サービスを提供する環境作りを行う」ことを目的に活動してきました。

- 1) 両事業所間での情報交換・ケアの統一
 - ① 取り組み

どちらの事業所も利用されている方の入浴方法について、情報交換を行ってきました。委員は、 それらの内容を各事業所へ持ち帰り、事業所会議などで伝達し、実際のケアに反映させられるよう に努めてきました。

② 今後の課題

併用利用されているご利用者の希望・こだわり・リズムなどについて、それぞれの情報を持ち寄り、ケアの統一を図ることで、より安心で快適な入浴サービスを提供できるようにしていきたいと思います。

2) より安全で清潔な環境作り

① 取り組み

不要な物の処分や、整理整頓をすすめたことにより、以前は脱衣室に置けなかった、ショートステイのバスタオル類が置けるようになり、また、ショートステイのご利用者に対し、脱衣室の化粧台前でのドライヤーがけも、出来るようになりました。カビが発生し易かった排水溝については、両事業所間で「掃除する日」を分担していたのを「掃除する部分」の分担に変更したことで、清潔保持・掃除時間の短縮・負担軽減につなげることができました。

② 今後の課題

処置道具の置き場所、肌に優しいシャンプー、脱衣室の設え、BGM のバリエーションを増やすことなどについて、さらに検討していきたいと思います。

【5】排泄委員会

「ご利用者に快適な排泄をして頂くために、排泄に関する知識の向上やマニュアル改善を行う。トイレの環境整備等を考える。」を目的に、デイ・ショート間で協力して取り組んできました。

- 1)「デイ、ショートのトイレの環境整備」
 - ① 取り組み

壁に花のシールステッカーを貼って空間を明るくし、また、匂いが気になる時に使用できるようにスプレー型の消臭剤を置くようにしました。

② 今後の課題

トイレ内に発生しているカビ対策や、トイレで使用している老朽化している物品(ゴミ箱、カーテン等)の購入、寄付で頂いたパッドの使い道や整理の仕方などについて検討していきたいと思います。

- 2)「勉強会、事業所間で情報交換」
 - ① デイとショートでの情報交換や勉強会

パットの価格や種類、感染予防法や、病気の種類・症状等の勉強会を行いました。また、両サービスを併用されているご利用者の、排泄の方法やケアについて、両事業所間で情報交換を行いました。

② マニュアルの見直し

言葉の表現や、わかりにくい部分について見直し、修正しました。

③ 今後の課題

併用ご利用者への排泄ケアに関する検討や、排泄ケアに関する学習を両事業所間で深めていく事により、良質なケアを統一してできるようにしていきたいと思います。

【6】 事故防止委員会

- 1)活動内容について
 - ① マニュアル検討

施設内事故(昼間帯・夜間帯・認知症高齢者の徘徊等による行方不明の場合)について検討を行いました。

② 事故報告検討

事故報告書について、事故詳細報告書にある原因分析・再発防止策が重要ですが、その重要な報告が遅れがちになっていることから、検討を行いました。速報部分については、関係部署へすぐ電話等で連絡することとし、早急に原因分析・再発防止策の検討が行われるよう、速報と詳細に分かれていた事故報告書を一本化しました。

③ 苦情報告検討

苦情も事故であるという認識を持ち、サービスの向上につながるような苦情報告書にしていく為、 検討を開始しました。

2) 事故件数

- ① 仙台市に届けた件数:3件
- ② 受診件数:5件
- ③ 事故内容・件数 (宮城野の里7事業所一年間の集計)

内容	転倒	転落	誤薬誤配	火傷	異食 誤飲	行方 不明	紛失	破損	骨折	介護中 のけが	原因が特定 できないけが	他	合計
件数	47	11	4	1	4	1	1	2	3	17	24	25	140

3) 苦情件数

48件(うち第三者苦情処理委員との話し合い1件)(苦情のヒヤリ・はっと:13件)

【7】 感染予防委員会

1) おしぼりについて

平成 25 年 3 月の『高齢者福祉施設における感染対策マニュアル』の中に、「おしぼりを保温庫に入れておくと、細菌が増殖、拡大するおそれがあり、使い捨てのおしぼりを使用することが望ましいといえる」との情報があった為、デイサービスとショートステイで、紙おしぼりの試用を開始しました。その結果、特にご利用者からの不満の声などは上がらなかったので、9 月に全てのおしぼりを、紙おしぼりに変更しました。

2) 感染症予防の学習会

① 食中毒の予防

阿部管理栄養士が講師になり、全職会議内で実施しました。

② インフルエンザの予防 職場ごとに学習会を実施しました。

③ ノロウィルスの予防

全職会議でマニュアルの確認を行った後、特に、吐物の処理の仕方については、実際に対応できる様、各職場で職員個別にマニュアル訓練を実施しました。

ショートご利用中の方 1 名が感染性胃腸炎との診断を受けましたが、蔓延を防止することができました。

④ 結核・肝炎の予防

各マニュアルの確認を行い、結核予防については、マニュアルの検討も行いました。

3) 会議開催

委員会のメンバーの変更、委員長の交代もあり、上半期は定期開催できませんでしたが、8月以降 は、全職会議の後の定期開催ができるようになりました。

【8】 身体拘束・虐待防止委員会

- 1) 諸事情により、委員会自体が 2 回しか開催できず、予定していた下記の取り組みができませんでした。
 - ① 身体拘束のマニュアルの職員への周知徹底
 - ② 外部講師を招いての学習会の計画
- 2) 次年度の課題・方針

今年度実施できなかった下記について取り組んでいきたいと思います。

- ① 身体拘束のマニュアル周知徹底の学習会開催・内部の管理者への講師依頼
- ② 高齢者虐待についての学習会開催・外部の講師依頼

【9】 安全運転委員会

マニュアルの作成、事故時のフローチャート、事故の検討を行いました。

1)マニュアルの作成

以前のものを引用しつつ、より実態のあった手順の見直しを行い、改訂しました。

2) 車両事故時のフローチャート

車両事故を起こして焦っているときでも、一目見て手順通りに行えるものを念頭に、フローチャートを作成しました。次年度は全車両へ、常に携帯させたいと思います。

3) 車両事故の検討

委員会開催の間で起こった事故の原因を分析し、対応を検討しました。

【10】 危機管理委員会

1) マニュアルの改訂

現在の危機管理マニュアルについて、委員会として討議し、整理、改訂を行いました。 その結果、地震や津波についての「防災マニュアル」を新たに整備する必要があるという結論に至り ました。また、送迎中に地震や津波に遭遇した場合を想定し、「ハザードマップ」も併せて、整備する ことにしました。

2)「防災マニュアル」の整備

十符風の音の「防災マニュアル」を参考にし、宮城野の里の条件下での「防災マニュアル (案)」を作成しました。各職場での討議も促し「防災マニュアル (案)」を完成させ、職責会議に

提起しました。

3)「ハザードマップ」の作成

宮城野の里の送迎範囲である、仙台市、多賀城市が発行している「ハザードマップ」を参考にして、 送迎車に車載できるよう「ハザードマップ」を完成させ、職責会議に提起しました。職責会議での 承認後、各送迎車に車載する予定です。

4) 今後の課題

- ① マニュアルの討議は進めましたが、それを職員へ周知するには至らなかったので、今後の課題とします。
- ② 地震や津波を想定した避難訓練の計画・実施が必要であると思いますので、施設に提案していきたいと思います。

【11】 社会保障委員会

1)委員会組織

新たに職員を迎え、第3水曜日に定例開催してきました。

2) 学習

① 委員の学習

毎回の会議の中で、「明日をひらく社会保障」を1章ごとに委員が持ち回りでレポートし、社会保障の歴史や現状を学ぶことが出来ました。難しかったとの声も出ており、仕事を始めて間もない職員にも分かりやすい社会保障の学習も必要だと感じました。

② 学習会

委員会の始動が 7 月であり、委員内での学習を中心として行ったため、学習会を開催することはできませんでした。今後、職員全体に向けた学習会を開催し、社会保障活動の意義を全職員へ広げていきたいと考えています。

3)署名

全職会議等での提起・声掛けを行い、職場内でも委員が呼びかけを行いながら、署名用紙を回覧しました。目標数には届いていないものの、別紙の通り署名を集めることが出来ました。目標を達成するためには、請求書に署名用紙を同封するなどして、ご利用者にも署名してもらえるような働きかけもしていきたいと思います。

4) 各種運動

① 原水禁世界大会

原水禁世界大会に職員を派遣することはできませんでしたが、来年度こそ派遣できるように、財 政活動等の取り組みを強めています。

② カンパカレー

例年1回しか行っていなかった、カンパカレーの財政活動ですが、今年度は計画を立てて実施し、 チラシや看板も作成しました。下記の通りのカンパを集めることが出来ました。

5) 社保活動への参加

委員も含め、原発集会へ2名、平和活動交流集会へ3名の職員が参加するなど、社会保障活動に職

員を派遣してきました。原発集会に参加した職員からは、「『来てくれてありがとう』『これからもよろしくね』など福島の人たちに沢山声をかけられて、胸を打たれた。ともに声を上げていかねばと思った。」などの声が聴かれました。

6) 歩歩の商品の販売

歩歩のクリスマス商品を販売し、下記の通りのカンパを集めることが出来ました。

	のグリスマス間面を販売し、下記の通りのガンハを集めることが出来 活動内容	
4月	カンパカレー(35 食 17,500 円売上 累計額 48,841 円(前年度より	 継続))
- / •	署名 生活保護基準引き下げに反対する署名	25 筆
	消費税増税の中止を求める請願	42 筆
5月	署名 障害者福祉についての新たな法制に関する請願	54 筆
	憲法違反の「推進法」を廃止し社会保障の拡充を求める請願	21 筆
	保険薬局への無料低額診療事業に関する請願署名	80 筆
6月	カンパカレー(48 食 24,000 円売上 累計額 68,602 円)	
	署名 憲法違反の「推進法」を廃止し社会保障の拡充を求める請願	28 筆
	「保険で良い歯科医療」の実現を求める請願署名	39 筆
7月	会議(事業計画確認、今後の活動方針の討議、社保委員会の必要性は	こついて)
8月	会議 (明日をひらく社会保障第1章学習、福祉ウェーブの説明)	
9月		
10月	会議(明日をひらく社会保障第2章学習、カンパカレーへの係わりた	方の討議)
	カンパカレーの案内チラシ、看板の作製	
	カンパカレー(42 食 21,000 円売上 累計額 16,032 円)	
11 月	会議(明日をひらく社会保障第3章学習、上半期総括)	
	カンパカレー(54 食 27,300 円売上 累計額 43,332 円)	
	署名 憲法をいかし、安心の医療・介護を求める国会請願署名	29 筆
	介護保険制度の改悪中止を求める請願署名	10 筆
12月	会議(明日をひらく社会保障第4章、DVD あぶない憲法のはなし学	習)
	歩歩クリスマス商品財活(8,760 円売上)	
	署名 憲法をいかし、安心の医療・介護を求める国会請願署名	17 筆
	介護保険制度の改悪中止を求める請願署名	14 筆
1月	会議(明日をひらく社会保障第5章)	
	カンパカレー(53 食 26,800 円売上 累計額 62,643 円)	
	署名 憲法違反の特定秘密保護法の撤廃を求める請願署名	54 筆
	介護保険制度の改悪中止を求める請願署名	41 筆
2月	会議(明日をひらく社会保障第6章、総括・方針)	
	カンパカレー(45 食 22,500 円売上 累計額 79,569 円)	
3月	会議(明日をひらく社会保障第 7,8 章、総括・方針)	
	カンパカレー(59 食 29,600 円売上 累計額 103,951 円)	

【12】 在宅連携委員会

『宮城野の里7事業所の連携で、事業所の枠組みを超えて「地域に求められる施設づくりのために」広い視野から宮城野の里全体を考え、具体的提案をしていく。』を目的に、計6回委員会を開催し、毎回1事業所から課題を出して検討しました。

- 1)各事業所の枠組みを超えて、課題検討ができました。ショートステイと包括が、提案出来ずに終わってしまったので、次年度に行っていきたいと思います。
- 2) 委員会で提案した課題に向け、事業所で取り組んだ結果、改善され、情報共有と連携が取りやすい 環境ができました。
- 3) 事業所間で、連携の取りやすさに差があったように感じていましたが、今委員会で意見交換することで、その差が縮まりました。
- 4) 平常時は所属する事業所のことだけ考えていましたが、今委員会は、宮城野の里職員として考え意見交換ができ、視野が広がりました。
- 5) 今年度は、地域に向けた討議ができなかったので、次年度は、取り組んでいきたいと思います。

【13】 労働安全衛生委員会

1)会議

上半期は急な職員の異動などにより安定した活動が出来なかった為、10月の会議で目標などを再確認しました。その後は定期開催することができました。

2) 休憩時間

前年度の調査結果で、包括、居宅、ショートの休憩の取り方を改善する必要があるとわかり、今年 度の課題となっていましたが、その後の改善状況などについて把握することができませんでした。 次年度取り組んでいきたいと思います。

3) サービス残業、持ち帰り残業

アンケートを実施した結果、サービス残業については「していない」との回答がほとんどでした。 しかし、今回のアンケートは、記名によるものでしたので、実態が十分に把握できなかった可能性 があります。次年度は調査方法についても、検討していきたいと思います。

4) 介護現場での職場環境チェック

8月までは担当職員が一人で実施していましたが、産業医師からのアドバイスにより、10月からは、月に1回、複数職員で実施する方法に変更しました。チェックだけに終わらないように、改善が必要なところは、随時、各職場の職責者に伝え、早急な改善を依頼しましたが、それぞれの事情により、なかなか改善されない部分もありました。

5) メンタルヘルス

2月の全職会議にて、専門医に講師依頼し、メンタルヘルスについての学習会を開催しました。ストレスについて学び、心身ともに健康であることの大切さを、職員に周知することができました。

介護老人福祉施設 十符・風の音

2012 年度の年末にかけて、職員の退職が相次ぎ、職場全体が疲弊したことを受け、2013 年度は職場環境を整えることを柱として取り組んで参りました。各職場に係長を配置したことで、施設運営についての理解を現場の職員にも伝えることができたのではないかと感じています。しかし、実際には年度途中に異動があり、ショートの相談員が相次いで変更になり稼働率にかなり影響を及ぼしました。また、特養の相談員の変更もありました。特養自体は高齢化や重度化が進み、今年度は施設での看取りも増加しています。次の入居者を決めるために随時入居判定委員会を開催していますが、順位の高い方は医療依存度も高く、自治体との関係や施設の介護力等を総合的に勘案すると単純に決定することができない事実があり、空床を埋めるまである程度の期間を要する結果となっています。

また、今年度は相次いで特養開所があり、歩いて 5 分圏内にも特養 100 床、ショート 20 床、デイ併設 の施設が開所しています。営業区域内にはデイサービスも増加し、こちらも稼働率に大きな影響を受けました。居宅支援事業所のケアマネジャーも 1 名体制で、当施設のサービス調整のうえで利用率に影響を与えたことも事実だと考えています。取組と実績がうまくかみ合わず、収支予算とかけ離れた結果となりました。

建物自体も 10 年目を迎え、修繕箇所も増えています。光熱費の値上がりや消費税増税等、ますます支 出が増えると予想はしていますが、それでもその幅をどれ位最小限にできるのか、稼働率や人件費等、 経営的側面でシビアに考えていかなければなりません。

2014 年度は風の音が開所して 10 年目の節目を迎えます。施設をご利用されているお客様やそのご家族に喜ばれ、職員が自らの能力を存分に発揮し、そして地域に愛される施設となるよう努力して参りたいと思います。

I 事業規模

1) 長期入居

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
定員	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
述利用者可能数	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,400	1,550
利用者実績数	1,455	1,447	1,370	1,500	1,539	1,481	1,445	1,468	1,490	1,495	1,372	1,503
利用者/日	48.5	46.7	45.7	48.4	49.6	49.4	46.6	48.9	48.1	48.2	49.0	48.5
利用率	97.0%	93.4%	91.3%	96.8%	99.3%	98.7%	93.2%	97.9%	96.1%	96.5%	98.0%	97.0%
収入	19,147,149	18,909,500	18,025,437	19,738,563	21,991,326	20,730,780	19,988,230	20,103,453	20,774,859	19,309,605	17,821,768	19,191,281
利用者実数	48.5	46.7	45.7	48.4	49.6	49.4	49	48.9	48.1	48.2	49	48.5

2) ショートステイ (短期入所)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
述利用者可能数	600	620	600	620	620	600	620	600	620	620	560	620
利用者実績数	541	604	546	577	562	543	549	510	528	524	500	579
利用者/日	18.0	19.5	18.2	18.6	18.1	18.1	17.7	17.0	17.0	16.9	17.9	18.7
利用率	90.2%	97.4%	91.0%	93.1%	90.6%	90.5%	88.5%	85.0%	85.2%	84.5%	89.3%	93.4%
収入	6,991,000	7,770,460	7,019,300	7,277,100	7,170,040	6,876,150	6,964,810	6,481,270	6,696,110	6,795,450	6,371,860	7,488,900
利用者実数	77	82	82	90	84	78	79	81	76	73	80	81

3) デイサービスセンター木の実(通所介護)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	26	27	25	27	27	25	27	26	25	25	24	26
定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
述利用者可能数	780	810	750	810	810	750	810	780	750	750	720	780
利用者実績数	716	720	630	696	701	669	703	696	619	611	577	638
利用者/日	27.5	26.7	25.2	25.8	26.0	26.8	26.0	26.8	24.8	24.4	24.0	24.5
利用率	91.8%	88.9%	84.0%	85.9%	86.5%	89.2%	86.8%	89.2%	82.5%	81.5%	80.1%	81.8%
収入	7,434,892	7,175,385	6,356,540	6,996,880	7,023,420	6,621,905	6,847,995	6,933,475	6,097,830	6,132,100	5,664,085	6,349,415
利用者実数	78	82	82	79	81	80	77	78	72	75	73	75

4) 居宅介護支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数(予防)	57(8)	57(8)	37(3)	34(3)	37(3)	35(3)	34(3)	34(3)	35(3)	36(3)	33(3)	36(3)
収入	620,200	589,000	430,700	387,700	407,700	395,700	390,700	387,700	401,700	418,200	374,700	437,700

5) 予算対比

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予算合計収入	34,089,000	35,236,000	33,864,000	35,266,000	35,064,000	33,829,000	35,646,000	33,522,000	34,948,000	34,949,000	31,572,000	35,204,000
実績合計収入	34,193,241	34,444,345	31,831,977	34,400,243	36,592,486	34,624,535	34,191,735	33,905,898	33,970,499	32,655,355	30,232,413	33,467,296
合計差額	104,241	-791,655	-2,032,023	-865,757	1,528,486	795,535	-1,454,265	383,898	-977,501	-2,293,645	-1,339,587	-1,736,704

Ⅱ 各事業所報告

1 長期入居

昨年度は17名の方が風の音から退居されました。ターミナルケアの取り組みをさせて頂いた方々、突然ご逝去された方々、他施設へ転居された方とのお別れがありました。その度に後悔しない支援のあり方を考えさせられました。また、今年度は同ユニットでのご逝去が続きました。いつもそばに寄り添い、お手伝いをさせて頂いてきた職員にとっては、これまで以上に辛い1年になりました。その中でもお別れに際してご家族様から温かいお言葉を頂戴したり、ボランティアとして風の音に訪れて下さるお気持ちが、職員を励まし、より一層「頑張らないと!」という気持ちにさせて頂きました。ご家族様の存在は私たちにとっても、大きな存在と実感した1年でした。

そして今年度取り組んできた『働きやすい職場作り』。各職場に職責者を配置したことで、今起きている課題を把握し、解決のためのルートを明確にすることに努めて参りました。解決後の振り返りも忘れずに行い多職種に投げかけることで、風の音を利用するすべての方へこれまでとは違った各部署の良さが発揮されたと思います。また、ユニットケアを推進する中で、自分自身のスキルを高めるべく、進んで研修に参加している姿が多く見られたことには成長を感じずにはいられません。施設をご利用する方々へのより良い支援に繋がるよう、次年度も自己研鑚に励んで欲しいと思います。

終焉期を過ごす場所として風の音を選んで下さる入居者様、ご家族様が増えました。ターミナルケア について、これまで以上に重要な位置づけとし、学ぶ機会を増やしていきます。

2013年度入居者状況

2014年3月31日現在

【要介護度別】

要介護 5	要介護 4	要介護 3	要介護 2	要介護 1	平均介護度
20名	13名	12名	3名	1名	4.00

【保険者別】

塩釜市	多賀城市	利府町	七ヶ浜町	松島町	その他
15名	7名	13 名	6名	5名	3名

【性别·平均年齢】

	人数	平均年齢	最少年齢	最高年齢
男性	11 名	78.9 歳	65 歳	91 歳
女性	39名	86 歳	64 歳	105 歳
計	50名	84.4 歳	-	-

【入退居状況】

	4月	5月	6月	7 月	8月	9月
入居	1	-	4	1	1	-
踞	2	2	1	-	-	2
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
八居	1	3	-	3	1	2
踞	1	1	3	1	2	1

1-1 施設ケアマネ

前年度から、ご家族参加でのサービス担当者会議を開催してきました。ご家族参加は、前年度5割程度でしたが、今年度に入り平均8割以上【表1参照】のご参加を頂いております。前年度は問題がある事に対してどのように解決していくのか、5W1Hの内容が主でしたが、今年度からは24時間シートを用い、日々の生活を時間軸に沿ってご家族へ説明することができました。会議の中では、ご自宅での出来事や現在の生活の意向や好みを確認する機会にもなり、より深く入居者様を知る機会となりました。また、入居者様の病状の進行等により生活が変化した時には、随時ご家族へ連絡をさせて頂いておりますが、今後はサービス担当者会議の場所で、再度ご家族へお伝えする場にもしていきたいと思います。

半年毎のサービス担当者会議へご家族参加のご協力をお願いしてきましたが、ご家族の面会も多くあり、その都度相談、報告も行える状況です。次年度としましては状態変化のある時を除き、1年に1度のご家族参加を目標に開催して参りたいと思います。

【表 1】

	サービス担当者会議開催回数	家族参加人数
H24 年度	70 件	43 件
H25 年度	76 件	61 件

施設で看取りを希望された方は、前年度4名でしたが、今年度は8名となっています。【表2参照】病院で最期を迎えるより、慣れ親しんだ環境で最期を迎えたいとご希望される方が増加傾向にあります。 看取り介護に移行するにあたっては、事前の説明や経過をしっかりお伝えし、同意を頂いた上で風の音での最期の時間を穏やかに過ごして頂けるよう、環境整備も合わせ取り組みました。私たちは入居者様、 ご家族の思いに寄り添いながら働かせて頂いております。

【表 2】

	1年間で亡くなられた方	看取り介護へ移行された方
H24 年度	9名	4名
H25 年度	17名	8名

自治体からの委託業務である認定調査については、今年度は1件行っています。今後も業務委託は継続し、依頼があった際には実施していきます。

また、利府町の施設ケアマネジャー連絡会にも参加しました。各施設のケアマネジャーから情報やアドバイスを頂く機会となり、今後も自己研鑽の場として参加していきたいと思います。

1-2 機能訓練

- ①一人ひとりに添った個別機能訓練計画書の作成については、医務と協力し、個別機能訓練計画書の見直しと作成を行いました。今後より分かりやすく、使いやすい計画書の見直しを検討していきたいと思います。
- ②機能訓練の実施にあたっては、ユニット会議やサービス担当者会議へ参加し、情報の共有や連携が徐々にできるようになってきました。今後も継続していけるよう他職種との連携を図りたいと思います。
- ③事故防止との関係性については、日常生活の姿勢、転倒、滑落予防等、機能訓練担当者として関わりをもってきました。ユニット会議やサービス担当者会議以外でも、日常での気付きを大切にし、一人ひとりへの声掛けやユニット職員との話し合いで行えるように努めました。
- ④職員のスキルアップについては、福祉用具の活用と機能訓練向上のための学習会への参加に努めました。福祉用具については、福祉用具業者の協力で導入・活用されてきています。今後も担当の職員との話し合いを重ねて安全な活用がされるようにしていきたいと思います。学習会後の実践では、座位の姿勢が改善した方もおり、成果を感じることができました。今後も学習会等へ積極的に参加し、学んだ事を「入居者様の自立した生活」に結び付けられるようにしていきたいと思います。

1-3 ユニットリーダー

今年度、リーダーが途中で変更になったユニットもあり、リーダーの役割を再確認できた1年となっています。取り組みの中では、ユニット運営のみならず、施設経営も考える事を目標にしてきました。その中で節電、節水をリーダー中心に行い、他の職員にも声掛けしながら施設全体で取り組んできました。小さなことではありますが継続して行っていきたいと思います。また、会議の中でプロジェクトチームを作り、マニュアル班と勉強会班に分かれて取り組んできました。

マニュアル班では、現在のマニュアル綴りの見直しを行いました。目次を作成し全ユニットのマニュアル管理の統一を行いました。マニュアルが更新されていてもユニットによって古いものが綴られていたり統一できてないことがありました。今回見直しを行ったことで、施設内での統一したマニュアル綴りが完成しました。

勉強会班では、食事委員会の役割を担うリーダーが中心となり、7月には大塚製薬さんを招いて脱水についての勉強会を行いました。脱水についての勉強会は毎年行っていますが、改めて学ぶことで脱水の恐ろしさ、水分を効果的にとる方法など知ることができました。8月には食事についての勉強会を行いま

した。食形態も様々ある中で、実際に職員が盛り付けを行い、よりおいしく見える盛り付け方法等を楽しく学習する機会となりました。また、衛生管理マニュアルの確認を行い、安全に食事を提供できるよう、職員1人1人が確認を行うことができました。

また、下半期には 24Hシートについて勉強会を開催し、それをもとに原本自体を変更するか、各職種で 記入してもらうか等、来年度へつながる話し合いをすることもできました。

リーダー会議の運営では、ユニット報告で終わってしまうことが多く、ユニット間の課題等を解決していくことができませんでした。下半期には事前にレジメに各ユニット報告を記入してから会議に参加することをルール化し、会議の時間削減につながり、勉強会を開催する等、時間を有効に使うことができました。

来年度は、会議の中でユニットが抱えている悩み等も話し合える時間を作り、他のユニットにも目を 配りながら施設全体が足並みを揃え、より良い支援につなげていけるよう活動していきたいと思います。

1-4 サブリーダー

①新人職員ヘケア方針の勉強会を開催について

新人職員を対象に施設理念と基本的なケアに関する勉強会を開催しています。今回はより多くの職員に周知させるべく、ケア方針についてパワーポイントを作成しました。食事、排泄、睡眠、入浴は生活の中でかかせない重要なものです。日々のケアの中で迷いが生じる時や立ち止まってしまう時に、職員全員が同じ方向に進めるよう、風の音の施設理念とケア方針を用い、振り返ることができるようにしていきたいと思います。

②体も心もあたたまる入浴を行うために

入居者様の安全と気持ちよく入浴していただくために入浴マニュアルの見直し、更新を行ってきました。入居者様の ADL や体調は日々変化していきます。入居者様に合わせた入浴方法を職員全員が周知できるよう、個別データ表の見直しも定期的に行っていきます。

③心地よい環境つくりについて

毎月のサブリーダー会議終了後、物品倉庫の清掃と整理整頓を行いました。職員が気持ち良く使える、使いたい時にすぐに取り出せる、そんな相手を思いやる気持ちで整理整頓ができたと思います。下半期は、各ユニットの設えに関して話合いを行いました。各ユニットのトイレやお風呂場等を見て回り、所属外の職員から意見やアドバイスをもらい、それをユニットで検討しています。検討後の変化について会議で発表を行い、ユニット毎の入居者に合わせた環境づくりが行われたのではないかと思います。入居者様の心地良さを追求しながら学ぶことができました。

④リーダー会議へ参加します。

今年度は毎月担当を決め、リーダー会議へ参加しました。次期リーダーとして責任や心の準備、リーダーの思いを聞くことができ、貴重な体験となりました。リーダーを補佐する、支えるだけでなく、職員が働きやすい環境を整えることを学びました。

5月	ケア指針の見直し	10月	外部研修へ参加
6月	\downarrow	11 月	ケア指針の勉強会準備
7月	入浴マニュアルの見直し	12月	ケア指針の勉強会、特浴大掃除
8月	\downarrow	1月	ユニットの設えについて

			•
9月	\downarrow	2月	\downarrow

1-5 月見囲

「相手を思いやる気持ちを大切に・・・」「気づき」を大切に、その人らしさを見つけていきます。入居者様とご家族様の時間を大切にしていきます。職員同士、思いやりを大切にしていきます。を目標に掲げ1年間取り組んできました。

①4月に新しい職員を加えスタートした今年度。1名の入居者様とのお別れや、体調管理が困難な入居者様への対応等、ケアに対し戸惑いながらも「何ができるのか?」「これで良かったのか?」と自分たちのケアを考える1年でもありました。

言われる前に声を掛ける、何気ない一言を大切に接してきましたが、職員にゆとりが見られない時もあり、入居者様に言われてから気づいてしまったり、口に出して言えない入居者様に対して、小さな変化を見逃してしまったことが多かったように思います。その結果ヒヤリハットや事故に繋がってしまったケースもありました。

また、年度途中での異動やリーダー・サブリーダーの変更と、職員の顔ぶれが数か月毎に変わり「せっかく名前と顔を覚えたのに…」「あなたはいなくならないよね?」「また変わるの?」といった声も多く聞かれ、入居者様やご家族様に不安な想いを抱かせてしまった年でもありました。何より職員自身が戸惑ってしまい、入居者様・ご家族様への配慮が足らず、安心して頂ける環境を作れず反省しております。また、基本の「ほう・れん・そう」が出来ておらず、ケアの統一・情報の共有など課題が残る結果となりました。新メンバーで再度入居者様・ご家族様との関わりを深め、より良いケアができよう努めています。

そんな中でもご家族が行事や外出に多く参加して頂けたことや、「是非月見囲に」とボランティアに来て下さった方々が多かったことはとてもありがたいことでした。来年度も「月見囲に来たい。ほっとする。」とどなたにも思って頂けるユニットを目指していきたいです。

②会議・行事について

毎回行事への参加呼びかけを行い、ご家族の参加も多かった事は入居者様はもちろん、職員にとっても嬉しい時間となりました。月見囲だけでなく、協力ユニットとの合同行事もあり、ご近所さんとの新たな交流の場を設ける事ができたように思えます。

個別外出についても積極的に行う事が出来ました。外出する方に偏りが出てしまったところがあった ので、来年度は皆様と外出できるよう企画をしていきたいと思います。

ユニット会議が月 1 回行いました。他職種の会議参加も見られ、多くの意見を直接聞くことで、すぐにケアに活かす事が出来ました。違う視点からの意見もあり、普段のケアを見直す機会となり、職員にとっても良い刺激となりました。協力ユニット会議は実施できず、来年度は協力体制を見直す為にも開催していきたいと思います。

1-6 日向囲

①職員同士意見を言い合い、聞けるユニットへ

今年度は前期に職員の入れ替わりやリーダーの交代があり、最初はコミュニケーションがなかなか上 手く図れず、職員間で思っていることや感じていることを伝えることが上手くできなかったと思います。 そのため下半期は意見の言いやすい環境作りに特化し取り組んできました。言いやすい関係性も大切ですが、聞く立場の重要性というものを改めて感じたので、その部分を大切にしながら入居者様の生活がより良くなるような職場議論を進めていきたいと思います。

②情報の伝達方法・正確化を図り、ご家族へも伝達できる体制をつくりについて

職員間の情報伝達(申し送り等)に関しては、本当に課題の残る一年間だったと感じます。申し送り ノートへの記入忘れや見落とし等、あたり前のことがあたり前に出来なかったことが原因だと強く感じ ています。しかし、冬場に入居者様の体調変化が集中し、重要事項の申し送りが多くありましたが、そ の中でミスが少なかったという部分では、少しですがユニット内で情報伝達の部分で成長が見られたと 自負しています。

ご家族への情報伝達の体制に関しては、今年度沢山のご迷惑をかけてしまったと反省しています。職員一人ひとりが情報の重要性を認識し、ご家族様へ解りやすく説明できるよう努力が必要だと感じています。要点をまとめ、他職種からの情報等も含めお伝えできるよう、ユニット全職員が伝達能力を向上させていけるようにしたいと思います。

③各職員、目標を持つ

今年度は職員個人の目標設定が曖昧になってしまい、入居者様の生活が単調になってしまたのではないかと感じています。職員個人の目標があり、ユニットの目標が設定出来るのだと感じた一年でもあるので、来年度は職員個人の目標を設定し、そこから入居者様の生活がより良くなっていくように考え、実践していきたいと思います。又、いかなる場合でも何が入居者様の生活にとってプラスになるのかを一番に考えていきたいと思います。

④会議・行事等の取り組み

今年度はユニット会議で内容の深い話が出来なかったと感じています。その中には上記で反省した通り職員間のコミュニケーションや情報の伝達方法、そして肝心な会議の進行も改善しなくてはいけないと感じています。行事に関しては、毎月開催を目標にしましたが達成できませんでした。今後季節の行事、希望に沿った個別外出を企画実行し、入居者様に喜んで頂きたいと考えています。

1-7 汐囲

① 「今」の思いに心から向き合う

忙しさから入居者様の「今」の思いに向き合うということがなかなかできず、入居者様に不安な思いをさせてしまったのではないかと思います。自分から「こうしたい」と伝えられる方もいますが、伝えることのできない方に対して、職員がその方の思いをくみ取り、また言える環境を整えていかなければと思います。その中でも、ご家族の希望も伺いながら入居者様の「思い」を大切にしていきたいと思います。職員の異動もあり入居者様、ご家族にも不安な思いを抱かせてしまった1年であったようにも思います。その中で気兼ねなくお話をできる環境を作っていくのが今後の課題の1つです。

② ケアの明確化・ケアの統一性を図る

自分が行ったケアについて他職員に声掛けをしていくよう試みましたが、できている時とできていない時の差が大きくあり、ケアが重複してしまったこともありました。小さなことでも言葉で伝えること、そして職員同士がもう一度確認することを常に意識し、同じ方向に向かって良いケアに繋げていきたいと思います。

③ 他職種も含め、職員同士の思いや考え方に向き合う

毎月のユニット会議は、職員一人一人の意見や思いを確認する時間にもなりました。各々が感じた疑問について抱え込まないよう、他職種を含め話し合い、解決することができたように思います。医療的な面で疑問に思ったこと等、すぐに確認でき、迅速に次のケアにも活かされたと思います。

④会議・行事等の取り組みについて

ユニット会議については毎月開催することができましたが、協力ユニット会議はなかなか行うことができませんでした。必要に応じて開催していきたいと思います。

行事については毎月季節の催し物を開催することができ、入居者様の笑顔を多くみることができました。ご家族やボランティアさんにも協力して頂く機会も多く、関係性・交流も深められた1年になったのではないかと思います。個別外出については積極的に行う事が出来なかったので、今後入居者様の希望を伺い、ご家族にご協力頂きながら、一緒に外出できたらと思います。

1-8 椿囲

①入居者とご家族と"今だからできること""日々笑顔になれること"を考える

入居者様が今何をしたいのか?を一番に考え、その想いに少しずつですが、気付くことが出来る様になってきました。そんな中、一日の業務に追われてしまうことがあり、椿囲の入居者様の生活のペースを乱してしまったことも事実です。また、ご家族・入居者様に気を遣わせてしまい「またあとで…忙しそうだから」と遠慮させてしまう雰囲気を作ってしまいました。今だから伝えたいこと、明日になってしまってはその想いの実現が出来なくなってしまうかもしれません。日々のことだから…といって見逃してしまわないように、入居者様の小さなサインに、職員全員が気付くことが出来るように配慮したいと思います。入居者様・職員も変わらず2年目を迎え、顔なじみになってきました。ちょっとした世間話からでも、今後は気兼ねなくお話出来る環境を整えて行きます。「椿囲に来ると落ち着く、ここに来ることが一番好きだ」と直接お話を伺ったこともあり、職員の励みや意欲向上に繋がった一年でもあったと思います。

②他職種と連携し情報共有に努める

他職種との連携では、毎月の会議に医務が参加し、日々のケアや医療面からの指示やアドバイスをもらう機会となりました。入居者様のケアに対して、職員が不安に感じていることも会議内で解決する事が出来たのではないかと思います。ご家族には面会の際やメールを利用し、継続して状態報告を行ってきました。しかし、日々の小さな出来事や変化に対し、他職種に相談せず、自己判断してしまったケースがありました。申し送りは口頭のみの報告ではなく、ノートに記入し、二重三重の確認を行い、職員個人やユニットだけが"知っている"ことのないように努めていきます。

③統一したケアと業務分担について

勤務内に終わらなかった、洗濯物や食器の片づけ、掃除といった直接のケア以外で、残業してまでも "自分の仕事"として終わらせていく事が目立ちました。勤務内に作業出来るように、職員同士で声掛けをし、優先順位をつけ、仕事の引き継ぎを行っていきます。

その中で、報告書の提出遅れなどもみられた為、反省する点は反省し、来年度に活かして行きたいと思います。

1-9 桜囲

①入居者様、ご家族、職員が互いに話しやすい環境を築く

*入居者様とご家族

リビングやお部屋、家族水入らずの時間を過ごす場所はその方によって様々です。大切な時間を心地よく過ごしていただけるよう心掛けてきました。

*入居者様と職員

ささいな関わりや会話も大切にしてきた一方で、ゆっくりと一緒に過ごす時間がそれほどなかったような気がします。その方と過ごす一瞬一瞬を大切しながら、思いをくみ取り、どのような関わりが大切か考えることを忘れずにしていきたいと思います。

*ご家族と職員

日々の入居者様の状態報告はもちろん、世間話など、ひとつひとつの会話を大切にしてきました。 今年度は5名の方がご逝去されています。最期の場所として風の音を選んで下さったご家族と、入居 者様がその方らしい暮らしを過ごしていただけるよう一緒に考えてきました。 "桜に入れて良かった です"が何よりのお言葉です。ご家族の支えの大切さを改めて痛感した1年でした。

②職員同士 "言う・聞く・伝える・考える"を大切にする

ユニット会議ではもちろん、その場で気になることがあった時には意見を交わし合い、共に考える時間を大切にしてきました。昨年度よりも全体の力が向上したように思います。現状に満足せずに、全員が意見を出し合える関係作りに努めていきたいです。

③ "気付き"を他職種と共有する

日々の変化に早急に気付き、他職種と相談を行いながら対応を行いました。特に体調が悪くなられた方へは、 気持ち良く過ごしていただくこと を第一に考え、様々な職種が専門性を持ちその方と向き合い、個々に合わせたケアを行うことができました。

④会議の定期開催について

毎月第2月曜日13:30から開催しました。医務や栄養士の参加もあり、他職種との連携を大切にすることができたと思います。協力ユニット会議は、必要時に開催してきました。しかし、下半期では職員体制が整わず、なかなか開催できませんでした。その分、ノートや口頭での申し送りを通し、互いのユニットの様子を把握することに努めました。

1-10 紅葉囲

2013年度の目標として「みんなが日々、笑顔になれるユニットを心がけます」をもとに、

- ① 一人ひとりの時間を大切にし、「今できること」を行っていきます。
- ② ご家族様との連絡、関係を深めます。
- ③ 職員一人ひとりが、意見を言い、指摘しあえる関係を作ります。

という3つの内容を加え、今年度は取り組んできました。

『笑顔』を日々心がけてきましたが、職員自身が忙しさを理由に笑顔を忘れ、バタバタと動いてしま うこともあり、入居者様、ご家族様に不安を与えてしまったこともあったと思います。入居者様の笑顔 を引き出すためには、職員自身がゆとりを持ち、笑顔で接することを常に心がけでいきたいと思います。 ユニットのリビングの設えに関しては、新しい入居者様も増え、常に考え変更してきましたが、環境の 変化により、入居者様への不安や音に敏感に感じることなど、来年度は一人ひとりの状態を考えながら 変更していきます。

- ①今年度はターミナルの方がおり、「今できること」をその都度、考えながら行うことができました。また、外出や行事など入居者様からの「やりたいこと」を伺いながら実行することができましたが、全入 居者様が対象になった訳ではありませんでした。また、新しい職員も増え、入居者様の生活の中での些 細な変化に気づくことができていなかったことも反省点として残っています。
- ②今年度は、職員一人ひとりがご家族様とお話しをする機会が多くあった 1 年だったと感じました。ご家族様からも入居者様のお話しを色々と聞く事ができ、体調の変化や変更についても必ず連絡することができました。また、今回ご家族様と一緒に外出をした入居者様もおり、なかなか会えないご家族様との外出では入居者様の新たな一面を知ることができ、ご家族との時間の大切さを実感することができました。
- ③今年度は新しい職員も増え、入れ替わりがあった 1 年となりました。職員一人ひとりが会議の場で意見を言えなかったり、互いに指摘し合える関係ができていませんでした。一人ひとりが責任を持ち、良いこと悪いことを会議で話あいながら、職員同士コミュニケーションを取っていきたいと思います。会議は 13:30 からとし、勤務内で会議を行うことができました。看護師、栄養士も参加し、医療や栄養面での検討を行うことができました。また、協力ユニットでは申し送りなど十分に行えるよう、定期的に協力ユニット会議の必要性を感じました。

2 ショートステイ

2-1 相談員業務

- ・今年度は稼働率 98%を目標にしてきました。しかし利用者様の体調変化によるキャンセル、それに伴うキャンセル埋めにも対応、調整をしてきましたが、達成には至らない結果になりました。
- ・利用者様一人一人に配慮したお部屋を用意できるよう努めてきました。麻痺や疾患などを考え、利用 中快適に過ごして頂けるようにお部屋作りができたと思います。
- ・ご家族様、ケアマネジャーとの情報交換を大切にし、状態変化や体調不良へ対応できるよう努めてきましたが。しかし救急搬送や、状態の急変等、日頃注意をしていても防ぎきれない事もありました。今後の継続課題として検討を行います。
- ・利用者様、ご家族、ケアマネジャーからの意見を真摯に受け止め、利用者様を常に中心に考えご家族様やケアマネジャーの声を大切に向き合ってきました。また、信頼を失うような言動に十分注意し、関係性の構築を目指してきました。しかし、職員の情報交換不足、申し送りの見落としなどから、要望に応えなれないケースもあり、ご家族様からお叱りを頂いた事も多々あり、職員一同反省をすることがありました。来年度は今以上に利用して頂く方々の声を大切に対応していきます。
- ・事故・緊急時の対応については、ショートステイ利用にあたり、事前にご家族様へリスクについて十分な説明を行いました。実調時にお伝えし、承諾・納得して頂けるよう努めてきました。その際、緊急時の連絡が取れるよう、ご家族やケアマネジャーとの協力体制を整えることが急務と感じています。
- ・利用者様の急な変化に伴い、施設の緊急対応マニュアルの見直しと、実際に起きた場合、冷静に判断・

対応ができるよう勉強会に参加しました。直接説明を受け、実技を行うことで身をもって体験し覚える 事ができました。特に新人職員を中心に参加することが出来、今後、体調変化や急変などが起こった時 にどう対応していくか、どう自分が動くか等、シミュレーションもできました。

2-2 山吹

2 今年度は①忘れ物を減らす。②基本に立ち返りケアを行う。③選ばれるショートステイ山吹を目指す。 0.3 点を目標に掲げて取り組んできました。

①毎月のユニット会議で忘れ物の原因と対策の話し合いを行い、忘れ物を減らすよう話し合いました。 2013 年度は 20 件の忘れ物がありました。どの忘れ物も職員による確認ミスが原因でした。2012 年度より 2 件減らすことが出来ましたが、忘れ物ゼロの月が 8 月 1 回しかありませんでした。確認を人任せにしてしまったことが原因だと思います。



- ②新人職員が加わり、新しい体制になり利用者様との関わりや他職種との連携がうまく行えず、申し送りの引継ぎがしっかり行われていませんでした。また、利用者様やご家族に不安な思いをさせてしまい、今年度苦情が多かった原因の一つです。より良いケアを行う為にも協力ユニット、他職種との連携・情報の共有を図っていく大切さがわかりました。
- ③忙しさを理由に掃除が疎かになったり、使用した服や布団がたたまずそのままなど利用者様に不便な思いをさせてしまったと思います。少し開いたままのドアやトイレのドアも開けたままになっていることもありました。ユニット会議で話し合いを行い、利用者様に気持ち良く過ごして頂けるように職員に意識づけをしてきました。

2 会議・行事について

- ・毎月1回ユニット会議を開催するを目標に掲げていましたが、12月は職員の体調不良のためユニット会議が出来ませんでした。職員から意見を出しやすい会議づくりを目標に取り組んできました。その分、会議時間が長くなってしまいましたが、新人職員からも意見がたくさん出ました。
- ・毎月1回 行事を行ってきました。お菓子作りや芋煮、鍋パーティー、利府イオンに行きランチとお買い物ツアー、花水木と合同で花火大会や初詣などの行事を企画してきました。どれも利用者様に喜んで頂きました。伺い書を作成する段階で、医務や食養に連絡がうまく伝わっていなかった月もあったので、来年度しっかり伝わるように確認していきたいと思います。
- ・ショート会議について、初めはリーダー・サブ・相談員とショート会議を行ってきました。7月に医務

も交えてショート会議の開催を行っています。しかし、申し送りの不十分さや情報の共有を考え、10月から全員参加のショート会議を行ってきました。皆が参加することで、ショート職員であることの自覚や利用者様の情報など意見交換が出来ました。苦情や事故などの原因対策の意見を出し合うことが出来ました。

2-3 花水木

1 今年度は①質の高いサービスを提供します。②24 時間シートの見直しを行います。③忘れ物ゼロを 目指します。以上の3つの目標のもとに行ってきました。

①利用者様が安心、安全に過ごしていただくためには、私達が質の高いサービスを提供することと捉えてケアを行ってきました。利用者様は私達のお客様であり、かつ人生の先輩であることを念頭に日々のケアにあたって参りましたが、職員の声掛けに対して、苦情を頂いてしまいました。声掛けの際の言葉遣い、態度はユニット会議で検討し注意してきましたが、このようなことになりとても残念です。利用者様やご家族より苦情を頂かない様に、常日頃より職員同士が注意出来る環境作りを行っていきます。②新人職員が加わり、利用者様の名前、特徴を覚えることに時間を要し、なかなか見直しを行うことが出来ていませんでした。10月になって各担当の割り振りを行い、新規作成も含め見直しが出来ました。しかし、ケアの見直し、気付きがまだまだ不足している部分もあるため、学習が必要だと感じています。③忘れ物をしないようにと、会議でその都度伝達してきましたが、0件だったのは8月のみだけでした。伝達ミス、確認ミスがほとんどの理由でした。他職員が確認しているはずだ!と思い込み、確認を怠ったケースもありました。報告・連絡・相談の徹底をはかり、忘れ物をなくすようにしていきます。

2 会議・行事について

- ・毎月1回ユニット会議を開催してきました。伝えること、話し合うことが多く、予定の時間をオーバーすることが多々ありました。内容を絞り込まず会議を行ったことが原因と思われます。今後は、要点を絞り込み、決まった時間内に会議を終わらせるよう努めていきたいと思います。
- ・毎月1回、担当を決め行事を行ってきました。鍋パーティー、お菓子作り、クリスマス会、山吹との合同での花火大会、初詣などを開催してきました。利用者様の笑顔、満足された表情がみられたことは、とても良かったと思います。来年度も、山吹との合同の行事も含め、喜んで頂ける行事を催したいと思います。

3 デイサービスセンター 木の実

安定した稼働率を維持することを目指してきましたが、入院や長期欠席が多く、また新規の利用者様 が少なかったことが影響しました。

選ばれるデイサービスにするため、目標の一つでもある利用者様が自ら選んで頂ける活動を模索してきましたが、真新しい活動の提供ができず内容の充実には至りませんでした。

また、職員の入れ替わりもあり介護力の低下や情報共有の不足等、利用者様にご不便をおかけした部分がとても多かったです。そのため、下半期は職員の介護技術の向上と統一したケアが提供できるよう、会議の場での介護内容の見直しや申し送りノートを活用し情報の共有に努めてきました。

職場会議では、利用者様の現状に合わせたケアを提供するために、一人でも多くの職員が意見を出せるように事前に内容を伝え、自分の考えをまとめてきてもらうようにしました。職員も少しずつケアに

対する自信を持ち始めたこともあり、意見も多く出せるようになりました。まだまだ課題は多いですが、 利用者様が安全に、安心してご利用して頂けるよう利用者様やご家族の思いも受け止めながら、他職種、 関係機関と連携して取り組んでいきます。

機能訓練では専任者を中心に個別プログラムの内容を充実させ、個別リハビリの要望に応えられるよう努めてきました。

今年度は、施設内の散歩に参加される方も増え、目的地に到達され認定証を受け取る方も多くなりました。お互い、「散歩に行こう」と声を掛け合い一緒にお話をしながら歩く姿を目にする機会も増えました。目的をもって取り組むことが、楽しみや意欲の向上につながると実感しました。

今年度は、ご家族からのご助言も多く頂きました。しかし、一部の職員だけでとどめてしまい、職員 一人一人に内容の申し送りを徹底していませんでした。ご助言を真摯受け止めて、対応できるように職 員全員が意識して取り組めるよう努めていきます。

昨年度に引き続き、提供時間の変更による職員の超過勤務の問題もあります。今後も引き続き業務内 容の見直しと工夫により超過勤務の削減を目指していきたいと思います。

最後に、目標の稼働率を達成できなかったことを振り返り、一番の反省としては「選ばれるデイサービス」になるために、新たな取り組みや働きかけの不足が大きかったと思っています。次年度は生活機能の向上を視野に入れながら、より具体的な取り組みを形にしていきたいです。

お一人おひとりの「やってみたい」を引き出しながら、「木の実は楽しい」「また来たい」と利用者様から言われるように職員一同努力していきたいと思います。

4 居宅介護支援事業

2名体制により居宅介護支援事業所として運営してきましたが、4月に職員異動があり新任の担当者へ利用者様の引継ぎを行いました。5月末にて職員退職に伴い、1名体制のため予防については利府町地域包括支援センターへ引き継ぎを行い、介護については6名の方を当事業所で継続させて頂き、体制上担当できない方については他事業所へ紹介、引き継ぎを行っております。利用者様については、引き続き滞りなくサービス利用頂いております。

ひとり居宅となり、介護に不安を抱える方や医療度の高い方等様々な方に接する中で、ケアマネジャーの仕事はアセスメントし課題分析、事業所等々との連絡調整によりサービス利用いただくことがメインのようになっていますが、プランに見えない、解決に繋がらないところの『傾聴』がプラン作成より如何に大切かを再考する機会にもなりました。いつも利用者様に寄り添った支援を心がけております。

10月に全国民医連学術・運動交流会へケアマネジャーの取り組みについて参加させて頂きました。たくさんの方の前で自分が担当している方の支援状況についてお話しする機会がないので不安感もありましたが、質問や同調の声が自信につながりました。また、地域包括ケアについてのお話や多職種の方と交流を図る機会ともなり大変勉強になりました。

これまで定例で行われていた居宅会議及び事例検討については 6 月より 1 名体制のため行われていないので、勉強会や研修会に参加することでケアマネジャーとしての質の向上、地域包括ケアシステムについての情報収集や他事業所ケアマネジャーとの情報交換の機会として、今後も継続していきたいと思います。

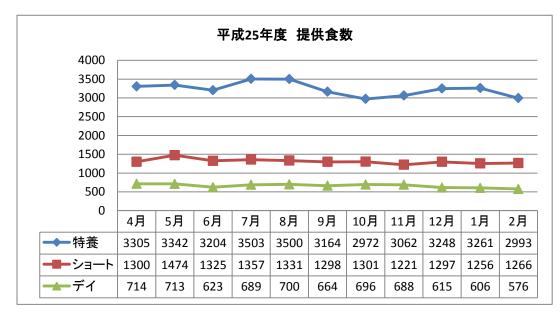
介護保険制度は2000年4月に施行されましたが、走りながらのこの制度はなかなか立ち止まって見直

すことができない中、4月には消費増税により各介護報酬も改定されます。改定の中で独居や高齢者世帯の方に対して制度を説明してもなかなか理解頂くのは難しい状況です。年金が減らされ社会保障の負担増の中でサービス利用される方も大変ですが、おひとり・おひとりの『声』を大切に安心、安全にご自宅での生活を送ることができるように今後も支援させて頂きたいと思います。

Ⅲ 各部署報告

1 食養部門

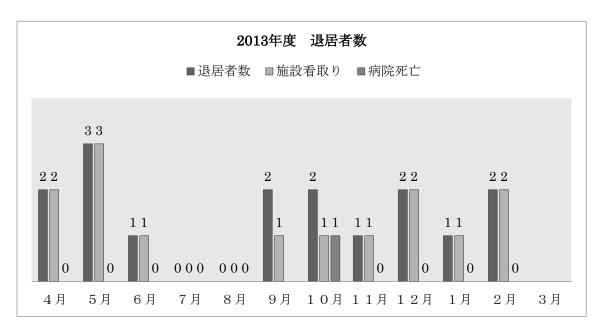
- ① 経口維持加算については、歯科医師と看護師と連携し必要帳票類は整備しましたが、医師へ嚥下造 影検査の必要性を理解して頂けるような環境整備がうまくいかず、積極的な加算算定には至りませ んでした。経口移行食加算についても 180 日で経管栄養から経口摂取に移行できるような対象者は おらず、お楽しみ程度の経口摂取を希望される方が多いため、算定するまでには至りませんでした。
- ② 多職種との連携については、状態変化のあった入居者様の家族も交えたサービス担当者会議を有効に活用することで情報の共有ができ、その方の嗜好や食習慣にあった食形態での提供や栄養補助食品を検討することができました。その結果、早い段階で栄養状態の低下防止を図ることが出来ました。
- ③ 献立については食材の重複、味付けや組み合わせなど随時セントラルキッチンに改善要望をあげていますが、なかなか反映されるまでには至りませんでした。来年度は献立会議の開催など意見交換の場を設け、働きかけていきたいと思います。また、手作りだけでなく完全調理済みの冷蔵食材なども利用してイベント食を企画するなど、飽き防止に努めていきたいと思います。
- ④ 毎月の食養会議では作業に関わる疑問を解決し工程の見直しをかけることで、仕分けや配膳ミス、食中毒防止につながりました。今後はもっと活発な意見交換の場として、より円滑に作業が行えるよう体制を整えていきたいと思います。また、定期的に食中毒や衛生に関する勉強会を行いました。
- ⑤ 各研修・勉強会に栄養士、調理員が参加しました。栄養士だけでなく調理員も積極的に参加し、厨 房業務に反映できるよう努めます。



2 医務部門

①24 時間シートの関わりや看護師のユニット担当制について、昨年度後半より取り組みを開始し、担当 ユニット会議やサービス担当者会議へ参加する事により、他職種との情報共有が行え、担当ユニットの 相談窓口にもなり、以前よりも入居者様一人ひとりの細かな状態の理解が進みました。今後もユニット 担当制を継続し、他職種との情報共有がスムーズに行えるように取り組んでいきたいと思います。

- ②機能訓練担当看護師と協力し、機能訓練計画書や機能訓練評価表等の書類を以前よりもわかりやすく、使いやすくなるように改善書してきました。今後も随時、見直しをかけ充実したものができるように取り組んでいきたいと思います。
- ③薬の誤配、転記ミスについては以前よりも件数は減少しましたが、皆無にはなりませんでした。新たな取り組みとしては、ショートステイ利用者様の前回利用時のとの錠数の確認を行う事により、今までよりも確実な確認作業が出来てきたように思われます。しかし、重複服薬の重大事故もあり、次年度はさらに気を引き締め誤薬事故ゼロへの取り組みを強化したいと思います。
- ④実施記録の充実は、以前からの課題であり、意識して記録を行うようになったと思います。今後も引き続き行えるように取り組みを継続していきます。
- ⑤会議や行事への取り組みは、定期的に医務会議を毎月実施し情報の共有や検討が行えて来ました。委員会やユニット会議にも以前よりは参加でき、参加できない時は事前に情報を提供するように取り組んできました。



*9月の1名は転居のための退居者1名

*87%が施設看取りになっています

3 事務部門

3-1 事務

1.総括

5月より事務職員が1名本部へ異動したことにより、施設長、常勤3名(ボランティアコーディネ

ーター含)の総勢4名で業務を担当しました。

計数管理や職務知識の習得については、目標を意識した取り組みを行えたと思いますが、施設管理や情報共有についてはタイムリーな対応が出来なかった場面もあり、来年度への反省として継続して取り組む必要があります。

また、来年度は風の音開所から 10 周年を迎えます。様々な場面で施設事務職員としての基本に立ち返り、接遇向上の取組や職務能力の自己研鑚、社会保障運動の取組を強めていきたいと思います。 事業計画の目標に対しての進捗状況は以下の通りです。

① 職務知識の習得

総務:毎月法人総務担当者会議を開催し、随時必要な業務知識について学習を行いました。

経理:新会計基準への移行に伴い学習を行いました。

また、民医連統一会計基準推進士講座を受講しました。

② 事務会議の開催

必要な時に随時行ってきました。今年度は3回開催しました。

③ 計数管理(経営のマネジメント)

職責会議にて予算到達状況を報告しています。今年度は利用率の考え方や収入の考え方など わかりやすい説明に心がけて取り組んできました。

また、賞与資金や光熱水費についても周知し、コスト意識について啓蒙しました。

④ 施設管理の整備・構築

来年度 10 周年を迎えるにあたって、各部署より必要な修繕・入替について聞き取りを行い、 来年度当初予算に反映しました。

⑤ 情報の共有化のための施策

サイボウズを活用し事務職員間での情報共有を図りました。

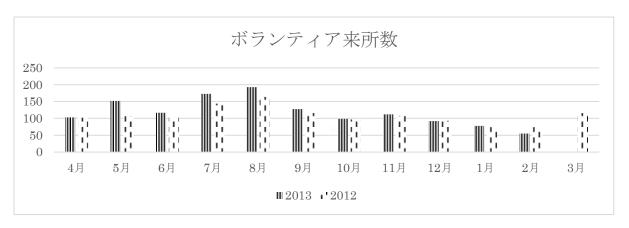
3-2 ボランティアコーディネーター

① 地域への参加

ボランティア委員の協力もあり、地域行事に積極的に参加しました。今年で4年目となり、地域からも「風の音さんがいないと困る」とも言われるようになりました。また、施設内で地域の方を見かけることも多くなっています。今後も地域との関わりを大切にしていきたいと思います。

② ボランティア来所数

今年度は、年間で延べ 1,400 人のボランティアが来所しました。秋から冬にかけては、文化行事や大雪の影響もあり、ボランティアの人数も減少しています。しかし、全体を通しては、年々増えてきており、月平均 116 人ほどのボランティアが来所しています。継続的なボランティアが増えており、入居者と顔見知りの関係も築かれています。



③ おたよりの発行

毎月、葉山町内に"風の音だより"を発行しています。風の音でのイベントや行事をお知らせしています。地域の方からもおたよりに関するお問合せも増えています。

④ 教室の開催

定期的な教室の開催を行なっています。また、書道の作品は展示会へ出展しています。

⑤ イベントの開催

5月	利府吹奏楽団演奏会	7月	陶芸体験教室
			わくわくサイエンス
			風の音体験学習
			伝統芸能体験教室
8月	パン作り教室	9月	利府吹奏楽団演奏会
10月	陶芸体験教室	11月	ベガ号星の観察
			小さな音楽会

[※] イベントを通して、地域の方々と交流を行なっています。

3-3 LSA 部門

1. 事業報告

町営住宅の入居者の入院、退居、入所などの状況が分からず、住んでいない家に訪問することもありました。利府町や地域包括支援センターとの連帯を図り、情報を共有できるように、努めていきたいと思います。

① 定期的な訪問

高齢化に伴い日常生活の重度化もしています。特に1人暮らしの高齢者の場合、地域との関係も 希薄になり、引きこもりやすくなります。また、体調の変化に気づきにくいことがあります。定 期的の訪問し、少しの変化でも気づき、アドバイスが出来るようにしていきたいと思います。

② 時間外の緊急時の対応

緊急時出動回数は、10 件でした。誤報がほとんどでしたが、緊急通報も1件ありました。入居者も年々高齢化しています。通報連絡があっても、本人から病院には行かないと言われることもありました。利府町役場とも今後どのように対応していけばいいのか検討をしていきたいと思います。また、緊急時の対応が円滑に行えるように当直職員を対象に勉強会も開催しています。

③ 会議の開催

年4回開催(地域包括支援センター、長寿社会班)

IV 委員会報告

1 ボランティア委員会

風の音ボランティア理念のもと、勉強会班、地域交流班、交流会とTシャツ作成班の3つのグループに分かれ、活動を行いました。

●勉強会班:5月と1月に勉強会を開催しました。ボランティア理念について勉強会を開催し、グループワークや寸劇を通して、参加した職員にはボランティアさんの思いや接し方について学ぶ機会となりました。しかし職員全体への浸透については課題が残る結果となり、今後の課題として伝達の方法を検討する必要があります。ボランティアの方々が居心地の良さを感じ、継続して来て頂けるよう、受け入れに際して職員の態度や準備についてより強化していきます。

ボランティアの受け入れ体制を学ぶための他施設見学の目標は、委員会内での役割確認や伝達研修が 精一杯で、実施には至りませんでした。

●地域交流班:毎月、町内会の回覧板にて、風の音たよりを発行しています。施設をより知って頂き、地域に根付く活動の一環として行いました。

地域活動では、廃品回収、町内清掃、葉山の夏祭りへ参加し、地域の方々と積極的に交流を図りました。

●交流会とTシャツ作成班:ボランティアTシャツを作成し、地域交流活動で着用しています。一目で「風の音」と認識されやすく、交流を深める一助をなっています。

ボランティア交流会では、山形へ梨狩りドライブを開催し、ボランティアの方々との関係を深めることができました。あまり接することのなかったユニット職員との交流や、ボランティアの方々同士での交流ができ、好評を得ています。

年間活動報告

4月	風の音たより第1号発行	10 月	ボランティア交流会 in 山形
	(トータル発行第 12 号)		風の音たより第7号発行
5月	勉強会	11月	風の音たより第8号発行
	風の音たより第2号発行		廃品回収
6月	葉山清掃	12月	風の音たより第9号発行
	風の音たより第3号発行		
7月	廃品回収	1月	風の音たより第 10 号発行
	風の音たより第4号発行		勉強会
	ボランティアTシャツ完成		
8月	葉山夏祭り	2 月	風の音たより第 11 号発行
	風の音たより第5号発行		
9月	風の音たより第6号発行	3月	風の音たより 12 号発行
	廃品回収 葉山清掃		

2 広報委員会

①年4回の発行を継続します。

広報誌 $^{\circ}$ 風ぐるま $^{\circ}$ を $^{\circ}$ 6 月 (第 $^{\circ}$ 24 号)、9 月 (第 $^{\circ}$ 25 号)、12 月 (第 $^{\circ}$ 26 号)、3 月 (第 $^{\circ}$ 27 号) に発行することができました。しかしながら、予定していた発行日よりも、だいぶ遅れて発行した月もあり、次年度の課題として残りました。

②読者の皆様の知りたい情報を取り入れながら、つい読みたくなるような広報誌、心が "ホッと" するような広報誌を目指します。

毎回全体のテーマを決めて作成に取り組んできました。テーマを決めることで統一感のある内容になったと思います。また、行事や勉強会等の報告では、風の音で行われた活動をお知らせすることができた他に、教室のご案内も載せることで、地域の方々が風の音に足を運んでくれるきっかけに繋げることが出来ました。

③委員会との連携を大切にし、配布作業がスムーズに行えるようにします。

事務所職員の協力もいただきながら、配布作業を行いました。しかし、発行が遅れたことで、配布・発送作業を短い期間で行うことになってしまった月が出てきたり、日程調整が不十分だったせいもあり、少人数の委員で作業を行った月もありました。次年度は委員全員が参加し作業がスムーズに行えるよう、会議の日程だけではなく、発送作業の日程調整も行っていきたいと思います。

2. 会議の開催

- ①内容の検討を発行予定月の2か月前(4月、7月、10月、1月)に開催しました。
- ②進捗報告会議は、発行期間を見て随時開催しました。

3 事故対策・身体拘束廃止検討委員会

今年度は 3 つのプロジェクトチームを核とし、勉強会や捜索訓練の実施、事故やヒヤリハットの検討と報告、事故速報・詳細の新書式作成に取り組みました。

1、事故対策・身体拘束

捜索訓練では、年 2 回の捜索訓練を実施し、参加者からの意見から実施月の見直しや、新たな課題を みつけることができました。よりわかりやすいマニュアル作りにつながるものになると思われます。

身体拘束チームでは、12月に勉強会を実施することができました。日頃のケアを振り返り、入居者様の自由を奪っていないか、BPSDによる周りへの配慮について学びを深めることができたと思います。リスクマネジメントチームでは、ヒヤリハットの集計の内容公開、事故速報・詳細の新書式が完成し12月の実施にむけて、勉強会を開催することができました。ヒヤリハットや事故については、毎月の会議で周知し、施設全体で意識することにつなげられたと思っています。しかし今年度は転倒等の理由で骨折、入院された重大事故が2件報告されています。また誤薬ゼロを目標に掲げ、職場での啓蒙活動等に取り組んできましたが、残念ながら達成することができませんでした。

年度別事故	区分集計	t														
	転倒	転 落 ・ 滑 落	誤嚥		溺 少水 傷		1	暴力	紛失·破損	感染症	無断外出	褥瘡	折・あざ・ 外傷	ざ・外傷原因不明の	そ の 他	計
2013年度	52	64	1	33	0	2	2	1		1	0 5	3	21	63	75	323
2012年度	25	42	3	23	0	0	0	0	-		2 5	-	22	78	45	242
2011年度	52	44	4	29	0	2	1	2	-		3 8	_	19	112	63	339
2010年度	71	61	3	50	0	1	4	5	-		1 14	_	27	232	121	590
2009年度	74	57	3	62	0	2	7	3	-		0 12	_	47	227	50	544
2008年度	44	41	5	88	0	1	1	3	_		3 21	_	34	92	71	404
2007年度	84	52	17	6	0	0	4	0	_		0 14	_	25	48	20	270
前年度比	208.0%	152.4%	33.3% 1	43.5%						0.0	% 100.0%		95.5%	80.8%	166.7%	133.5%
年度別ヒヤ	ツハット	集計														
	転倒	転落・滑落	誤嚥	溺 水	火傷	異食・誤飲	暴力		感染症	無断外出	褥瘡	折・あざ・ 外傷 ・	外 傷 等	そ の 他	計	
2013年度	193	92	6	3	9	6		3	2	29	11	1	31	78	464	
2012年度	160	161		1	3	7		2	2	39	9	1	9	77	489	-1
2011年度	226				6	16		2	2	36	7	1	7	127	616	-
2010年度	326	174	14	1	2	26		3	0	29	0	3	0	77	704	-
2009年度	-	-	-	-	-	-	_		-	-	-	-	-	-	520	-1
前年度比	120.6%	57.1%	50.0%	300.0%	300.0%	85.7%	150.0	% 10	00.0%	74.4%	122.2%	100.0%	344.4%	101.3%	94.9%	

※誤薬・誤配についてはヒヤリハットなく事故として処理しています

2、年間活動内容

月	内容	月	内容
4月	点検 (車椅子)	10 月	点検 (車椅子)
5月	捜索訓練、点検(ベッド)	11月	捜索訓練、点検(ベッド)
6月	点検 (杖、歩行器)	12 月	身体拘束勉強会、点検(杖等)
7月	点検 (手摺)	1月	点検 (手摺)
8月	点検(椅子、テーブル)	2 月	リスク勉強会、点検 (椅子等)
9月	点検(ナースコール)	3月	点検 (ナースコール)

定期的に福祉用具の点検を行うこともリスクマネジメントの一環です。今年も点検の成果として、破損・不具合のある用品について事前に修理することができました。

また、車椅子等の福祉用具の修理については、その都度業者と見積もりをとり随時修理等を行うことができました。

4 感染・褥瘡対策委員会

今年度も感染症グループと褥瘡グループに分かれて活動を行いました。

①感染症グループ

感染チェック表に加え、衛生管理マニュアルチェック表を使用し毎月の委員会で確認を行い、感染症 予防を行っています。今年度は感染チェック表に各項目が出来ているか出来ていないかのチェックに加 えて、新たに出来ていない項目に対して「出来ていないその原因・理由」、「改善策」を検討しています。

委員が中心となり、内部研修の開催し感染症の対応策と実践を交えておう吐物の処理方法を学んでします。

各ユニットでの感染症対策に対する声掛けを続け、インフルエンザやノロウイルスなどが流行する時期も施設内の感染症を予防できました。

②褥瘡グループ

医務や栄養士との連携を図り褥瘡評価表、エアーマット評価基準表を使用し、入居者一人ひとりの身体状態やADLを確認し、リスクを確認しながらマットレスの選択を行っています。低栄養状態の方を確認し、褥瘡になるリスクが高い方を委員全員で周知し、褥瘡ゼロを目指して活動してきましたが、終末期や低栄養状態の方が踵や肘に褥瘡ができてしまった事故があります。同じ事故を繰り返さないように、事故の経緯とその後の経過を確認しながら学んでいます。

外部研修へ参加し学ぶことができました。

5 安全衛生委員会

前年度に続き職員の働きやすい環境づくりを目標に2013年度も活動を行いました。

開催月	内容	対象者
5月	腰痛予防ベルト配布	新入職員
7月	前期健康診断	全職員
11 月	レッツトライヘルス・コミュニケーション勉強会	全職員
1月	後期健康診断、労働防災防止のコンサルティング	夜勤勤務職員
3月	職員セルフチェック	全職員

① 職員健康診の実施

職員の年2回の検診を行い、要精査の職員には医務担当者から受診を勧めました。要精査の職員は概ね受診をしたようで、その後大きく体調を崩す職員はいませんでした。

② アンケート実施や勉強会の開催

職員間の関係性を良好に保つための勉強会を開催しました。参加者は24名で、他職種が職員間での物の伝え方をゲームを通して学びを深められたと感じています。普段話す機会が少ない職員同士ではありますが、伝える側と聞き側がお互いに努力をする必要があることを確認しました。また3月には虐待対策委員会と連携し職員セルフチェックを行いました。前年度と比較し、職員間でのコミュニケーションではだいぶ関係性が良好になってきたと思われます。2013年度力を入れて取り組んだ成果だと思われます。

③ 休憩時間を意識できるよう啓蒙

リーダー会議で休憩時間や残業について説明し、各職場で伝達ルートで周知を図りました。職員面談で休憩や残業についての考え方の確認も行いました。まだ部署毎に差はあるようですが、職員各々が意識を強めるきっかけになったのではないかと感じています。

④ 腰痛予防の取り組み

腰痛発症者はそれ以上悪化しないように、腰痛がない職員は発症しないよう「予防」を念頭に置き、福祉用具の積極的導入を行いました。スライディングボードやシートを購入し、業者を招き各職場の小単位で介助方法の学習会を開催しました。安全な介助は利用者様と職員のお互いにかかる負担を軽減してくれることを実感しています。

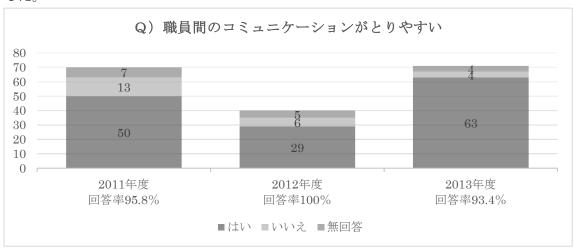
⑤ その他 委員1名が受験し、衛生管理者の資格を取得しました。

7 虐待防止委員会

毎月の職責会議後に短時間ではありましたが開催することができました。原因不明の外傷等の報告はありましたが、その後の環境面やソフト面からの分析を行い、虐待につながるような事案はないと確認しています。

2013年度は特に職員間の関係性に力を注ぎ、取り組んできました。職員面談実施やメンタルヘルスについての勉強会を行い、働きやすい職場づくりに努めました。職員の精神衛生を良好に保つことは、ケアの質に反映されると考えます。良質なケアを行うことで、利用者様が安全に健康でお過ごし頂けるというプラスのスパイラルを作り上げる必要があります。

年度末には安全衛生委員会と協力し、職員のセルフチェックを行いました。年度により参加した職員数の違いはありますが、前年度より働きやすさを感じる職員が増えたことが見える結果になりました。同じ質問に対して2011年度は71%でしたが、2012年度72%、2013年度については88%まで上昇しました。



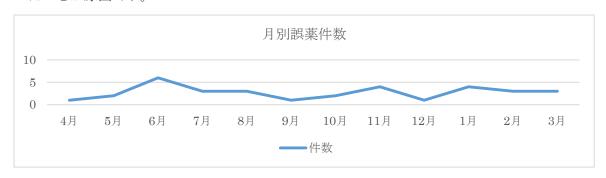
8 誤薬撲滅委員会

毎月の事故対策委員会の報告を受け、誤薬事故について原因分析や対策の進捗状況等の確認を行ってきました。2013年度の誤薬事故は下表のとおりです(2014年3月末現在)

分類	内容	件数
重複投与 (重大事故)	昼食後に朝食後の薬を注入	1件
未服用	床に落ちていた、袋に残っていた、貼付剤忘れ	8件
服用遅れ	服用時間薬忘れ、食前薬忘れ	6件
配薬ミス	減量(増量)せず配薬、下剤の量間違い	5件
準備ミス	経管栄養剤の量	3件
チェック表未記入	配薬チェック忘れ	3件
その他	外出時家族が薬を忘れる	1件
計		27 件

2012 年度比では事故件数は増加する結果となりました。毎年誤薬事故が増加する 5・6 月は誤薬撲滅月間としてスタンプレスでの周知を行いました。また通年事故対策委員会による啓蒙活動やユニット会

議では服薬マニュアルの読み合わせやシミュレーションも行い、誤薬ゼロへの取り組みを行いました。 しかし残念ながら服薬の重大事故が 1 件起きてしまいました。マニュアルが二重三重に守られていなかったことが原因です。



その反面、マニュアルを守っているからこそ、早期に発見することができたり、予防できている事例もありました。各部署でマニュアルの読み合わせや服薬シミュレーションを継続的に行った成果だと思われます。



*2007年度マニュアル逸脱はヒヤリハットとしてカウントしていました

9 社保委員会

1、総括

- ①8月原水禁世界大会へ1名参加を目標とします。 目標どおり1名(武山美咲職員)参加することができました。
- ②署名活動を行います。

内容を学習したうえで署名活動に取り組むことができました。

2013年度取り組んだ主な署名

- ◆医療、介護の負担免除の復活を求める署名
- ◆すべての子どもの権利が保障される保育制度・子育て支援策の実現を求める請願
- ◆原発即時ゼロ こども・いのち・くらしを守る署名
- ◆特定秘密保護法の撤廃を求める請願署名
- ◆介護保険制度の抜本的改善を求める要望書名
- ③委員会財政活動を年4回行います。

職員の協力もあり、目標を超える6回実施することができました。

④法人の社会保障委員会と連携を図り、学習を深めます。

委員会内での学習は一定進めることができましたが、これを職員へ広げていくことが今後の課題だ

⑤主な取り組み

	活動	行動参加
4月	法人社保委員会	
5月	カンパ活動 (炊きこみご飯) 法人社保委員会	国会要請行動(高橋彩)
6月	カンパ活動 (焼きそば) TPP 学習 (DVD 鑑賞) 法人社保委員会	平和行進(佐々木隆)
7月	カンパ活動 (焼きそば) 平和学習 (DVD 鑑賞) 法人社保委員会	原水禁壮行会(武山美咲、鈴木佐枝、佐々木隆)
8月	法人社保委員会	原水禁世界大会(武山美咲)
9月	法人社保委員会	原水禁世界大会報告 (武山美咲)
10月	カンパ活動 (焼きそば) 社会保障改革推進法学習 法人社保委員会	
11月	カンパ活動(歩歩パン販売) 介護保険制度改悪について学習 法人社保委員会	
12 月	カンパ活動 (歩歩クリスマス商品販売) 法人社保委員会	東松島仮設聞き取り調査(佐々木隆)
1月	法人社保委員会 署名学習(特定秘密保護法)	
2月	法人社保委員会 署名学習(原発、障がい者福祉、介護 保険)	平和について考える交流会 (武山美咲、佐々木稔、佐々木隆)

V 要望・苦情に関して

全体で13件の申し入れがありました。

内訳はケアの内容に関わるものが 9 件、請求に関することが 2 件、施設管理・運営に関することが 2 件となっております。

申し入れの 7 割が在宅サービスご利用の方からのものでした。主に職員間の申し送りが不十分で、ご

利用中のご要望に沿うケアが行えなかったことが原因の一つです。

情報の共有は、利用者様の生活に直結するものです。安全安心に過ごして頂くためにも、申し送りのシステムについて再考したいと思います。

デイサービスセンター くりこまの里

2013年度は9月に通常型の定員を25名から30名へと変更しております。定員変更後は利用者の動向は不安定になりましたが、前年度以上の実績を残すことができました。また、通常型はこま・里の2フロアでの対応が確立し、サービスの質の向上が図れました。しかし、まだまだサービス内容の検討が必要です。ご利用者様のニーズを把握し、応えられる個別、小集団でのケアが必要と考えております。

認知症対応型は複数回利用、介護度が高いご利用者様の終了が続き利用率・報酬とも低下しました。 新規のご利用者様の獲得も苦戦しました。長年利用しているご利用者様の認知症の進行もあり、今まで のケアを見直す良い機会となりました。今年度はより専門的なケアが必要と考えております。

I 事業規模

1. 各月ごとの利用者数と収入

1) デイサービス I

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月
営業日数	26	27	25	27	25	25	27	26	25	24	24	26
定員	25	25	25	25	25	30	30	30	30	30	30	30
利用者実績数	496	527	540	634	597	622	677	645	642	605	567	611
利用者/日	19. 1	19. 5	21.6	23. 5	23. 9	24. 9	25. 1	24. 8	25. 7	25. 2	23. 2	23.6
利用率	76. 3	78. 1	86. 4	93. 9	95. 5	82. 9	83. 6	82. 7	85. 6	84. 0	78.8	78. 3
収入 (千円)	5. 140	5. 396	5. 138	5. 721	5. 592	5. 725	6. 283	6. 028	5. 732	5. 558	5. 280	5. 542
利用者実数	66	67	73	73	74	75	77	77	77	78	76	73

2) デイサービスⅡ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2 月	3月
営業日数	25	27	25	27	25	25	27	26	25	24	24	26
定員	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
利用者実績数	219	228	220	209	182	169	194	185	189	168	174	207
利用者/日	8.8	8. 4	8.8	7. 7	7. 3	6.8	7. 2	7. 1	7. 6	7. 0	7. 3	8.0
利用率	73. 0	70.4	73. 3	64. 5	60.7	56. 3	59. 9	59. 3	63. 0	58. 3	60. 4	66. 3
収入 (千円)	3. 016	3. 160	3. 464	2.851	2. 499	2. 321	2. 651	2. 431	2. 571	2. 278	2.354	2.864
利用者実数	25	26	26	25	22	18	22	19	22	21	23	25

3) 居宅介護事業所(支援含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月
収入 (千円)	537	541	564	594	585	619	603	624	704	690	648	571
利用者実数	50	55	49	44	44	43	47	46	50	50	50	52

2. 職員体制 2012 年 4 月 ~ 2013 年 3 月

	正規職員	契約職員	パート・嘱	合計	病休	産休	育休	退職	入職
			託・登録						
施設長兼相談員	1			1					
生活相談員	2			2					
生活相談員兼介護支援専	1			0				1	
門員									
相談員研看護師	1			1					
介護員	3	1	6	10					3
看護師	2			1				1	
栄養士兼介護員	1			1					
調理員兼介護員			1	1					
介護支援専門員	1			1					
事務員			1	1					
計	11	1	8	19				2	3

Ⅱ. 各事業所・部門別

1. デイサービスセンターくりこまの里 I

1) 利用者動向

① 年度ごとの比較(平均)

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
利用率(%)	12.8	42. 1	62. 1	72. 7	83. 2	76. 2	84. 6	83. 7
1日当たりの利用者	2. 6	8. 4	12.4	13. 4	16. 6	18. 7	21. 2	23. 3

② サービス利用開始・終了者数

I.	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
サービス利用	2	3	4	6	1	2	3	1	1	1	3	1	28
開始者数													
サービス利用	3	1	0	0	1	1	0	0		3	2	1	12
終了者数													

③ サービス利用終了の理由

理由	死亡	施設入	認知症	他のデ	転居	不調	ショート	その他	合計
		所・入院	型移行	イに			中心に		
人数	3	4	1	3	0	0	1	0	12

④ 要介護度別利用者数(年間)

	要支持	爰 1	要支持	爰 2	要介記	蒦 1	要介記	獲 2	要介記	蒦3	要介記	濩 4	要介記	蒦 5
利用人数	9	193	18	982	29	1715	42	2791	21	875	8	476	5	268
割合 (%)	7	3	14	13	22	23	31	38	16	12	6	7	4	4

右は延べ人数 左は実人数

- ・施設全体の環境整備を行ったことで、里・こまの居室がすごしやすくなっています。過ごしやすくなったことで、ご利用者様もこまの部屋を気軽に活用できるようになっています。里・こまの双方での別々の活動も形作られてきました。こまに関してはイベントの予定はありましたが、日々の活動予定表がないために職員の動きも個人差がありました。H26年度は予定表の作成を行っていく予定です。
- ・家族会については家族の参加できるイベントを検討していましたが、内容がまとまらず実施まで至っていません。昨年度も実施できていないため、H26年度は実施できるよう、年度初めから検討していきます。

2. デイサービスセンターくりこまの里Ⅱ (認知症対応型・地域密着型)

① 年度毎

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
利用率(%)	6.	12.5	27.5	37. 9	51.9	63. 9	69. 6	63. 8
1日あたりの利用者	0. 7	1.5	3. 3	4.6	6. 2	7. 7	8.3	7. 1

② サービス利用開始 終了者数

O /	1 4/ 14 1			<i></i>									
4	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
サービス利用	3	0	0	0	0	0	0	1	3	1	1	0	9
開始者数													
サービス利用	0	2	2	0	0	0	2	1	1	0	0	0	8
終了者数													

③ 利用終了理由

理由	死亡	施設入所·	通常型デイ	不調	ショート中	その他	合計
		入院			心に		
人数	4	3	0	0	0	1	

④ 要介護度別利用者数(年間)

	要支援	€ 1	要支援	€ 2	要介護	隻 1	要介證	隻 2	要介證	隻 3	要介證	隻 4	要介護	隻 5
利用人数					10	442	9	442	12	983	2	205	6	267
割合%					25	19	23	19	30	42	5	9	15	11

右は延べ人数 左は実人数

・より専門的ケアを行うために認知症についての勉強会を定期的に行いました。しかし、ケアへ活かすまでは至りませんでした。昨年度より7時間シートを活用し、様子が気になる方の観察を行い検討してきました。しかし、すべての方に当てはまるシートではないため、他のシートの作成の必要性を話し合っております。H26年度中に作成をしていきます。

また、カンファレンスがしっかりと出来ていなかったことも、専門的なケアができなかった要因と考えています。カンファレンスは行っていましたが、専門の用紙などへの記入がなく経過的に観察が行えていませんでした。様式に関しては管理・職責部で検討しているため、検討後に活用していきます。職員の対応も個人差が見られました。経験年数などの差はありますが、技術の共有ができていなかったことが大きな要因でした。個人が行っている良いケアを会議にて確認し、共有していくようにしていきます。

家族からの情報収集も不足していました。

・環境面では、落ち着いて生活できる環境(ハード・ソフト)が出来ています。

相談員

- ・ケアマネジャーとの連携面では、前年よりも利用の休みや利用時の特変などの情報提供を行えています。しかし、毎回は出来ておらず、忘れたこともありました。また、連絡基準があいまいなため、 その都度判断する状況でした。ケアマネジャーへの報告マニュアルの整備の必要性を感じました。
- ・一度懇談の場を設けたが、ケアマネジャーの来訪が少なく再計画を行う予定でしたが、再計画をすることなく、そのまま実施しませんでした。反省点としては計画性が足りなかったこと、見学環境が整っていなかったことが挙げられます。

PRに関しては広報誌、行事予定表の配布で行うことができました。もっとPRポイント (話題) 作りを全体で行う必要があります。

- ・モニタリング様式を変更することにより、状況を分かりやすく伝えることができています。体重欄 も設けたことにより、当月、前月の見比べができるようになっています。
- ・ワイズマンの仕様変更により、実績の確認方法を変更しています。実績確認にかかる時間は短縮、 ミスは減少しましたが入浴の有無などのミスがあり過誤請求がありました。

提供表の管理についても見直しを行い、管理・確認がしやすくなりました。

医務部門

- ・利用時のバイタル確認、身体状況の確認を行い、問題がある際は家族と連携し、受診に繋げることができました。しかし、家庭状況もあり必要な受診の理解を得ることが難しいこともありました。 各家庭の状況に応じ、柔軟に対応する姿勢が必要でした。
- ・持参の服薬確認は医務職2人で確認し、服薬の変更、忘れ等に気づき対応することができています。 しかし、確認に時間がかかるため、送迎後の確認時に入浴が始まり処置と重なることもありました。 介護職と話し合い、お互いの業務に配慮し連携を図ることができました。また、確認時間の短縮の ための安全な施策検討が必要と考えています。

重大な服薬ミスが一件ありました。早急に会議を開き改善策を考え実施しました。

・医務内の統一したケアを行うため、皮膚状態や処置方法を記録し、情報交換を行っています。以前

より個人差がなく行えるようになっています。

- ・食べることをテーマにしたミニ講和を実施しました。健康への関心を深めることに繋がっています。
- ・機能訓練は定期での測定、評価を行うことができました。訓練計画の立案・評価について個人差があり、遅れることがありました。そのため、計画・評価作成時期を個人任せでなく医務職で統一し行うことにしました。計画・評価の遅れはなくなりました。

1月末で医務職が退職したことにより、訓練が実施できない日が多くなりました。訓練が行えない日でも介護職と連携し、軽い運動を実施することができました。

食養部門

- ・衛生管理については、マニュアルの基づき管理を徹底し食中毒などの発生はありませんでした。殺 菌灯の球切れなどにも速やかに対応を行いました。
- ・H25 年度はご利用者様からのアンケート・嗜好調査を行うことができませんでした。用紙については検討を行っております。口頭でのアンケートは行っており、希望があった餃子作りを行っております。
- ・毎月会議を実施し、現場からの意見を取り入れ、ご利用者様の状態・好みに合った調理を行っています。
- ・おやつバイキングを実施し、選んで食べる楽しみが持てるように実施しました。その他、行事食を 企画し食べる楽しみが持てるように支援しました。
- ・利用者人数が増えたことで、食材の見直しなどを行っております。副菜は冷凍食品を多く活用し、調理時間の短縮につなげています。また、野菜もカット野菜を活用し、作業時間の短縮に努めています。しかし、現実的に作業時間の短縮、業務負担の軽減にはつながっていません。これは食養内での作業工程に問題があると考えています。今までの業務を見直し、現在の利用者様、人数に対応できる業務体制をH26年度は確立していきます。

公益部門

1 指定居宅介護支援事業所

1) 利用者動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12 月	1月	2月	3月
支援開始数	2	0	0	1	0	1	1	2	1	1	1	0
支援終了数	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	1	0

支援終了理由

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11 月	12月	1月	2 月	3月
死亡の為	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0
他事業所利用											1	

その他: 転居 1 サービス利用なし 1

- ・専従のケアマネは実績定員を埋め業務が出来ました。
- ・包括支援センターとの連携を図り、ご利用者様の紹介、要望委託を受け業務にあたりました。

Ⅲ 委員会

① 感染予防委員会

- ・感染の発生時期に合わせた学習会を年3回実施しました。職員全員に周知してもらうため資料作成し、スタッフ会議の中で時間を設定しました。
- ・感染に関しての外部研修会に参加しています。
- ・衛生管理備品は点検個所ごとに担当を決め、定期的に実施し物品等の補充を行いました。
- ・リネン交換について、一部マニュアル通りに実施できていませんでした。利用者様の動きも変わったため、以前の決めごとのようにリネン交換ができない現状でした。そのため、マニュアルの変更を行っています。

② リスクマネジメント委員会

1) 事故対策

- ・前年度までは事故報告用紙の提出までは出来ていましたが、事故対策が追い付かず徹底されていませんでした。H25年度は事故検討用紙(SHEL)を活用し、細分化した自己分析を行うことができました。用紙を活用することにより、検討時間も短縮することができています。しかし、検討会議の開催は委員のメンバーに任されており、開催時期に個人差があり速やかに開催できなかった事例もありました。
- ・インシデント(ヒヤリハット)に関しては、強化月間を企画していましたが声掛けが不足し、 例年の課題が克服できていません。インシデントとは何か、と言う初歩的な面からもう一度学 習していきたいと考えています。
- ・車椅子などの福祉用具の点検は、前年度は出来ていましたが、今年度は業者の点検は行えず、 委員会での実施はできませんでした。前年度は一人の職員に依存していたため、メンバーが変 わり責任者が不在になったことが原因です。
- ・委員会メンバー外部研修に参加することができました。施設での研修報告も行うことができま した。

2) 身体拘束・虐待

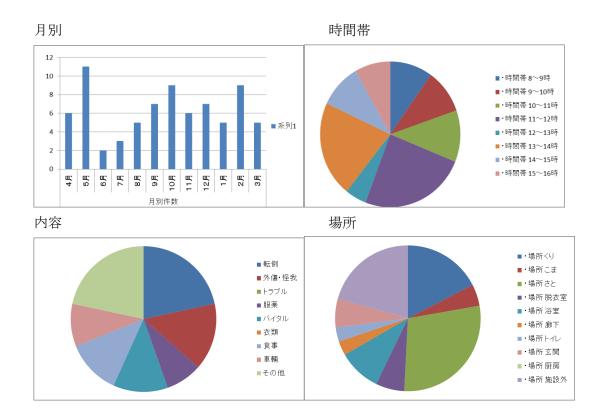
- ・連絡帳での家族の訴えや、送迎時の会話などから家族の状況を把握し必要な助言やケアマネジャーに報告し虐待などにつながる事例について早期の対応を行うことができました。
- ・利用者様をトイレに座らせたまま(10~15分)忘れるなどの不適切な介助があった。施設内で検討し、認識を改め、同じことが起きないように努めています。
- ・身体拘束の研修に参加しましたが、内部研修に活かすことができませんでした。

事故報告総数 75 件

- ・転倒 16件 ・服薬関係 6件 ・バイタル 9件
- ・外傷・怪我 11 件 ・食事関係 9 件 ・車輌事故 7 件
- その他 16件

○重大事故としては誤薬がありました。主治医などと連携し対応し、異常などはなく済んでいます。

施設内でのボヤ(小火事)もありました。消防に連絡し、状況報告、指導をいただいていま す。施設内での検討も速やかに行っています。



③ 広報(ボランティア・園芸)

- ・広報紙を発行するため、例年まで発行していた新聞の発行を行いませんでした。広報誌は年度内 の発行を目指していましたが、年度内発行ができませんでした。
- ・ボランティア名簿を作成することができました。ボランティアの受け入れは計画性を持ち、毎月 バランスよく呼ぶことができています。また、近隣の高校にボランティアポスターを掲示し、高 校生<mark>ボランティアを</mark>呼ぶことができました。今後はこのようなお手伝いボランティア(清掃、お 話など)なども呼べるよう、専門機関・学校に相談しながら開拓していきます。

Ⅳ 研修

① 外部研修

外部研修

6月 嚥下食にこれから求められるもの 栄養士 介護保険の現状と今後の方向性について ケアマネ 地区連絡会 ケアマネ

学習療法 介護職

緊急時の対応 介護職

国保連主催 相談員2名

- 7月 リスクマネジメント研修 介護職員 嚥下食の現状と今後求められるもの 調理員 メンタルケア研修 介護職員
- 8月 ADLの評価・捉え方(3回シリーズ) 介護職
- 9月 地区連絡会 ケアマネ2名
- 10月 栗原中央病院主催研修 ケアマネ 認知症介護セミナー 介護職予防的スキンケア 医務職 2名

12 月

- 1月 防ごう虐待 介護職2名
- 2月 高次脳機能障害の理解 ケアマネ ALS等神経難病患者支援者研修会 ケアマネ
- 3月 地区ケアマネジャー研修会 ケアマネ 今後の介護保険 介護職

法人,県連関係

- 6月 全日本民医連 法人介護職養成責任者研修 施設長
- 9月 地協介護事業交流集会 看護師・相談員 2名 法人2年目研修 介護職
- 12月 21 老福連交流集会 施設長
- 2月 平和について考える交流集会 相談員

V 苦情

苦情 10 件

・職員 3件 ・介護 5件 ・その他 2件 苦情については申し入れについて対策を施し、すべて解決しております。

VI くりはら健康福祉友の会活動

・友の会の役員、クリニックの大竹先生や事務長と定期的に話をする機会を作っています。

Ⅶ 消防防災計画

- ・避難訓練は計画通り開催しています。
- ・大鳥地区と合同の防災訓練を実施しました。
- ・防火設備点検を、定期に実施しました。

介護老人福祉施設 田子のまち

東日本大震災をはさみ約2年間の準備期間を経て、2013年9月1日に開所することができました。長期は4日から入居者を受け入れ、短期は10月から利用開始しております。

4月より職員を採用し、法人内施設での実習や座学での研修を実施しました。その中で、「自分の家族が入居してもいいと思う施設は」等の話し合いを重ね、職員主体で基本理念を作りました。この理念を 具現化することを目指し、施設運営を行ってきました。

しかし、介護業界の人材不足は否めません。継続的に人材確保に努めてきましたが、介護職・看護職 共に確保が難しく、ショートステイの稼働を制限し、職員を特養の応援に配置し不足を補う形をとりま した。特に職責者や職員へかかる負担は大きなものとなってしまいました。新年度に向けて介護職は補 充できましたが、看護職は不足の状況が続いており、早急に解決しなければならない課題の一つとなっ ております。

パブリックスペースのレストラン(食工房ぱる)では、利用者が家族や職員と一緒に食事をしている姿が見受けられます。外部からの顧客も徐々に増えてきております。理美容室も定期的に営業していただき、ショートの利用者にも大変好評です。売店や図書コーナーの環境整備もすすめております。12月からボランティアの受け入れも行っています。大正琴や舞踊など定期的に来ていただいており、楽しみの一つとなっております。今後も積極的に受け入れを行っていきたいと思います。

来年度は、「利用者満足」の支援を行えるように、職員のスキルアップや健全な職場環境づくりにも力を入れて取り組んでいきたいと思います。社会保障活動を通じて「誰もが安心して育ち暮らすことのできるまちづくり」に貢献できるよう職員と共にすすめていきます。

開設前 8月18日 入居者・家族説明会

8月23日~25日 施設内覧会 (500名参加)

8月31日 開所式 (200名参加)

9月1日 開所レセプション講演会 (150名参加)

日本ユニットケア推進センター センター長 秋葉都子氏

【2013 年度稼働率】

	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2 月	3月
平均介護度	3.5	3.5	3.6	3.6	3.5	3.4	3.5
稼働率(%)	52.6	89	90	90.1	91	93	91.7

【入退居状況】

	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2 月	3 月
入居	72名	0	4名	2名	0	1名	2名
退居	1名	0	1名	0	0	3名	1名

【要介護度別】(2014年3月末日)

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
8名	11 名	13名	26 名	18名

【保険者別】(2014年3月末日)

仙台市	多賀城市	塩釜市	柴田町	富岡町	
62 名	4名	8名	1名	1名	

【**性別·平均年齢**】(2014年3月末日)

	人 数	平均年齢	最少年齢	最高年齢
男性	16 名	79.8 歳	66 歳	92 歳
女 性	60 名	85.1 歳	56 歳	101 歳
計	76名	84 歳		_

ショート部門

【生活相談員】

1. 2013 年度総括

9月は特養の空床を利用し開所しました。10月からは1ユニットずつ稼働し、徐々に利用者が増えてきております。その中でもミドルやロングステイの要望が多く、多い時で6名の方の利用がありました。ロングを受け入れることで、稼働率は安定しますが、急な入院や入居が決まり退所となるケースも少なくありません。その際、速やかに対応できるようケアマネとの連携を密に図ることが必要だと感じております。また、宮城野の里とも連携し、利用者やご家族の希望に対応できるよう日程調整等行うことができました。

3月には、ご家族と利用者の意向調査を実施し、ショートステイ利用中の活動や土曜日の送迎について 等意見が寄せられました。来年度は意見を基に、利用者が満足して過ごして頂けるショートステイに していきたいと思います。半年が経過し、稼働率も右肩上がりになっています。ほとんどが新規のご 利用です。事前に多くの情報を得て、ケアにいかしていく為に、職員より実調時のアセスメント用紙 変更の要望があり、職員と一緒に内容の検討を行っています。医療面の対応(胃ろう、吸引等)がある方 の要望はありますが、看護師の体制が整わず受け入れ困難な状況が続いています。看護師の体制も含 めて施設としての対応を考慮していきます。

【2013年度稼働率】

	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3 月
平均介護度	3.5	2.7	2.9	2.3	2.0	2.2	2.6
稼働率(%)	2.3	28.7	37.8	39.1	49.8	60.7	78.2

【花梨・撫子】

1. 2013 年度総括

9月は特養の空床利用にてショートステイを始め、10月より花梨・撫子の片方を利用し、1月より少人数でしたが両ユニットを開所しました。開所当初は利用者が少なかった事もあり、ゆとりを持って利用者様と過ごす事が出来ましたが、稼働率が上がり職員が焦ってしまうことにより利用者様とゆっくりと過ごす事が出来ませんでした。ショートステイの目標である『安心して自分らしく過ごせるような環境づくりを目指します』を考えながら働くことで「もっとこうしたい」「こうゆうものがあったら良い」と職員間のコミュニケーションを図ることが出来ました。職員の知識・経験不足から利用者様に不自由な思いや家族に不安を与えてしまった事もありましたが、職員・利用者様・ご家族・ケアマネジャーと一緒に作り上げたことで関係が徐々に深まることが出来ました。ショートステイ会議は日勤者の勤務終了後から行い、遅番以外のほとんどが参加し情報の共有を図る事が出来ました。しかし、検討事項・報告だけで会議時間が長時間になりユニットでの勉強会を行う事が出来ませんでした。来年度は、ユニット職員の知識、意識、ケアの向上ため勉強会の開催をしていきたいと思います。

2. 活動内容

- ・外出企画 外食、買い物、初詣
- ・ユニット内企画 クリスマス会、節分、雛祭、カラオケ

特養部門

【施設ケアマネジャー】

1. 2013 年度総括

田子のまちが開所し、慌ただしく入居者を受け入れていく中で、暫定でのケアプラン作成、入居後1ヶ月でのケアプランの見直し、その後3ヶ月後のモニタリング、再アセスメント、ケアプランの更新を滞ることなく行うことが出来ました。さらに、サービス担当者会議について入居時にお伝えしていたことで、予想以上にご家族にサービス担当者会議に参加していただくことが出来たことが良かったと思います。よりその方を知るためのアセスメントの方法や、ご本人・ご家族の想いやニーズを反映させられるような個別性のある、その方らしいケアプラン作り、というところで課題が残りました。また、まだまだ職員の中で記録を充実させることへの認識が甘く、その方の一日が見えない記録が目立っている状態です。記録を通して情報の共有を徹底していくこと、ケアプランと連動した記録を残していく必要があるということを、各職種に呼びかけていくことが重要であると痛感しています。

2. 活動内容

サービス担当者会議全 22 件中、12 件で家族の会議への参加を実現することが出来ました(表 I 参照)。また介護保険の更新申請を仙台市 21 名、塩竈市 4 名の計 25 名行い、仙台市からの委託を受け、21 名の介護認定更新の認定調査を滞ることなく行うことが出来ました。

表I<サービス担当者会議開催数>

	開催数(ご家族が参加した数)
10 月	4名 (3名)
11 月	3名 (3名)
12 月	3名 (2名)
1月	6名 (3名)
2月	1名 (0名)
3 月	5名 (1名)

【春風】

1. 2013 年度総括

初年度ということもあり、入居者様、ご家族、職員が新しい雰囲気に慣れず緊張からか互いに遠慮してしまい、思いを伝えられなかった事が多くありました。その為、入居者様一人ひとりの生活に目や耳を傾ける事も思うように出来ず、その方らしい生活が送れるような支援も十分に出来ませんでした。また、職員一人ひとりが業務に追われゆとりを持つことが難しく、焦りが表情に出てしまう事もありました。しかし、一緒に過ごす時間が増えるにつれ、入居者様の性格や生活リズムなどを把握出来るようになり、その方に合った関わりが持てるようになってきました。徐々にゆとりも出てきて職員同士の声がけも増えました。春風では、日々ご家族の面会も多く、その都度生活の様子をお伝えし、コミュニケーションが図れたと思います。様々な行事を通して、ご家族同士が自然と会話する場にもなっており、入居者様含め温かい雰囲気を作ることが出来たのではないかと思います。より一層、居心地の良い場を作っていきたいです。今年度は24Hシートの活用が出来なかった為、来年度は活用しながらその方らしい生活が送られるように支援していきたいと思います。

2. 活動内容

10月 手巻き寿司パーティー 12月 忘年会 1月 初詣 2月 節分 3月 お好み焼き、焼きそば、茶碗蒸し作り

【ふたば】

1. 2013年度総括

入居者様が安心してその人らしい生活ができる家庭的なユニット、入居者様にとって楽しみのある生活を目指して、入居者様の日々の生活を支えてきました。職員間の情報共有が徹底されていないこと、知識や経験の不足から入居者様、及び家族様に不安を与えてしまったこともありましたが、1つ1つの問題に職員一同で真摯に向き合うことで、ユニットの結束力と介護職員としての力は少しずつ高まってきたのではないかと思います。

開所当初は入居者様のニーズ、思い、生活スタイルを充分に把握できず、各入居者様に適したケアを行えませんでした。現在では日々の何気ない関わりやケアを通じて入居者様と職員との信頼関係も深まり、入居者様より色々な思いやお話しも聞かせて頂けるようになってきましたが、まだまだ、その思いを各入居者様の生活に充分に反映できていません。来年度はその思いを各入居者様の生活の中にできるだけ反映し、各入居者様がその人らしくあることが出来るように努力していきたいと思います。

来年度も目標を継続し、入居者様が安心してその人らしい生活ができる家庭的なユニット、入居者様 にとって楽しみのある生活を目指して努力していきたいと思います。

- 2. 活動内容
 - ・外出企画 買い物、外食
 - ・ユニット内企画 クリスマス会、入居者様の誕生祝い

【夏月】

1. 2013 年度総括

夏月では『あなたの笑顔が輝くように』という目標に向けて、日々取り組んできました。初めて出会った入居者様、ご家族、職員と過ごす毎日は刺激もありましたが、不安や戸惑いも多くありました。 はじめの頃は毎日を過ごして頂くだけで精一杯で、ゆっくりとした時間を持つことが出来ず、お一人お一人の希望に迅速に対応することも、思いをくみ取ることも難しかったように思います。しかし、同じ時間を共有していくことで、少しずつ新しい気づきが増えていきました。その気づきを大切にし、それぞれの笑顔が輝くように関わっていくことが今後の課題です。今年度は職員の体調不良が続き、職員間でのコミュニケーションや申し送りがうまくいかないことも多かった為、入居者様に迷惑をおかけしました。職員各自が体調管理をしっかり行うとともに、意見を言い合える仕組みをつくり、休憩場所の確保や残業の軽減など、働きやすい環境作りに力を入れたいと思います。入居者様の笑顔が自然に出るように、職員が笑顔でいられる場所をつくりたいと思います。前年度の反省を踏まえ、今年度も『あなたの笑顔が輝くように』日々過ごしていきたいと思います。

2. 活動内容

11 月 個別外出(買い物) 12 月 クリスマス会 1 月 お好み焼きパーティー

2月 節分(豆まき) 3月 ひな祭り 誕生会

・定期的にDVD鑑賞会

【すずか】

1. 2013年度総括

9月に開所しユニット職員で『"とき"を大切にしていきます』と大きい目標を掲げ、入居者様の今までの生活継続と信頼関係を築いて頂けるよう心掛けてきました。一人ひとりが様々な思いを抱きながらも必死で取り組んだ半年でしたが、その中での入居者様の変化、それを受けての職員の対応、月日を増すごとに変化していく日々に職員の思いや気づきや連帯、たくさんの場面において力不足だったと感じます。目標にも掲げた『一人ひとりの思いに寄り添う』が自然とできるユニットになるよう、来年度は個別ケアを大切にし、入居者様の声に耳を傾け要望に応えていきたいと思います。改善すべきことは少しでも良くなるよう、職員一同が課題と目標に向き合いながら来年度に繋げていきたいと思います。

2. 活動内容

9月 入居者様、職員の交流会 11月 誕生会 12月 忘年会

1月 誕生会、個別外出 2月 節分 3月 誕生会・お菓子作り

【秋晴】

1. 2013 年度総括

入居者様の思い、希望を引き出し、皆で協力し考え≪今≫かなえて行こうという目標がユニット職員の頭にあったことで、日々思いに対して真摯に向き合い、叶えるためにはどうすればいいかを考え行動できたと思います。課題を会議まで延ばさず随時話し合うことが出来、入居者様から自発的に「~したい」という希望が多く聞かれるようになりました。24Hシートなどを用いて暮らしの継続をサポートすることは支援を行う土台として今後整えていき、その上でさらに、入居者様の生きる喜び、意欲につなげる為に、個々の幸せと感じることを一つ一つ見つけていきたいと思い、来年度も目標継続としました。入居者様の元気は職員の元気なしにはあり得ないと考え、働きやすい環境づくりにも取り組んできました。ユニット職員からも盛んに意見が出て、様々なケアにつなげることができ、働きやすい環境は整っていたとの意見が多く出ています。ご家族との関わり方について、面会時のお話、FAXや電話を用いた情報交換、暮らしの写真を多くとり、日頃の様子をわかりやすく伝えるなどご家族に合わせて工夫してきましたが、ゆっくりとご家族を含めて行事をする場は持てなかったので、来年度強化していきたいです。会議は協力ユニットの協力を得て全員出勤日の午後から行うことで、勤務時間内で負担なく話し合いの場を持てたと思います。今後も継続していきます。

2. 活動内容

9月 流しそうめん 10月 お好み焼きパーティー 11月 芋煮会・ドライブ 12月 クリスマス会・忘年会・ゆず湯 1月初詣 2月 節分・恵方巻き作り 3月 ひな祭り・ぼた餅作り 随時個別外出(外食・買い物など)

【みのり】

1. 2013 年度総括

9月に開所し手探りながらもユニットの礎を築いてきました。開所当初は毎日を過ごしていただくだけでも精一杯でしたが、この頃では余裕をもって入居者様に接することができてきました。入居者様の性格や楽しみも徐々に理解することができ、入居者様もユニットのスタッフとの会話を楽しみにしてくれ、みのりが自分の居場所だということを認識してくれているのではないかと思います。今後も入居者様やご家族とのコミュニケーションが図れるように努力し、少しずつ信頼関係を構築していきたいと思います。スタッフ同士ではミーティング以外でも、日々の申し送りやノートなどで、意見が出せる環境が整ってきました。開所して7ヶ月、スタッフも大きな病気をせず過ごしています。スタッフの長期離脱はユニット運営にも支障をきたし入居者様に迷惑をかけてしまうので体調管理には十分注意していきたいと思います。今年度はスタッフが揃わず充実したイベントなどは行うことがあまりできませんでした。来年度は入居者様に楽しんでいただける企画を考慮し、みのりでの暮らしを楽しんでもらいたいと思います。

2. 活動内容

- ・外出企画 初詣、個別買い物
- ・ユニット内企画 クリスマス会、節分、ひな祭り、食事会、誕生会

【美冬】

1. 2013年度総括

美冬では男性入居者様 3 名、女性入居者様 7 名で、開所してからの期間を過ごして参りました。『自 分の居場所を感じられる空間を』を目標に、入居者様に安心して過ごして頂くことができるよう、ユ ニットの中で取り組みました。職員で意見を出し実施した結果、入居者様の反応や、入居者様から頂 いた意見をもとに、居心地の良い環境づくりを進めました。10名の入居者様が揃われ、日々過ごして いた 11 月頃より、入居者様間の人間関係においてトラブルが多くみられるようになりました。職員が 入居者様のお話を伺いながら、これまで対応していますが、まだまだ関係が落ち着いたというわけで はありません。家具の配置や空間、そして時間の使い方を少しずつ変えてみながら、入居者様同士の 人間関係の様子をみていますが、小さなトラブルは続いています。その為、入居者様おひとり、おひ とりにとって、自分の居場所を感じて頂けるような空間・関係づくりについて、課題が残るものとな りました。また、面会時のご家族とのコミュニケーションにおいて、ゆっくりと腰を落ち着けて関わ る機会が少なく、立ち話で短時間のコミュニケーションが多くなっていました。ご家族にとってもく つろいで頂く空間づくりや、関係づくりが、十分には出来ていなかったと感じています。ご家族から、 入居者様の暮らしについて伺うことが満足にできず、空間づくりや関係づくりにもうまく生かすこと ができなかったと思います。目標の中で実施できなかったことが多くありました。今年度の反省を踏 まえ、来年度も引き続き『自分の居場所を感じられる空間を』を目標に、入居者様と一緒に過ごして いきたいと考えています。

2. 活動内容

美冬では、入居者様間のトラブルが多かったため、「入居者様同士で一緒に何かに取り組む」ことに対し、入居者様から「あまり顔を見たくないから」とのお話も聞かれ、行事の機会は多くありませんでした。お誕生日は、入居者様の希望をお伺いしながら、レストラン・パルでの食事や、プレゼントをお渡ししてのお祝いをしました。少ない行事ながら、参加された入居者様の楽しげな表情を見ることができました。

11月 おやつ作り 2月 節分豆まき会 3月 ひな祭り

【こうめ】

1. 2013 年度総括

9月から入居が始まり、職員・入居者様・ご家族共に不安を抱えながら懸命に支えあう年になりました。手さぐりではありましたが、職員・ご家族と一緒に作り上げたことで信頼関係が深まることができました。こうめの目標である『喜怒哀楽~輝ける場所~』に向き合いながら、一人ひとりの暮らしを支えてきました。入居者様のしたいこと、今しかできないことに見つめることで、その人らしさを知ることができました。しかし、忙しさから入居者様の思いを聞けず、大切にしたい喜怒哀楽を見逃すことが多々ありました。限られた職員体制の中、入居者様にどう応えていくか、今後の課題となりました。今年度を振り返り、来年度の目標も同様、一人ひとりの『喜怒哀楽』が輝けるよう支援していきたいと思います。今年度は10名の入居者様のうち、体調不良で2名の入院、骨折事故で1名の入院がありました。骨折事故ではリスク管理が不十分で入居者様、ご家族に辛い思いをさせてしまったことを反省しています。今後は一人ひとりのリスク管理を徹底しながら事故防止に繋げていきたいと

思います。ユニット会議は協力ユニットと連携を図り、ほとんどの職員が参加し、勤務時間内(午後)に実施することが出来ました。会議では、情報の共有とケアの統一を図ることが出来ましたが、ケース検討や各報告だけで2時間を超えてしまい、勉強会を実施することができませんでした。会議内容の整理を行い、職員の知識向上に向けて、来年度は勉強会の開催に取り組んでいきたいと思います。

2. 活動内容

- ・ユニット内企画 12月 忘年会 3月 ひな祭り
- ・誕生会、個別外出(外食、買い物、温泉)

【ユニットリーダー】

1. 2013 年度総括

今年度はユニットリーダーとして一人ひとり不安を抱えながらスタートになりました。リーダーの役割を文章では理解しても、実際の行動につながらず、入居者様、ご家族、職員に不安な思いを抱かせてしまいました。しかし、入居者様やご家族と関係性が深まり、「ここに引っ越してきてよかった」という言葉を伺い、それぞれがリーダーとしてやるべきことを少しずつ自覚してきたように思います。旗振り役であるリーダーが、施設理念を自分なりの言葉で伝え、行動で示し、それぞれのユニット・他部署をつなぐ架け橋となれるよう来年度の目標に繋げていきたいと思います。また、ユニット職員一人ひとりの特性・能力が発揮できる環境を整えていきたいと思います。職員も「ここでよかった」と思える職場を目指し、職員の能力に合わせた助言や指導に努めていきたいと思います。

会議では、リーダーが一人ひとりの思いを言い出せず、抱えている問題や悩みを共有することができませんでした。来年度はリーダーの「声」から施設全体で問題を解決に繋げていきたいと思います。 周りのユニットにも目を向け、ユニットで抱えている問題や悩みにも協力できる体制作りをしていきたいと思います。

2. 活動内容

毎月第4木曜にユニットリーダー会議を開催しています。11月からユニットリーダー会議の中でプロジェクトチーム(24Hシート、ワイズマン)を作り、取り組みを行ってきました。24Hシートチームでは、リーダー会議で勉強会を開催し24Hシートの目的と意義、理論、活用法、リスク対策、施設運営について学び、リーダーから取り組みました。作成にあたり課題を1つ1つ出して解決してきました。今後ユニットに浸透させていきたいと思います。ワイズマンチームでは介護記録の活用方法や書式・項目の見直しを行い、ワイズマンと連携しながらわかりやすく使いやすい記録のシステム作りを行っています。今後はケアプランや24Hシート、事故報告書との連動に繋げられるよう取り組みを行っていきます。3月に新人研修では、各プロジェクトチームが24Hシート、記録についてパワーポイントで発表しています。作成したパワーポイントは今後の資料として活用していきたいと思います。

委員会部門

【事故対策委員会】

1. 2013 年度総括

2013年度は事故対策委員会の役割、規定を委員全員が把握することからのスタートでした。開所当初は全員が会議に参加する事ができず、初めての職員もいる中不安もありましたが、徐々に参加率が増え委員全員で意見を出し合い話し合いができる様になりました。事故報告がされていても、ヒヤリハットがほとんどないことが議題になり、強化月間を作り、ユニット会議の場で伝えました。その成果として、前月より4倍に増え意識を持てるようになりました。事故報告書の書式をスタンプレスにてあげられるよう、検討し試作を重ねましたが、現在の書式で原因分析が書式変更により簡素化してしまうのではないかという意見が出され、進んでいない状態です。やっと、委員会が動き出したと感じています。来年度はもっと活発に活動をしていきます。

2. 活動内容

- ・月1回委員会開催(事故報告書・速報の書式見直し、フェースシートの作成)
- ・誤薬撲滅委員会と連携し服薬マニュアルの再確認

2013年度事故総数

	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2 月	3 月
転倒滑落	14	31	10	12	16	15	19
誤嚥	0	1	0	0	0	0	1
誤薬(配)	14	6	13	15	13	7	7
異食	1	1	0	1	0	1	0
暴力	0	0	1	0	0	0	0
無断外出	0	0	0	4	1	2	1
外傷	2	15	8	3	5	7	8
紛失破損	0	0	1	0	0	0	1
その他	0	0	0	2	2	0	7
						合計 2	268 件

【身体拘束廃止検討委員会】

1. 2013 年度総括

当初、事故対策委員会と並行し委員会を開催していました。その為、会議では事故についての話し合いが占めており、委員会活動が進まない状況でした。12月より時間を分け、委員会としての話し合いが出来るようになりました。身体拘束がよくないことだと理解していても、具体的にどのような行為を指すのか、それによってどのような弊害がでるのか、委員ひとり一人も理解不十分だと分かりました。今年度実施したアンケート調査の結果を基に勉強会を開催し学んでいきたいと思います。

2. 活動内容

・月1回委員会開催(アンケート調査の実施)

【感染対策委員会】

1. 2013 年度総括

今年度は、『感染症についての知識を深め、予防を徹底していく』を委員会の目標に挙げ、外部講師を招いての感染症勉強会を 3 回開催しました。感染症の種類、感染ルートや潜伏期間、嘔吐時の対処方法を実践交えて行いました。勤務の調整を行いながら、ほぼ全職員が参加することができ、「わかりやすくて良かった」や「嘔吐時の対応ですぐ実践ができた」との感想を受け、それぞれで知識を深めることが出来たのではないかと思います。しかし、それ以外の活動としては主だったものはなく、その理由の 1 つとして、各業務や勤務上の都合などで委員会への出席率が悪く思うように話し合いが進まなかったことが挙げられます。その反省を生かし、来年度はまず委員会の開催日時を検討して出席率を上げ、委員会としての活気ある話し合いの場を持つことから始めます。現在検討中の内容として、職員の家族で感染症が発生した場合の対応を明確にすること、各清掃方法についてのマニュアル作成を予定しています。勉強会についてもより具体的な内容で、回数を増やし、定期的に開催をして知識の向上に繋げていきたいと考えています。

2. 活動内容

- ·月1回委員会開催
- ・外部講師を招いての勉強会を3回開催しました。

【褥瘡予防委員会】

1. 2013 年度総括

今年度の目標は『褥瘡についての知識を深め、予防を徹底していく』でした。勉強会を予定していましたが開催することが出来ませんでした。その理由の 1 つとして、各業務や勤務上の都合などで委員会への出席率が悪く、思うように話し合いが進まなかったこと、会議内容が感染対策についての話し合いが占めていたことが挙げられます。また、医務の委員会参加が調整出来なかったこと、委員会として褥瘡予防についてどのように取り組んでいいのか分からなかったことも大きな理由として挙げられます。その反省を生かし、来年度はまず委員会の開催日時を検討して出席率を上げ、活気ある話し合いの場を持つことから始めます。今年度開催出来なかった勉強会についても「なぜ褥瘡は出来るのか、予防・改善する為の方法」や「福祉用具の活用」などの内容で外部の方へ依頼をし、早い時期に開催する予定です。定期的に勉強会を開催して、褥瘡についての知識が少しずつでも深まっていければと思います。

2. 活動内容

・月1回委員会開催(褥瘡のある方のリストアップ)

【入浴委員会】

1. 2013 年度総括

今年度は、特浴の環境を整え、棚、シャンプー台、桶、時計などの物品を購入しました。また、スライドボードや小粋リフトなどの福祉用具を活用し、事故なく安心して入浴していたいただくことが出来ました。特浴の予約をパソコン内で管理し、ユニット間での予約をスムーズに行うことができました。現在、特浴の排水問題や、冬場に入り特浴室が寒いといった意見があり職責と相談し改善をす

すめています。特浴の排水溝の工事については来年度を予定しています。個浴では、ショートステイより、浴槽への出入りが高さがあり大変だという意見が出ていた為、すのこを購入し、背の小さい方でも安全に入浴していただけました。委員会の特浴掃除により、特浴の細かいところの掃除に手が行き届くようになっています。引き続き委員会後の特浴の掃除を継続して行なっていきます。

2. 活動内容

・月1回委員会開催(特浴の環境整備・清掃)

【排泄委員会】

1. 2013年度総括

2013 年度は、『プライバシーに配慮し、気持ちよく排泄できる環境をつくる』を目標に委員会が始まりました。まず、排泄委員が中心となり、トイレ内の環境を考えました。

パットやその他使用する物品が職員目線で、職員の使いやすいように置かれていることが意見として 出され、改善しました。そうすると、声掛けにも配慮できるようになりました。入居と同時に排泄デ ータをとり、お一人お一人に合ったパットを検討していくことで、適切なタイミングで羞恥心に配慮 した声掛けや交換が出来るようになりました。しかし、漏れてしまうこともあり、その都度パットを 変更していく中で、データを無視したパットを選択してしまう事例もあり、今後の課題となっていま す。これは、コスト面にも大いに関わることです。実際、現在パットの発注量が適正なのかを検討中 です。学習会としては、外部研修で排泄セミナーへ参加し、自然な排便コントロールについて学びま した。内部研修では外部講師より、気持ちに寄り添った排泄ケアについて学びました。リハビリパン ツやおむつを安易に選択するのではなく、最期まで下着でいられることがどれだけ価値のあることな のかを委員会全体の共通認識とすることが出来ました。そして『日中帯のおむつ、リハビリパンツ 0 を目指して』という来年度の目標が明確になりました。現在、各ユニットから、おむつやリハビリパ ンツから綿パンツへ移行できそうな方を募り、お試しと検討を繰り返しています。綿パンツに移行し、 「うれしかった。」「良かった。」との声も聞かれる中、「漏れることが多くなり、やめてしまった。」「ユ ニット職員の理解が得られず、続かない。」などの問題も出てきました。来年度は、委員会内だけでは なく、全職員を対象とした学習会を行い、『下着でいられることが当たり前のケア』の理解を深めると 共に、ひとり一人に合った排泄ケアを実践していきます。

2. 活動内容

- ・月1回委員会開催 (ユニット内トイレの環境整備)
- ・セミナー参加、内部研修開催

【ボランティア委員会】

1. 2013 年度総括

9月の開所後、まずはボランティアの受け入れ姿勢を学ぶところより活動を始めました。また、田子のまちという施設を周辺地域の方々に知って頂き、今後の地域交流につなげていきたいとの活動目標を掲げています。具体的にどんなボランティアさんに来てもらいたいのか、アンケート調査を行ってボランティアセンターに募集要請、委員の持っている情報を出し合って文化ボランティアにお声掛け

しておいで頂く等、少しずつですが田子のまちにボランティアとして足を運んでいただける方を増や して来ました。11月より委員による施設周辺の清掃活動も行っています。

2. 活動内容

- ・月1回委員会開催(アンケート調査票の作成と実施、ボランティアセンターへ要請)
- ・委員による施設周辺の清掃活動

ボランティア内容

大正琴で歌いましょう 月2回 (述べ5回) 民謡ショー 月1回 将棋 (随時) ジャズ演奏 1回 古代笛演奏 1回

【広報委員会】

1. 2013年度総括

初めての広報誌作りということで全員が手探り状態での発行となりましたが、まずは、たくさんの 方々のご支援とご協力をいただいて田子のまちが開所出来たということを皆さんにお伝えすることが 出来たと思います。また、今年度2回の広報誌の発行を終え、「広報誌を見て来ました」と仰ってくだ さるボランティアさんも出てきてくださったことを嬉しく思います。しかし、地域や外部との繋がり が深められるような内容の検討が課題として残りました。皆様に田子のまちを知っていただいた上で、 地域や外部との繋がりのツールの一つとなるような広報誌を作ることが出来ればと思います。また、 どうしても記事の内容と発行時期にズレが生じてしまうため、出来る限り発行時期に合わせられるよ うな記事作りを心がけていきたいです。合わせて、発送先の精査や発送方法、また委員内での役割分 担の検討を行っていきたいと思います。

2. 活動内容

今年度は11月に1500部、3月に1000部の広報誌を発行することが出来ました。

【入居検討委員会】

1. 2013 年度総括

田子のまち開所にあたり、2013年1月15日より入居申し込みの受け付けを開始しました。ご本人の状況、ご家族の状況、居住地や震災による被災状況なども考慮して入居希望調書を作成して優先順位を決定しています。4月より実態調査を開始しましたが、この時点での申込者は323名でした。ご本人とご家族にお会いし、施設の概要を説明させて頂いた上で、ご本人のご様子を伺って入居前調査票を作成しました。その後、検討委員会メンバーが入居前調査票を確認してお一人おひとりの入居可能の判断をしています。5月中に60名、6月に17名の入居を決定しその後調整を行いました。

- 2. 活動内容
 - ・必要に応じて随時委員会を開催(13回)
 - ・3月末日待機者数 456名

【誤薬撲滅委員会】

1. 2013 年度総括

2013年度は、新人研修の中で服薬マニュアルを行いました。この服薬マニュアルは、十符・風の音でのマニュアルをもとに行いました。その為、開所当初から手順が明確になっており、混乱がなく進むことが出来ました。しかし、今年度重大な事故(他の方の薬を服用、重複投与)が3件ありました。すべて服薬マニュアルが周知徹底されていないことが原因でした。委員会として勉強会を開催し、シミュレーションを行いましたが、現在も誤薬が毎月報告されており、薬に関する意識の薄さが入居者様の生活、命までも危険にさらしてしまうことを職員ひとり一人が認識しなければならないと感じています。

委員会は、重大な誤薬事故が起こった際に臨時で開催しました。委員会としては、状況確認、原因 分析、対策検討を行いましたが、日頃からマニュアルが厳守されているかどうか定期的な確認と毎月 報告される誤薬事故を把握し、傾向を分析し、誤薬ゼロに取り組んでいきたいと思います。

2013年度誤薬事故件数

	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2 月	3月
重大な誤薬事故		1	1		1		
誤薬事故総数	14	6	13	15	13	7	7

重大な事故内容 他人の薬を服用 2件 過剰服用 (調剤ミス) 1件

【虐待対策委員会】

1. 2013年度総括

2013 年度は、委員会の活動は行うことができませんでした。虐待の事例報告がなかったこともありますが、新人職員が大半の中、高齢者虐待の理解が十分でないために、虐待とは何かを知ることが必要と感じました。今年度開催には至らなかった学習会を来年度は必ず開催し、職員の知識、意識を高めたいと思います。委員会は、日々のケアを振り返り、見直す役割も担っています。これまで定期開催ではありませんでしたが、来年度は定期開催で行いたいと思います。

【安全衛生委員会】

1. 2013 年度総括

今年度はまずは安全衛生委員会の役割、規程を委員全員が把握するというところからのスタートでした。役割と規程を把握した上で、腰痛予防のためのコルセットの配布、腰痛予防体操の掲示、湿温計・加湿器を各ユニットへ配布するなどの活動を行うことができました。しかし、腰椎ベルトは、本来使用の目的が伝えられず使用している人はごくわずかでした。また、腰痛予防体操も始業前に行うように、更衣室に掲示しましたが、実際に行っている職員はいませんでした。来年度も引き続き、職員の安全衛生を守るために職員の健康診断の実施や腰痛予防の呼びかけを行い、また職場の現状を把握するためのアンケートを実施するなどしてよりよい職場環境をつくることが出来るように活動していきたいと思います。

2. 活動内容

- ・月1回の委員会開催(腰痛予防への取り組み、定期巡回)
- ・腰椎ベルトの支給と使用方法の掲示(腰痛予防体操の推進)

・温度・湿度計の購入(各ユニットへ配布)

【社会保障委員会】

1. 2013 年度総括

初年度、まず委員が社会保障委員会の役割を理解するところから始めました。法人の社保委員会から槙部長を講師として招き、今年度の委員の目標「社会情勢について把握し、他職員に伝えられる様学習していく」ということを確認しました。署名を各ユニットで職員に依頼するにあたり、自分の言葉で話せるよう委員会で読み合わせをして学習しています。田子のまちとしての財政活動を行う事についても取り組みをすすめ、労働組合の協力のもと炊き込みご飯と豚汁の販売を行えるよう準備しました。

2. 2013 年度活動内容

・月1回の委員会開催(署名活動のための学習、財政活動の準備)

その他の部門

【食養】

1. 2013年度総括

今年度、仕分け業務は管理栄養士 1 名、パート 5 名で行いました。厨房が狭く、カートイン冷蔵庫 設備が整っていない為、創意工夫をしながら安全第一で行いました。具体的には、食事をポリ袋に仕 分けをしたり、3食分を厨房内で保管ができない為、ユニットの冷蔵庫で3食を保管してもらったりな ど多職種にも協力なしでは出来ませんでした。また、主流の業務用洗浄機が1回転するのに1分から1 分30秒であるのに対して、厨房で使用している洗浄機は2分~長い時で4分ほどかかるものであるこ とと食器乾燥殺菌保管庫がないことにより厨房内で洗浄できる量に限りがある為、フードパンの使用 量を極限まで減らし、基本的にはフリーザーパックやポリ袋などの使い捨てのものを使用するように しました。しかし、袋に入れられた食材はおいしそうに見えないとの意見があり、来年度の検討課題 となりました。また、厨房で洗浄したフードパンやジップロックは自然乾燥で乾かす為、エアコンの ドライ機能やダクトを業務終了後もつけたままにしておく工夫をしました。自然乾燥させた容器や食 器は使用前にアルコール消毒して使用することで衛生を保つよう努めています。早急な課題としては、 食数が 90 食を超え、カートイン冷蔵庫への収納が難しくなった食材をユニットの冷蔵庫へ保管するま での間、どのように衛生的に保管をするか、もう一点は洗浄と仕分けをするところが同じ部屋にあり 非衛生区域と衛生区域が交差した状態での作業をどのように区域分けし、衛生的に業務を行っていく かということです。今年度は1回しか開催できなかった食養会議を来年度は毎月行い、上記の課題解 決に向けて検討、業務の見直しや衛生管理の知識を深めていきたいと思います。栄養ケアマネジメン トは1月に春風、ふたば、夏月、すずかが開始し、2月に秋晴、みのり、美冬、こうめが開始しました。 しかし、厨房業務や給食管理業務に追われ、個別性のある栄養ケアマネジメントが行えませんでした。 来年度はユニットへ行く機会を増やし、お一人お一人が幸せになり、その方らしい食事を安全に行っ ていただけるような栄養ケアマネジメントを立てたいと思います。

2. 活動内容

9/3 より仕分け業務を開始。開所時は管理栄養士 1 名、パート 1 名の 2 名で仕分けを行っていましたが、9/24 と 10/1 にパートが 2 名ずつ入職し、現在は、管理栄養士 1 名、パート 5 名で仕分け業務を行っております。

【医務】

1. 2013年度総括

開所より、入居後は毎日の配薬服薬管理と体調管理に努めてまいりました。10月からは嘱託医からの定期処方箋発行依頼を2ユニット毎週1回、調剤薬局からの配達は週1~2回となっています。他、随時臨時処方薬依頼と管理を行っています。同月には嘱託医と薬剤師、薬局事務、事務で話し合いを行い、連携を図っています。日々の業務としては、入居者様の病院の受診、処方薬整理、協力病院である坂病院、薬科大学病院への連絡、急変時の対応依頼、診察と入院の調整、ショートステイ受け入れ時の配薬準備、配薬・服薬管理を行っています。このような業務を限られた看護師で行っていくか、会議内で業務の整理をしていきました。しかし、そんな中で入職者2名が離職し、業務量超過となってしまいました。現在は、他部署やユニットへ協力を依頼しながら、正確に診療補助業務、配薬準備ができるよう、試行錯誤しています。利用者情報の医務での共有とユニット職員への確実な情報提供と共有をどう行っていくか今後の課題です。他職種に協力依頼、連絡調整、医務申し送りノートの活用をし、配薬マニュアルを作成、周知徹底、マニュアル遵守に努めます。

【事務】

1. 2013 年度総括

9月開所時は事務1名でスタートし、日々の業務に終われる毎日でした。総務部門では、9月は給与手当の変更点が多く、事務処理にミスが多くなってしまい職員の方々に迷惑をかけてしまったことが大きな反省点です。経理部門では、日次業務、月次業務の流れをうまくつかめず、処理の漏れやミスも目立ちました。また、必要以上に時間もかかっていました。11月からはパートが1名増員となり、又本部の力もお借りしながら、役割分担を行い、少しずつ計画的に作業が行えるようになってきました。今後は更に、相談員・ユニット職員との連携を図り、経費の見直しや安心・安全な職場環境作りに励んで行きたいと思います。入居者様との関わりでは、行事の時にお手伝いに関わることで会話も増えたように思います。約半年が過ぎ、利用料請求から入金までの処理も安定してきました。今後は入居者様、ご家族様の顔と名前を覚え、信頼関係を築き上げることができるような対応と、正確な事務処理を行っていこうと思います。

【研修計画】

1. 2013 年度総括

2013 年度は、9 月開所まで新人研修として多くの時間を費やしました。しかし、施設建設前であったため、研修場所の確保が難しく、研修プラン作成も苦慮し、開所前までの時間を十分に活かすことが出来ませんでした。新人研修は毎年行われます。ユニットへ入る前に必要とされる知識や技術を得られるよう、研修内容の組み立てを再度考えたいと思います。9 月以降、内部研修では、福祉用具の活

用方法、感染症予防と対応、排泄ケアについて、認知症の理解と対応 を行いました。また、外部研修では、ユニットケア研修オブザーバー参加、排泄ケアセミナー、介護支援専門員研修等への参加の報告がありました。内部研修は、まだ委員会が主となって企画、開催に至っていません。現場で必要とされる内容を自分たちで企画し、開催することで、個人のスキルアップ、そして施設の全体のスキルアップにつながると考えます。また外部研修の機会は多く、参加したいと思っている職員は多いものの、勤務の調整がつかず参加できないこともありました。研修への参加率を上げる一つとして、勤務として保証し、時間外の手当を支給することを決めました。しかし、不規則勤務の中では難しい面も見えてきました。時間帯の検討や報告する場の確保、来年度は年間の予定を立て、一人でも多くの職員の参加を施設全体で保障していきたいと思います。

2. 活動内容

4月	新人研修	10月	感染症学習会
5月	新人研修	11 月	
6月	新人研修	12月	排泄ケア学習会、認知症学習会
7月	新人研修	1月	感染症学習会
8月	新人研修	2月	
9月	福祉用具学習会	3月	感染症学習会、新人研修

【見学者一覧】

月日	名 称	人数	月日	名 称	人数
10.3	泉の杜介護支援センター	3	12.14	仙台白百合女子大学	12
10.10	日本パックリハビリ	6	12.19	しんち福祉会(福島)	7
	あさひ介護支援センター	8	2.5	仙台市老施協	3
10.11	坂HP友の会	15	2.6	盛岡医療生協	2
10.22	坂HP友の会	6		セントラルキッチン研修会	20
10.28	杜の風後援会	36	2.7	特養 泉寿荘	3
11.7	泉HP友の会	7	2.13	若林クリニック	10
11.12	ユニットケア東北ブロック研修	40	2.18	長町HP友の会	8
11.18	(社福) 永楽会	30	2.20	J A仙台	23
11.19	長町HP友の会	16	2.21	特養 東恵園(秋田)	6
11.20	泉HPたすけあいの会	10	2.23	仙台白百合女子大学	11
11.26	特養 三納の里 (宮崎)	9	3.6	コープ福祉会	40
11.30	近畿大学教授 他	2	3.18	泉HP友の会	10
12.2	かけはし友の会(山形)	16	3.27	東洋経済(取材)	1
12.6	仙台市農業委員会	4		合計 36	34名

保育事業

乳銀杏保育園

2013年度、乳銀杏保育園の保育所経営について次の取り組みが行われました。

1、事業規模

①入園状況

	4月	5	6	7	8	9	1 0	1 1	1 2	1	2	3
年齢												
0歳	1 5	1 5	1 5	1 5	15	1 5	15	15	15	15	15	15
1歳	2 1	2 1	2 1	2 1	21	21	21	21	21	21	21	21
2歳	2 4	2 4	2 4	2 4	24	24	24	24	24	24	24	2 4
3歳	2 4	2 4	2 4	2 4	24	24	24	24	24	24	24	24
4歳	2 7	2 7	2 8	2 8	28	28	28	28	28	28	28	22
5歳	2 2	2 2	2 2	2 2	23	21	21	21	21	21	21	21
合計	133	133	134	134	135	133	133	133	133	133	133	133

②職員体制(4月1日現在)

	保育士	看護師	栄養士	調理員	園長	その他	計
正規職員	1 9		1		1		2 1
臨時職員	6						6
パート (6H)	1			1		1	3
(5H)	1			1			2
(4H)	4	1		2		1	8
(3H)	1					1	2
(2H)				1			1
その他必要に応じ	2						2
てのパート							
計	3 4	1	1	5	1	3	4 5

- ・今年度は臨時職員(保育士)が2名体調等で途中退職しました。事務職員の退職にとも ない採用 するも定着しないで、8月に採用で落ち着きました。新採用のパート調理員が体調不良のため退職、12月に正規保育士が1名退職と年間を通して退職者が多く、年度末には保育士の欠員補充ができない、困難な状況の運営になりました。
- ・3月に産休・育児休業になりました保育士1名、正規保育士3名と臨時保育士1名が家庭に事情で退職となりました。
- ・園長の任を長く行っていた高橋悦子が定年退職となりました。

③保育事業内容

・一時保育の利用延数は1,073名で補助金が4,603,000円、利用料は3,267,150円でした。異年齢保育の工夫や困難を抱えた保護者への支援を心がけ担当者と管理部が連携して行いました。また、今年度は保護者参加の行事を行い大変好評でした。

- ・休日保育延利用人数は 561 名、実人数は 76 名、開所日は 69 日でした。昨年度の 786 名から大きく削減しました。補助金収入は 4,495,400 円、利用料は 1,039,600 円でした。
- ・延長保育は日々平均利用人数が 25 名でした。0 歳児が 2 名利用しました。補助金は 2,870,000 円、利用料は 1,202,300 円でした。3 歳未満児と幼児組に分かれて保育するなど、落ち着いた環境で保育してきました。
- *一時、休日利用は非課税世帯が多くなっています。

④職員の役割分担

- ・主任保育士が9月より古川へ転勤し、園長が柳生より10月に転勤し、副主任の補充など、管理部体制が一新しました。
- ・環境衛生委員会、安全委員会をつくり、管理部からだけの発信だけでなく職員自身が主人公になって、 問題提起を行い問題解決にむかうことができました。
- ・休日保育の体制を含めて担当者に計画実施を行い、園長は点検や承認を行うことで、任務分担が行われています。
- ・一時保育は緊急の場合等も含め、日常の電話、申請受付、集金を園長、主任、事務員も入り行っています。
- ・今年度は主任が1名であったことから、クラス会議、保育事務の管理、行事、日常の労務管理など、 任務が多くなりました。
- ・8月より新事務担当者が採用され、本部の力を大きく借りて会計事務が行われています。

⑤設備・環境

- ・外壁のクラック修繕、屋上防水、外壁塗装、遊具塗装の大規模修繕を行いました。修繕費は借入で行いました。 いました。
- ・安全のための細かい補修や日除け地震対策などは用務員の力を借りて行いました。
- 2、保育内容について

1) 保育内容

- ①保育者の人権意識を高め、子ども一人ひとりを尊重し仲間の中で育ち合う保育について、研修し、職員会議の中で深め保育実践を行ってきました。
- ②異年齢交流保育を日常の中で行ってきました。5歳児が3歳児クラスの午睡後に、4歳児が2歳児クラスの午睡後に手伝いにいくことを行いました。顔や名前を覚え互いに親しみを持ち、大きいこどもは小さい子どもにやさしく接することや、小さい子どもは大きいこどもへ憧れるなどの成長が見られました。
- ③障害児保育:今年度は4歳児クラスに2名、5歳児クラスに1名の児童が在籍しました。クラス集団の中で、友だちと一緒に成長する姿が多くありました。特に5歳児クラスの児童は就学を前にさまざまな行事の取り組みなどを経て、仲間と一緒に自信を持って卒園していきました。
- ④部屋の環境が年齢や発達に応じたものになるよう、2歳児クラスの保育室に発達に沿ったつもり・ごっこ遊びコーナーを設置、工夫し、午後の室内あそびが楽しく、充実している子どもの姿が見られている。

2) 保健活動

今年度も以下の取り組みをしました。

- ・毎日の薬の確認や、継続している子への病状や傷の状態の確認をしました。
- ・対応が必要な子への視診をおこない看護師の判断を基に必要な処置をとりました。
- ・感染症発生時にはすぐクラスの消毒や、掲示など必要な措置を実施しました。

インフルエンザは3月にB型が33名、A型が2名罹患しました。1歳児クラス2名、2歳児クラス7名、3歳児クラス6名、4歳児クラス8名、5歳児クラス8名、職員2名でした。感染性胃腸炎は集団感染がありませんでした。罹患状況を仙台市に報告しました。

- ・4、5歳児の歯みがき指導や、3,4,5歳児の手洗い指導を実施。歯科検診の結果は保護者に伝えると同時に仙台市提出用にまとめ報告しました。
- ・健康診断は年2回実施。診断結果を各保護者に伝える。大事な点は面談で伝えました。
- ・年6回保健便りを発行。保健日誌の記入しました。
- ・受診した怪我は33件になりました。口唇、歯の怪我が多く起きてしまいました。職員は「ひやりはっと」も含め、事故報告を敏速につくり、全員に確認してもらい、安全委員会の中で検討し、全職員会議で報告検討をして取り組んでいますが、事故発生が多いことが大きな課題です。

3) 食育活動

楽しく食べる体験を深め「食を営む力」の基礎を培うことをねらいにとりくんできました。以下は今 年度取り組みです。

- *「日本人の食事摂取基準」に基づき、栄養摂取量の評価(アセスメント)を行い、推定平均必要量(EAR)を算出し給与栄養量の目標を設定し献立に活用。
- *保育と一緒に以下のような食育活動に取り組んだ。・写真を玄関の展示コーナーにその日の内に掲示して保護者に知らせてきた。
 - イ 野菜の皮むき活動(そら豆、筍、とうもろこし)
 - ロ 幼児組での鮭の解体から学ぶ
 - ハ 4歳児クラスでの「赤、黄、緑の食品」を学ぶ・ 5歳児クラスでの「朝食しらべ」
 - 二 クッキング保育への助言、協力
- *離乳食、アレルギー食、配慮食の対応。アレルギー食の誤配や誤食を防ぐチェック表を活用して防ぐことができました。
- *行事食、行事関連献立の実施をおこなう。

4) 安全管理

- ①安全管理マニュアルや防災マニュアルを職員会議で研修を行い、職員 1 人ひとりが意識的に備えて、 対応できるようにしました。特に散歩は緊張感をもって取り組み、事故はありませんでした。
- ②避難訓練を事前に時間をしらせないで行うことを取り入れました。児童の避難靴を整備し、履く訓練も行いました。
- ③不審者対応訓練を2回行い職員間で避難対応を連携して行えるように備えました。
- ④救急救命講習を2回行い常勤職員は必ず1回は出席し、常勤職員全員が受講しました。
- 3、保護者支援と連携
- ①全体職員会議で保護者の状況や保護者からの意見や要望、苦情を毎月討議して、保護者の状況を理解 していくことを大事にしてきました。特に一時保育利用の保護者も含め、鬱や貧困など、支援の必要な 保護者については、担任と管理部が連携して配慮し支えていくようにしました。欠席が続いたときは園

長が電話での連絡や家庭訪問をして、子どもの生活が守られるようにしました。ひとり親家庭19%、 非課税世帯が12%であることから生活支援の必要性があることを捉えておきたいと思います。

- ②年3回のクラス懇談会を開き子育てについて語り合い、保護者同士の交流をはかってきました。18時から19時の時間帯で全員が出席できるようにしてきました。課題は子どもへの長時間保育の負担と、子育てについての学びをどうするかがあげられます。
- ③アンケートを取り、行事や日常の保育内容や職員の応対や環境について記入してもらいました。回収が 61 世帯で満足、どちらかと言えば満足が 90%であるが、園舎のトイレへの不満が 2 名、職員の挨拶の仕方、注意の仕方へのやや不満が各 1 名ありました。職員会議で報告し、改善していくことを話し合いました。
- ④一時保育や「遊ぼう会」で、地域の子育て支援を行ってきました。一時保育は緊急の場合は職員の手配をして 0 歳児から受け入れを行い、役割を果たしました。

4、職員の研修と評価

- ①子どもの人権を大切にしていくための学びや子どもが生き生きと活動するための研修を行ってきました。今年度は描画や感触あそびなど、年間を通して文献と実践検討で行ってきました。
- ②年 2 回の保育・食育の総括会議を行い全常勤職員(担任のパート職員)で報告と検討を行い、職員の自己評価と園としての自己評価を行いました。保育で達成したこと、不十分だったことの捉えを深め、次年度に活かせる自己評価ができました。
- ③延長担当保育士の会議を定期的に行い、延長保育時の問題など意見を出し合い改善することができました。今後の課題は他のパート保育士も含めた研修等を行う必要があります。

5、小学校との連携

- ①今年度は特に障害を持っているお子さんの就学に向けた連絡や体験入学などを行うことができました。
- ②「保育要録」を学校に送付するとともに、学校の見学を行いました。

柳生もりの子保育園

1. 事業規模

(1) 入所児童

2013 年度は、120 名定員に 126 名で出発し、5 月に 1 歳児 1 名が入園し 127 名になりました。0 歳児が8名と少ない人数での入所となりました。それに伴って、1歳児の待機児童も多いこともあり、23名を受け入れ $0\cdot1$ 混合、1歳児単独、 $1\cdot2$ 混合クラスの3クラスを編成しました。兄弟児の育休明けでの希望もあり、2歳児の希望も多く、2名の枠をつくり25名を受け入れました。障がい児は、進級した3名でした。年間通して4名の入退園がありました。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
0歳	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
1歳	22	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
2 歳	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
3歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
4歳	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
5歳	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
合	126	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127
計												

(2) 職員体制(4月1日現在)

(=) 19(3 < 11 1)	• • • •	± 1. /u 11/					
	園長	保育士	看護師	栄養士	調理員	その他	計
正規職員	1	14		1	1		17
臨時職員		5					5
パート (7H)		1			1		2
(6H)		1					1
(5H)		1					1
(4H)		1	1			1	3
(3.5H)					1		1
(3H)		5				2	7
合計	1	28	1	1	3	3	37

上記の他に嘱託内科医1名、歯科医1名

*2歳児が25名を受け入れ、職員体制も2歳児の入所基準に照らし合わせ、仙台市にも確認し、20名に常勤3名と7時間パート1名を配置して運営しました。

*10月に丹野広子園長が乳銀杏保育園に転勤し、大門祐子が園長に就任しました。それに伴い、新しく田中祥子が主任保育士となり杉井知子と二人体制で主任を務めました。

*11月より8時間労働の施行を行い、勤務体制の変更や事務時間を増やす体制で勤務を組み実施し

ました。

*12月は体調不良によりパート保育士1名の退職に伴い、他のパート保育士の勤務時間を変更して対応しました。

*3月に正規職員1名が産休に入り、臨時保育士1名が一身上の都合で退職しました。

(3) 保育事業内容

計画通り運営費収入、補助金収入、利用料収入で行いました。延長保育の利用は後半になるほど利用が増え、平均15名でした。特別保育事業は乳児、障がい児、延長保育を行いました。

(4)職員の業務分担と役割

*8クラスを担当保育士で運営しました。

10月の園長交替に伴い、主任保育士の助けを借り主任会議等で協議しながら、総括的指揮を執りました。主任 2 名体制は、職員体制配置と未満児保育の運営管理、保育全体の管理と 2 歳児・幼児組の管理運営等役割等の分担を決め、保育内容全般を 2 名の主任保育士で確認し合いながら行いました。また職員間や保護者との関係が円滑になるよう園長と主任で協議し、配慮して日々の業務管理を主任保育士が行いました。

*会計は、園長交替後は特に事務員と日々の経理業務を確認し、保育所運営全般の事務を、前園長の助言や前年の書類で確認しながら行いました。

*保育士、栄養士、看護師、用務が管理部に集中し連携を取り、児童の栄養管理、食育、保健、環境整備を行いました。

(5) 設備、環境、保育材料

*2014年4月の消費税8%前に各クラス遊具の点検を行い、年齢に合わせた購入を行いました。また、開園10年目にあたり劣化していた共同で使用している紙芝居や絵本の補充、古く汚れてしまった乳母車を新しく購入しました。

- *園庭の植栽は、主任保育士が中心に整備して行いました。
- *4月に0・1歳児混合クラス室の水道設備を行い、子どもの手洗い場を増設しました。
- *11月に門扉と3歳未満児テラスの柵の塗装を行いました。
- *給食室のガス釜1台(上部)新品に買い換え、冷蔵庫のガス充填を行いました。

2. 保育内容

(1) 子どもや保護者の状況と保育実践、保護者支援

*柳生地区は、戸建やマンションが多い地域であり、経済的に安定している家庭が多い地域ですが、127名の在籍中12名が一人親家庭でそのうち正規社員は1名のみです。また自営業や一人親家庭で保育料が無料の家庭が14家庭あります。3歳以上児は主食代の実費を給食費として支払ってもらいますが、中には「すこし待ってください」と申し出る家庭もあります。保育料の滞納は、3か月遅れで支払っている家庭もあり、ようやく保護者の病気が改善して働き始めたところで、保護者の状況を把握しながらの配慮が必要です。年度途中の退園は4名、入所は1歳児2名、3歳児2名でした。

*行事は例年通り実施できました。年度末にアンケートを実施し、108家庭中60家庭から回答を頂きました。行事については天候に左右されない場合以外は、おおむね満足との回答を頂きました。

子育て講演会の前丹野園長の講演は、「もりの子保育園で大切にしたいこと」と題して体験談も交えて子どもの育ちにとって大切にしたいことを話して頂き、多くの保護者の方に賛同して頂きました。また、参加者も30名を超し、子育て講座が始まって以来の盛況でした。行事以外の部分では、クラスの保育で大切にしたいことがどのくらい伝わっているのかを知りたいと思い項目に入れました。保育者の接遇に対する不満やわが子を見てほしい思い、子ども同士の関わり等など伝わりにくく感じている家庭もあることが分かりました。一方、長く保育園で過ごしてきた方には、保育園の考えに共感し感謝の言葉を頂いた保護者もおります。年二回のクラス懇談会は、年齢の発達の大事にしたいことを知らせる機会でもありますが、保護者同士が同じ悩みを持つ親として知り合える場でもありますので、多くの方に参加できるよう時間変更したことで、少数でしたが、意見を頂きました。次年度参加しやすい日程を検討していきたいと思います。

*保育内容については、「一人一人の思いを大切に、仲間の中で育ち合う」を掲げてクラスごとに保育を行ってきました。研修を大事にして、チームワークと保育士の専門性を高める努力をしてきました。各クラスの月ごとの職員会議で子どもを捉え保育計画を立て実践し、3歳未満児会議、幼児組会議で反省し次の計画に反映するようにしてきました。5歳児クラスでは配慮の必要な児童が複数在籍しており、クラス会議で個別の方針を検討しました。またスーパーバイズ研修に参加し大学の先生にアドバイスを頂き保育に取り組みました。2歳児クラスでは、20名に4担任体制をとりましたが、人数の多さによる騒々しさもあり、担任も4人と多く保育観を一致して取り組むことが難しく、ひっかきや噛みつきが発生し保護者にも不安を与え対応に苦慮しました。園長、主任も入り保育のやり方を共に考え指導して行いました。また、幼児組は3.4.5歳児の縦割り活動を行い、異年齢の交流保育の中で育つ保育を試みて3年になり定着してきました。また、中堅保育士からの提案による自主研修「場面記録会」は正規職員を中心に参加し、臨時保育士にも呼びかけ、担当クラスの気になる子どもを職員みんなで検討できたことは、保育を前向きに見直すきっかけとなり、職員の励みの場となりました。

(2) 保健活動

怪我と与薬(2013年4月~2014年3月)

	つぼみ	つくし	どんくり	こりす	みつばち	おひさま	かわ	やま
	0歳6名	0歳2名	1歳 10	1歳6名	2歳20名	3歳24名	4歳25	5 歳
		1歳7名	名	2歳5名			名	22名
与薬	209	329	443	346	487	728	384	447

*怪我:受診した事故は9件でそのうち、日本スポーツ振興センターに請求した事故が6件でした。 顔面挫創、指の挫創、腕の骨折、眼部打撲と急性結膜炎でした。骨折は3週間ほどでギプスははず れましたが、その後2か月ほど経過を観察しました。ヒヤリハットを含め全体職員会議で問題点と 対策をその都度検討し確認しながら再発防止に努めました。

*誤食は、食物アレルギー児が延長保育時に一口誤食させてしまいました。大事には至りませんで したが、延長保育は職員が交代で勤務するので、改めて対策と二重のチェック体制をつくり全体職 員会議で確認しました。

*与薬は、年間で3373でした。アトピー性皮膚炎の毎日の軟膏も含まれていることもあり、昨年より多い与薬になっています。看護師が一人で与薬をしています。人数が多い日は1時間以上かかり大変さはありますが、専門に行うことで、誤薬を防せいだり、薬の量の確認などができています。

主な感染症

病名	インフ	溶連菌	中耳炎	胃腸炎	手、足、	リンゴ	RS感	アデノ
	ルエン	感染症		(下痢	口病	ぽっぺ	染症	ウイル
	ザ			も含		病		ス
				め)				
数	42	10	25	73	15	7	9	4

*今年度は、インフルエンザの感染が 2月~3月まで全年齢で広がり家族間での感染も数件ありました。また、A、Bともに感染してしまうケースもあり保護者は仕事との兼ね合いでも大変だったようです。2月は、一日に10名以上のり患者があり、仙台市に報告しました。

*8・9月には0・1歳児クラスで手足口病が流行しほとんどの子どもが感染しました。

*RSウイルス感染症では 0 歳の月齢の小さい子どもが繰り返して感染し、悪化し入院してしまうこともあり、月齢が小さければ小さいほど保護者と連携して保育にあたることの大切さを感じました。

*9,10,11 月は、リンゴほっぺ病が幼児組で流行し、診断を受けずに頬の症状がでて潜在的にり患者が出でいました。

*胃腸炎は、一日に 10名の発症者はなかったのですが、かぜからくる下痢や嘔吐を含めると年間通してり患者があり、冬季は $2\sim5$ 歳児まで薬用せっけんでの手洗いと看護師による巡回指導を行いました。

*今年度、5歳児でてんかん持病を持つ子どもは、自宅では就寝時にてんかん発作を起こしましたが、保育園では起こしませんでした。保護者と連絡を密に取りながら気を付けて保育を行いました。

(3) 給食室から

年間を通して食育基本法に示された一人一人に対応する考え方で取り組みました。離乳食やアレルギー食だけでなく、原発事故の懸念からくる食への安全確認の要望に応えた対応(お弁当持参、アレルギー以外の牛乳除去)もしてきました。保護者の実態把握に努め食の経験不足を補うための取り組みや要望に応え、子どもが食に関心を持って体験できる献立(ハンバーガー作りやレシピの配布など)も考え取り組みました。また、クラスの食育は、調理師と共に食材に触れる取り組みや栽培を活かした献立、また保育者の要望に応えたクッキング活動への取り組みを行いました。また、毎年行われる親子クッキングは、食への楽しい啓蒙も含めて好評でした。

(4) 安全管理

*災害時の停電対策として補助金を活用して発電機を購入しました。防災マニュアルを確認し、ゲリラ豪雨などで名取川氾濫時の避難先として市民センター2階への避難を今年もお願いしました。 また情報収集用の防災備品のチェックも避難訓練時に行いました。

*不審者対策として、年1回訓練を実施、普段使用しない音楽を流すことで、瞬時に危険を察知できるようにしました。

*年間を通して月一回の避難訓練を行いました。内容は火災訓練8回、地震訓練4回、通報、消火訓練を行いました。

*散歩時はマニュアルに基づき、経験保育士が気を配る点を後輩保育士に伝えあいながら安全に行えるようにしました。

3. 職員の研修と評価

- (1) 1) 研修テーマは「仲間のなかで一人ひとりを大切にする保育」とし、研修計画をたて計画的に行ってきました。園内、法人内研修は年間11回実施しました。また仙台市保育所連合会、仙台市、私立保育園協議会主催の研修、全国合研、全国保間研へ参加させてきました。
- 職員の自主研修として、仙台保育問題研究会に参加していますが、園内でも自主的に保育の場面記録研修会が行われ、子どもをどう捉え、その時の働きかけがどうであったか振り返り自己研鑽に励む成長が見られています。
- (2) 障害児保育については仙台市のスーパーバイズ研修を申し込み、年長児の気になる子の2名について年間三回保育実践を見ていただきアドバイスをもとに保育を進めてきました。また園内研修ではアーチルより講師を招き、保育を観察してもらい担当職員や園長、主任で研修を行いました。統合保育児童ではないが、発達に困難を抱えている児童が多く在籍している中で、多くの職員で研修会に参加して学ぶことを行いました。
- (3)年2回の総括会議を行い、保育指針に示されている保育士等の自己評価を職員集団の討議を経て、保育の質を高める視点で自己評価を行いました。

4、小学校や地域との連携

- (1) 就学にむけて年長児の児童要録を児童の入学する小学校へ送付しました。また柳生小学校1年生の学習時間の見学をさせていただきました。見学後体育の授業で取り組んでいたころがしドッチボールが年長児で流行し小学校への期待につながりました。卒園式には柳生小の校長先生が来賓として出席していただきました。統合児が入学する柳生児童館から2名の指導員が見学にきました。小学校で行う幼保小連絡会に年長児担任と主任が出席しました。
- (2) 小学校の町探検での保育所の紹介や中学校の職場体験を受け入れました。
- (3) 柳生町内の老人会と昔遊びを教えていただき、交流しました。
- (4) 地域の子育てを支援していく「遊ぼう会」は園庭解放も含めて、わらべうたやプール、芋ほり、 給食食事会など12回計画しました。年間を通してのべで 組の親子の参加でした。参加者がいない 会がみられました。保育所入所にむけた体験の意味合いがある参加者も見られました。専用の場所も ないことが悩みで、大きく呼びかけていけないことがあります。保育園前にポスターを張り、見学者 に案内プリントを渡している程度の取り組みになっています。また、案内の掲示やプリントに育児相 談の受付も書いておきましたが、利用はありませんでした。今後地域の子育て支援の取り組みを限ら れた条件の中で、どのようにしていくか検討が必要です。

5、補助金事業

①延長保育について

利用時間については18時15分までの子ども数が減少することがなく、しかし延長保育までは利用しない児童が多い状況です。昨年より利用数が増えています。

延長保育時間	月平均利用数	補助金収入	利用料収入	合計収入

18:15~19:15	15 人	2,398,000 円	940,500 円	
				3,338,500 円

本年度予算執行

職員俸給	職員諸	非常勤	法廷福	消耗品	保育材	給食費	合計支出
	手当	職員給	利	費/水道	料費		
		与		高熱費			
2,080,000	25,000	666,000	243,000	242,800	30,000	180,000	3,466,800

^{*}年間後半にかけて、利用人数が多くなり $15\sim20$ 人以上になることもありました。発達的にも気になるお子さんの利用もあり、保育には体制の工夫や遊びの工夫をしながら保育を行いました。

古川ももの木保育園

I. 事業規模

2013年度は定員90名に対して、4月は待機児対策の為104名(大崎市103名.栗原市1名)でスタートし、5月に0歳児1名が、6月に0歳児1名、1歳児1名が入所し、107名になり、平均106名で推移しました。事業としては、産休明け保育・1時間延長保育・障害児保育・体調不良病児保育(自主事業として)・地域活動事業を行いました。

① 入園状況 (毎月1日の利用数)

_												
年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12月	1月	2月	3月
0歳	12	13	14	14	14	14	14	14	14	13	14	14
1歳	19	19	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
2歳	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
3歳	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
4歳	16	16	16	16	16	16	16	15	15	15	15	15
5歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
合計	104	105	107	107	107	107	107	106	106	106	106	106

② 職員体制

	園長	保育士	看護師	栄養士	調理員	事務・他	計
正規職員	1	13(後		1			15
		期 14)					(16)
臨時職員		4 (5)			1		5
パート(6H.)		2					2
パート(5H)						2(事務.用務)	2
パート (4H)		5	1		3		9
パート(3H.)		1					1
計	1	25	1	1	4	2	34
		(26)					(35)

- *職員体制は、9月から主任保育士1名が乳銀杏保育園から異動になり、主任2人体制になり、 日常の保育に目が配られ、クラス会議等への参加が図られました。
- *看護師の交代があり11月から以前の職員の復帰で、新設の古川くりの木保育園の病児保育の準備等を 進められました。後半パート保育士の怪我による2か月半の休みがありましたが、担任保育士、また 職員の協力のもと保育を進めることが出来ました。
- *2月になり8時間試行の為人員が不足していた臨時保育士1名がやっと確保できました。

Ⅱ保育内容について

- 1) こどもや父母の状況と保育実践
- ①保育で大事にしてきたこと

年度初めに年間カリキュラムの園内学習を行い、障害児やクラスで大切にしていること・保育に向かう姿勢を共通理解する事が出来ました。全職員会議、クラス会議、年2回の総括会議では、自分のクラスだけでなく、クラスを越えた話し合いが出来てきています。とくに、後期総括会議は全職員が発言できるように、グループ討議の方法を入れるなど工夫をし、より積極的な参加ができました。管理部もできる限りクラス単位の会議にも参加し、保育の質の向上が図れるよう取り組んできました。

園外研修には、積極的に参加できるようにし、復命により、全職員への周知に努めました。今後、保 育内容を具体的にまた系統的に、見直したり、深めたりすることが必要です。

②保護者との関係づくり

保護者とのより良い関係づくりをめざし、日々の送迎時の伝え合いを大事にしてきました。また、保育参加・父母懇談会・行事を通して保護者同士を繋げたり、悩みや思いに寄り添える様にしてきましたが、今後、更なる取り組みの工夫も必要だと考えています。保護者からの保育士の対応についての苦情があり、保護者に対する話し方等について見直す機会となりました。保護者の置かれている立場や心情について、理解を深め、対応していく能力が求められています。

また、今年度も保護者と共に学習しながら保育署名に取り組みました。保育の情勢を学び合いながら 一緒に子どもを守る運動につなげています。

2) 保健活動から

《2013年度 投薬依頼数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	224	188	206	241	132	151	188	164	193	123	205	127	2142

《2013 年度 アクシデント件数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2 月	3 月	合計
件数	16	17	28	20	14	14	21	16	14	13	6	7	186

《2013年度 体調不良児利用数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	7	7	7	12	12	21	8	12	10	12	21	10	139

今年度の投薬依頼は、一年を通して感冒と中耳炎が圧倒的に多く、その他としては、それぞれの季節ごとに流行した疾患(ウイルス性の胃腸炎や、インフルエンザなど)の投薬依頼があり月平均にして178件。2012年度よりも依頼数は約半数でした。乳児では中耳炎による内服が長期にわたっています。投薬ミスは4月と、9月の2件でした。

保育中のアクシデントの種類は、1・2歳児クラスの咬傷と、引っかきが大半を占めます。年齢的な特徴で例年同様の傾向になっていますが、週半ば水、木曜日、9:00~12:00までのクラス別保育の中での発生が圧倒的に多いことは、保育の内容、保育者の動きなどについて検討が必要です。

報告書を書くことで、アクシデントを振り返り、大きな事故発生の予防につなげられるよう、対策を 全職員で共有することをしてきました。

病院受診に至ったケースは 10 件ありました。(脱臼 3 件、切創 5 件、裂傷 2 件) ほとんどが 4、5 歳児 クラスでの発生でした。子どもたちが自分の体に興味・関心を持ち健康に安全に過ごすためにはどうしていったらよいのかを子ども自身が考えていけるように、看護師の力を借り事故防止に取り組むことが

今後の課題です。

感染症については、インフルエンザA型が乳児クラス、B型が主に幼児クラスで発生し、感染が広がらないように毎日対策に努めましたが、3月初め最大16名が罹患しました。インフルエンザに限らず、感染症対策を年間を通して取り組んでいきたい。

3) 給食室より

≪配慮食≫

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
	5	1	4	3	1	0	1	0	3	0	0	0	1 8

今年度も配慮食のほとんどが下痢による配慮になっていますが、 前年の4分の1ほどでした。

(アレルギー除去食)

年齢	アレルギー除去食内容
0歳児(2名)	卵全般、ピーナッツ
2歳児(2名)	乳そのもの、牛乳そのもの・ 小麦全般、乳全般、卵全般
5 歳児	乳全般、卵全般

2歳児クラスで調理員の配膳ミスで誤食がありましたが経過観察で済みました。給食担当者・クラス担任一人ひとりが責任を持ち調理作業と配膳、受け渡しを行わなければならないと実感させられました。 *対策として、アレルギー児にはアレルギー食のあるなしに関わらず、専用のお盆に食器をのせ、クラスに渡すようにしました。(給食、おやつとも)

≪主な食育活動≫

5月	菜園活動計画	10 月	魚の解体ショー、クッキング
5月	よもぎだんご作り・	11 月	収穫祭、クッキング、地場産給食
6月	野菜の皮むき.箸指導、食事マナー	12 月	もちつき会、バイキング給食
7月	野菜収穫、クッキング	1月	クッキング
8月	お泊まりクッキング、食具指導	2月	クッキング、食具調査、残食調査
9月	青空給食、クッキング	3月	5歳児親子でパン作り、バイキング
			給食、クッキング

離乳食の部分で、栄養士が食事介助に入り、個々の子どもに合わせた食事提供が出来、他の年齢でも昨年に引き続き食事指導を実施しました。個別対応の必要な子には家庭とも連携して取り組みました。

食育活動では、栄養士、クラス担任の連携のもと様々な取り組みが出来ました。その時だけでなく、 その後の行事の取り組みにつないでいくなど、保育の系統性を考えることも大事であることに改めて 気づかされました。

今年度も「より安心・安全な食事提供」を常日頃から心がけ地場産の食材をなるべく取り入れながら各業者へ食材の安全確認(放射能測定結果の取り寄せ・出荷産地確認・県、市ホームページの確認など)を定期的に行い安全な食材を納入してもらえるようにしました。

*今年度初めての取り組みとして、クラス懇談会時、試食会を実施した結果、普段の給食について 知ってもらう良い機会となりました。

- *11月から2月まで残食調査を実施、グラフ化により残食の傾向がわかり、献立の工夫、子どもへの働きかけの工夫につないでいきたいと思います。
- *保育園独自の「災害時対応フローチャート」が完成し、必要に応じ活用出来ます。

Ⅲ. 補助金による事業

① 延長保育事業

延長保育登録数は、在園児の約半数が登録し、6:01時と6:31時で大きな差がないことから、降園時間が6:30以降に集中していることがわかり、7:00間際や、7:00過ぎのお迎えも数名あり、保護者の仕事の大変さが伺えます。11月以降、職員の8時間勤務に伴い、6:30までの職員がいることで子どもに手厚い対応が出来ました。

[2013年度 の利用状況]

申し込み利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3 月
6:01 時点の平均数	35	31	32	35	35	28	35	34	32	32	30	28
6:31 時点の平均数	31	29	28	29	29	26	31	29	30	26	25	19

[2013年度延長保育事業収支]

ıĺπ	国・大崎市の特別保育補助	5,983,000	支	人件費	
収	大崎市延長保育利用料補助	1,414,000	X	・延長専任パート職員分(3名)	2,854,000
	大崎市外広域利用児料金分	22,000		· 常勤職員延長担当分(3 名)	1,656,000
入			出	・保育教材・水光熱代	520,000
			Щ	・延長オヤツ代	37,000
		7,419,000			5,067,000

② 域交流事業

地域交流事業として「夏祭り」を行いました。また、地域・世代間交流として「お店やさんごっこ」を12月に実施しました。あそぼう会は年5回行い、0、1歳児の参加がほとんどなので、3回設定したわらべ歌は地域の親子がゆったりと子どもと向き合う時間となっています。同時に保育園を知ってもらう場となっており、利用者の広がりをどう作り定着させるか、内容の充実が来年度の課題です。

[2013年度の実施状況]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	合計
遊ぼう会		6	4			6	1 4	1 4	8		52
世代交流				500					60		560

[地域交流事業収支]

収入		支出	
保育所地域活動事業補助	100,000	夏祭り地域交流会	
		(ほうねん座) 出演料	100,000
		遊ぼう会講師料	30,000
		印刷費など	2,000
	100,000		132,000

IV その他

2013 年度はももの木保育園の運営と古川くりの木保育園の開設に向けての準備を同時に行った年度になりました。12 月には法人全体で、63 名の参加者を得て、地域行動に取組みました。その間職員の連携、協力のもと、準備を進めることが出来ました。今後は、障がい者サポートセンター、古川くりの木保育園との様々な連携が可能になり、地域に根差す施設としての新たな一歩を踏み出せることを心強く感じます。

下馬みどり保育園

1 事業規模

(1) 入所児童

多賀城市の合計特殊出生率は県内で一番高く、4月当初の待機児童は60名程度でしたので、定員を超えて受け入れました。

毎月1日現在

年令	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月
0	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
1	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
2	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
3	11	10	10	12	12	12	12	12	12	12	12	12
4	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12
5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
合計	63	63	63	64	64	64	64	64	64	64	64	64

(2)職員配置

年度末

	園長	保育士	保育	栄養士	調理員	看 護	事 務	用務	計
			補助			師	員	員	
正規職員	1	7		1					9
臨時職員		4				1			5
パート7時間		1							1
6 時間		1			1		1		3
5 時間								1	1
4時間			1						1
3.5 時間		1							1
3時間			1						1
計	1	1 4	2	1	1	1	1	1	2 2

- ・クラス担任が病気休暇を取得することになり年度途中の担任の変更や臨時保育士の契約期間内退職 がありました。
- ・ 0歳児の延長保育が多くパートの保育補助員を 6月から雇用しました。
- ・病休代替え者や退職者補充のための保育士確保が大変困難な状況でした。

2 保育内容

(1) 行事

月	行事名
4	入園式
5	内科検診 遠足 鶴ケ谷保育所と交流保育
6	歯科検診 蟯虫検査、交通安全教室、クラス懇談会(0歳児、4・5歳児クラ
	ス)
7	クラス懇談会(1歳児クラス)七夕会、プール開き、なつまつり
8	5歳児お泊り会
9	交通安全教室 坂病院デイサービス訪問、クラス懇談会(2歳児クラス)
	クラス懇談会鶴ケ谷保育所と交流保育
1 0	運動会、鶴ケ谷保育所と交流保育 歯科検診、歯科検診 さんまパーティー
	クラス懇談会 (3歳児)
1 1	内科検診 子ども作品展 鶴ケ谷保育所と交流保育 勤労感謝訪問
	食育(鮭の解体) 焼きいも会
1 2	もちつき会 クリスマス会
1	正月遊びの会 交通安全教室 クラス懇談会 (3歳児クラス、5歳児)
2	豆まき
3	ひなまつり作品展、ひな祭り会 卒園式・修了式

^{*}避難訓練、誕生日会は毎月実施

(2) 保育活動

活動名	内容								
菜園活動	屋上に33㎡の畑、有機肥料の土を補充、								
	野菜を植える								
	はつか大根、パセリ、レタス、オクラ、シソ、キュウリ、ナス、ジャガイ								
	モ サツマイモ、ミニトマト、モロヘイヤ、サヤエンドウ、ゴーヤ、ピー								
	マン、白菜、玉ねぎ、ホウレンソウ、玉ねぎ								
	ジャガイモ15kg…イモ餅クッキング、おやつのポテトチップ等								
	サツマイモ15kg…焼きも会で使用								
食育活動	・野菜の観察								
	タケノコ…放射能の影響で市販されているたけのこがなく栄養								
	士が地域の竹藪で調達、皮むきだけの活動になった								
	ピーマンの種取、枝豆もぎ、白菜解体、たまねぎの皮むき、ト								
	ウモロコシの皮むき								

- ・サンマパーティー…炭火を熾してサンマを焼いて屋上で食事
- ・クッキング…白玉団子、ホットケーキ、アイスクリーム
- ・行事食…七夕、クリスマス、餅つき、七草粥、豆まき、ひな祭り
- ・リクエストメニュー…ラーメン屋さん、寿司パーティー、
- ・ 鮭の解体見学
- ・講話…栄養士から3大栄養について話を聞く
- ・保護者向け…クラス懇談会で給食試食会

3 保健活動

(1) ヒヤリハット

項目	件数	主な内容
転倒		・床で滑った
	5	・椅子の背持たれに座って後ろに転倒
		・椅子に浅く座って尻を滑らせて尻もち
		・園庭の滑り台の階段で足を滑らせた。
衝突		ホールで思いっきり走り回って曲がりきれなく柱に
	2	衝突した。
		・子ども同士走って衝突
アレルギー誤食		・午睡後あわただしくおやつに時間になり牛乳カット
	2	の子に飲ませた。
		アレルギー児がお替りしたいというので、うっかり
		して普通食を与えてしまった。
誤薬		・0歳児にスポイトを使って飲ませて、スポイトを机
	1	に置いていたら他の子がなめた。
その他		エプロンにキャップがないボールペンを入れていて
		0歳児を抱っこしたとき足に書いてしまった。
	3	・前日の夕方保育室で教材準備してプラスチック破片
		が落ちたのに気付かず、拾って口に入れた
		・散歩でビービー弾を拾って鼻に入れたと子どもの訴
		えで受診したが入っていなかった。
合計	1 3	

反省… 保育士の不注意によるものが多いので、落ち着いて職員間で確認しながら防止していきます。

(2) 事故 0件

(3) 病欠の主な病名

病名	インフルエンザ	流行性耳下腺炎	水痘	手足口病
人数	1 0	1	1 9	9

病名	とびひ	嘔吐下痢症	ヘルパンギーナ	溶連菌感染症
人数	0	6	2	0

^{*}病名を診断された人数(発熱・かぜ・腹痛等は含まず)

(3) 与薬 3,043 件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件数	331	287	316	307	231	165	267	227	245	217	188	262

前年度比較 475 件増、宮城県の指導監査で与薬の多いことを指摘されました。

4 補助金事業

(1) 特別保育事業(補助金額)

単位:千円

事業名	内容	のべ利用人数	金額
延長保育促進事業	対象時間 7:00~7:30		
	18:00~19:00	352	6, 426
乳児保育促進事業	乳児保育のための保育士を配置して年度途中入		
	所に対応する。	107	1,000
地域活動事業	なつまつり、運動会、クリスマス会に地域の子ど		90
	もが参加		
障害児保育	知的障害、自閉的傾向等年度途中に診断された		
		20	1, 306
病後児保育	病気回復期にあり集団生活が困難な児童の保育	35	2, 400
合計			11, 223

(2) その他の補助金事業

事業名	内容	金額(千円)
私立保育園環境整備補助金	私立保育園の運営に要する費用	
	1人当たり 3,200 円×のべ人数 766	2, 451
入所児童処遇特別加算費	用務員雇用	1,016

^{*}平成25年度は水痘の発病が多かった。

保育士等処遇改善臨時特例事	正規 70,000 円	臨時 40,000 円	
業	パート 10,000 円		951
合計			4, 418

5 実習生等の受け入れ

保育実習生	保育観察実習	研修医	中学生体験実習	ボランティア
2	8	8	4	1

6 課題

- ・特に臨時保育士の確保が困難で、入所枠の拡大、障害児保育、延長保育等の対応に影響があり、夕 方の延長保育には無資格者を雇用していますが有資格者の配置を努力します。
- ・病後児保育の利用が少ないので原因を考えながら検討します。
- ・障害児保育については積極的な受け入れはしていませんが、需要に応えるため職員研修を充実しま す。

くさの実保育園

子どもの健やかな成長と保護者の就労支援を重点目標として、年度内の産休、育休明けの子どもを受け入れてきました。当初の入所予定は20名でしたが、地域の認可保育所に入所できたので14名の入所になりました。

また夜勤や休日勤務、諸会議等に対応するため夜間保育、休日保育を実施してきました。

1 利用児童数

①日中園児数

月末数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人	3	3	3	4	4	5	8	9	9	11	14	14

保育時間 8:00~18:00 前年度比較1名減

②夜間保育のべ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人	104	97	98	116	99	105	124	112	117	102	137	131	1,342

保育時間 16:00~21:00(休日を除く) 前年度比407人増

③休日保育のべ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人	9	6	5	7	5	6	3	9	13	9	4	7	83

保育時間 8:00~18:00 年間 3 2 日 前年度比 9 人増

2職員配置

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
保育士	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4
8h												
保育士												
6 h												1
保育補	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
助 6h												
保育補												
助 4h	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	8

*年度途中で保育士雇用するのは困難なので4月当初から一定の保育士の雇用をしました。

2 保育内容

① 日中保育

- ・母乳育児…安定的な授乳の推進
- ・生活リズムをつくる…十分な睡眠、食べる気持ちを大切にする、遊びのバランス
- ・体づくり…ベビーマッサージ、赤ちゃん体操、屋上で外気浴、散歩
- ・遊び…吊るし玩具、音の出るもの、わらべうた、友達関係等月齢に合わせた遊び 誕生日会は下馬みどり保育園と合同で実施

② 夜間保育

- ・日中の施設を利用している子どもの送迎
- ・広い空間での遊び…屋上や、下馬みどり保育園のホールを活用した遊び
- ・異年齢児との遊びと年齢に合わせた遊びの工夫
- ③ 休日保育
- ・安全に楽しく過ごせるように工夫
- ・ゆったりした保育内容にして適度な休養を取り入れる

3 健康

- ①内科・歯科検診は年に2回実施
- ②アレルギー児への対応

診断書に基づきアレルギー食を提供しています。

強度の小麦アレルギーの子が休んだ日に小麦粉粘土で遊んできちんと掃除しましたが、机に少量の小 麦粉が付着していたようで、翌日登園してアレルギー反応がありました。

また、同じ子が押し麦が入ったスープを食べてアナフィラキシー反応があり受診しました。

4 安全衛生環境整備

- ・避難訓練は下馬みどり保育園と合同で実施
- ・採光、換気、冷暖房、湿度の管理
- ・入園児の増加が見込まれたので保育室の増築
- 5 認可外保育施設運営費補助金

多賀城市に居住する子どもに対して補助金がありました。

@4500 円×のベ2 9 人=130,500 円

5 評価と課題

- ① 日中園児の保育時間は 8:00~18:00 になっていますが、8:00 前の登園、18:30 過ぎの迎えが常態化しています。
- ② 夜間保育と休日保育の予約が急にキャンセルされることがあり、勤務予定職員の業務がなくなることがありました。
- ③ 年度当初は日中保育の子どもが少ないので、下馬みどり保育園で実務研修ができました。

- ④ 保育基準については認可保育所と同等のものにしたいと考えていますが、保育室の面積と有資格者の確保が困難になっています。 夜間保育従事者は無資格者になっています。
- ⑤ 年度の後半は子どもが増加してきたので毎週職員会議をして連絡体制をつくりました。

仙台市宮城野児童館

《計画内容》	《実施内容》
1 管理運営の基本方針	
(1) 地域に支えられ、みんなで子育ての理念 のもとに、地域の実情を踏まえた児童館 運営を行う。	 (1)地域の実情を的確に把握し、そのニーズに応えられる児童館運営に取り組んできました。 ① 学校・保育関係・町内会等の関係諸団体からの意見、要望を反映していくため、児童館運営懇談会を開催してきました。 ② 幼稚園入園前や保育所待機児童の親子の情報交換や安全な遊び場提供の役割を果たしてきました。 ③ 館行事などでは、多くの地域ボランティアの方々に支えられながら運営してきました。
(2) 子どもたちの健全育成・世代間交流を重視した運営に努める。	(2) 大規模放課後児童クラブへのニーズに適切に 対応するようサテライト経営にも力を入れ、ま た中高生・高齢者との交流を図る活動に努めて きました。

2 利用者サービス向上

地域住民に親しまれ、愛される子育て支援の拠点としての児童館づくりを目指す。

地域に開放され、地域のみなさまに愛される児 童館をモットーに、広報活動に努めてきました。 館だよりの実家庭数への配布、地域町内会回覧板 の利用、外部掲示板の充実、新聞等での情報提供 等に努めてきました。

また、利用者との共感、信頼関係の構築に努め、そのための内外の研修に力をいれてきました。

さらに、個人情報保護に細心の配慮をし、信頼 される居場所づくりに努力しました。

年間利用者総数も 30000 名を超えました。またボランティア参加の方も延べ約 300 名を超えました。

乳幼児親子の交流を図りランチタイム開設。

3 人材確保・育成

児童館職員は、子どもの人格形成にまで及ぶ職 責を担うことを認識して、児童館運営に従事す ることを宣誓し、日々研修に専念する。 職員全員の子ども観を高め、日々、子どもの遊びの研修に努めました。毎週実施の職員会議と毎日実施のミーティングでは、成長していく子どもの姿や課題を確認してきました。研修では手遊び歌や集団遊びの交流など、研修の機会を設けました。また各機関の実施する講習会などへも積極的に参加し研鑽を重ねてきました。

子どもの育ちの背景を知るためにも、保護者の労働環境の学習にも努め、保護者との対話を充実させてきました。

4 健全育成事業

子どもの成長発達を促し、可能性を引き出す日常の遊び・活動を充実させていき、常時、発表や展示の場を積極的に設ける。児童館まつりをその集大成の場のひとつにする。

(1)乳幼児と親

- (1) 親子の絆を高める活動の展開
- ①児童クラブ室を小学生の不在の午前中を子育 てサロン室とし、ランチタイム、カフェコーナ ーで仲間づくりと子育て談義の場を展開して きました。
- ②2、3歳児登録制の「きらきら・ぽかぽかクラブ」の活動の中で集団遊び、絵本の読み聞かせ、わらべうた、おもちゃ作り等の創作活動を実施し、幼児期に大切な心・感性・からだ・知恵を育ませてきました。
- ③「赤ちゃんサロン」を毎月1~2回開催し、育児相談活動や、育児談義と仲間づくりと、保健師や栄養士から子育ての知恵を学ぶ機会をつくってきました。
- ④前年の利用者アンケートに寄せられた「幼児 遊びの充実を」の声に応えるため、「ぷちぷち 遊びの会」を月に1~2回開催してきました。
- ⑤乳幼児の水あそびの会を館の駐車場に簡易プ ールを準備し、2回行ってきました。

(2) 小学生期

(2) 自主的な活動と手足を使った活動の展開 この時期に「自分の責任で、自由に遊ぶ」子ど

	日常の遊び・活動を大切にし、子どもの個性や 特技を生かし伸ばす活動を積極的に推奨し、図 工作品展示・人形劇の発表・草花の世話・折り 紙・囲碁等の活動を日常化を目指してきまし た。 ⑤ 「こども会議」を開催し、子どもたちの意見 で児童館活動を改善する機会を作ってきまし た。 利用する子どもたちの課題については、必要 に応じて「こども集会」を開催し、約束事の
(3)中学・高校生期	徹底を図ってきました。 (3) 自由で開放感を味わえる場と時間があり、自分の存在が認められる喜びの体験。思春期の悩みに耳を傾ける機会を設けることに努めてきた。 ① 行事への参画ーポスターづくり
	② 自主活動の場の提供ー運動・音楽
	 ② 自主活動の場の提供-運動・音楽 ③ 小学生との交流 ④ 仙台工業高校吹奏楽部の定期演奏会の実施 ⑤ 仙台工業高校模型部作成のコマ撮りアニメの制作と上映会開催 ⑥ 仙台工業高校生有志の協力を得て、木工教室の開催 ⑦ 中高生の職場体験・ボランティア体験への積極的な協力を行ってきた。
5 子育て家庭支援	 ③ 小学生との交流 ④ 仙台工業高校吹奏楽部の定期演奏会の実施 ⑤ 仙台工業高校模型部作成のコマ撮りアニメの制作と上映会開催 ⑥ 仙台工業高校生有志の協力を得て、木工教室の開催 ⑦ 中高生の職場体験・ボランティア体験への積

仲間づくりの行事活動をしながら、子育てに生 かしてきました。

(2) 赤ちゃんサロン

(2) 乳幼児からの子育てのノウハウを学び、育児相 談・育児談義と仲間づくり、保健師や栄養士の 指導を受ける機会を設けてきました。

(3) ぷちぷちあそびの会

(3) あかちゃんあそびを学びたいという利用者ア ンケートの要求に応え、 $月1\sim2$ 回ぷちぷちあ そびの会を開催してきました。

(4) 育児相談室

(4) 週5回のランチタイムと週2回のカフェコーナーを設け、おしゃべりサロンとしての親子交流の場を通して、育児諸問題・引きこもりの親の発見・館への誘い等の相談活動を行ってきました。

(5) 子育て支援クラブ活動

(5) 会員の転居や就労が相次ぎ、会員数不足のため会の活動の継続が不可能になってしまい、休会状態になりました。

6 地域交流推進

地域で子育て、みんなで子育てをモットーに地 域連携を図り、地域の力を児童館運営に生かし ていく。 児童館運営に地域の声を反映させ、よりよい地域子育で支援の拠点づくりを行う目的で、地域の教育・子育で福祉関係諸団体(小学校 2 校、中学校 2 校、高校 1 校、保育所(園)、幼稚園、連合町内会、社会福祉協議会、児童福祉協議会、民生児童委員等)で構成する宮城野児童館運営懇談会を開催してきました。

隣接する仙台工業高校の吹奏楽部演奏会は7年 目、仙台工業高校模型部との交流は4年目で、コマ撮りアニメの制作と映画会を実施しました。

仙台工業高校の生徒のボランティア活動も、 様々な行事の場で展開されてきました。

またコンサートや朗読劇の実施の場面では、地域の演劇工房 10-BOX の協力を呼びかけてきました。

地域に居住する方の水彩画や子どもたちの折り紙作品、平和を願う千羽鶴などの館内掲示で、

季節感あふれる館内装飾を心がけてきた。

仙台工業高校の2年生6クラスが、家庭科保育 の移動教室で乳幼児親子とふれあう場をもって きました。

中学・高校生の利用数が初めて 1000 名を超え た。

地域の子育てママのハンドベルサークルの練習会場、演奏発表の場の提供をしてきました。

地域の子ども会の催し物や子ども会役員の会議の場として、利用が拡大しました。

7 放課後児童健全育成事業

保護者が就労等で放課後家庭が留守になる子ど もたちの居場所として、児童館の「児童クラブ」 が果たす役割の重要性に応えるべく、安心・安 全快適な「生活の場」を保障していく。 保護者のニーズに応え、入会希望児童は全員承認 してきた。

- ・小学校 2 校からの 100 名を超える大規模児童クラブ対応として、宮城野小学校教室にサテライト室(第 2 児童クラブ)増設して約 40 名の児童を受け入れてきた。
- ・本館と分室のクラス編成を行いながら、交流を 密にして、子どもたちに満足感を満たさせる運 営の工夫に努めてきました。また保護者や学校 との連携を密にするよう努めてきました。また、 遊びや行事参加の公平性に努め、自由来館児と の融和を積極的にすすめてきました。

8 事故防止,防犯防災

(1)事故防止、防犯防災

利用者の生命を預かる使命感に徹し、安全 安心の場に努める。また、不審者等から守 る任務を常に念頭に入れていく。

- (1) 毎月1日を安全点検日、また11日を防災の日とし、防災訓練を学校、警備保障会社(セコム)、消防署、警察署と連携をとりながら実施しました。毎月11日を防災訓練の日とし、火災・自然災害対応等の訓練及び非常口経由の避難訓練、救急治療法の研修などを実施してきました。小学校との合同避難訓練も実施してきた。また、利用者及び職員の事故防止のための研修会参加、伝講に努めた。
- (2) 事故、災害、緊急時への対応体制
- (2) ①非常事態に備えた職員組織体制の確立 ②指揮系統図、連絡系統図、職員分担、災害

時対応のフローチャート等の作成

- ③児童及び来館者への日頃の教育、啓蒙を図ってきました。
- (3) 来館児童・来館者の衛生管理

児童館における安全安心の維持管理に加えて、衛生管理の重要性にも配慮する。館内外の衛生管理状態を把握して、常に良好な状態の保持に努める。また、保護者への保健衛生に対する啓蒙-子どもへの指導、しつけ、生活習慣の改善-をしていく。

(3)子どもたちの衛生状態、衛生管理(特に感染症)について、研修会等での学びを交流し情報の還元を行ってきた。手洗い場・トイレの清掃管理、ペーパータオルの常備、及び、館内外の清掃に努めている。

外遊びから戻ったときやおやつ前の手洗いな ど、日常的に呼びかけてきました。

インフルエンザの流行時には、児童館内外に 感染症の病気の発生を知らせるポスターを貼 り、感染拡大を防ぐよう努めました。

9 施設維持管理

(1) 施設の管理全般

- (1) 警備保障会社(セコム)と業務委託をし、夜間・休館日の施設管理の徹底を図ってきました。また組織図に基づいた指揮系統の下に、管理に係る問題発生時は、仙台市並びに関係諸機関に相談連携し、迅速に対応できるようにしてきました。
- (2) 施設の維持管理に係る個別業務
- (2) 開館日の早朝全館清掃は、明光ビルサービスに業務委託し、また年 2 回の窓掃除(窓ガラス・網戸)と床のワックスがけ清掃を委託してきました。また、印刷・コピー・冷暖房・施設内消毒・消火設備点検、樹木の消毒なども業務委託しています。
- (3) ごみ減量・エネルギー削減等環境配慮
- (3) 利用者に電気水道の節約、ごみ持ち帰りの呼びかけを掲示物で行い、減量の意識化、地球環境への意識づけの広報活動を行ってきました。また牛乳パック工作、古新聞紙の再利用体験活動を実施してきました。
- (4) 有機性廃棄物リサイクルの堆肥を使用しての 花壇づくり、プランターでの花の栽培に取り

	組みました。
10 年間行事実績	
別紙「行事実績表」のとおり	別紙「行事実績表」のとおり
11 従業員の配置及び勤務体制	
館長1名、常勤職員4名、	館長1名、常勤職員4名、
非常勤(週20時間)4名、	非常勤(週20時間)4名、
	別紙「勤務ローテーション表」のとおり
12 平成24年度管理運営にあたっての	* 指定管理者評価シートに転記
指定管理者による自己評価	

仙台市の指定管理者制度の趣旨に則り、市民サービス、利用者への利益、福祉向上に徹する運営に努めています。また児童福祉法の理念を踏まえ、かつ厚生労働省の新「児童館ガイドライン」に基づきながら、子どものしあわせを希求し、子どもの人権、一人一人の発達保障を重視した児童館づくりを推進しています。また当法人の3大理念(①地域の人々の参加で支えられ、地域に開かれた施設づくり ②乳幼児から高齢者までの一人ひとりを大事にした町づくり、③施設を利用する方々、支える職員、地域のみなさんが主人公)に基づいた運営に力を注いできました。この理念に基づきながら、児童館の目的である健全な遊び、健康増進、及びゆたかな情操を図るための事業運営の推進は、地域及び利用者から少なからず評価を得てきていると思われます。

特に努力しているのは、下記の通りです。

- ① 「児童クラブ」の大規模化への対応と自由来館児童への適切な対応—100名を超える登録児童への安全、安心、快適な居場所の提供。
- ② 幼児親子を対象とした子育て支援のさまざまな試み―幼児クラブ、赤ちゃんサロン、24年度から取り入れたぷちぷちあそびの会、さらに正式発足した子育て支援クラブ「らふらふ」との連携、子育て談義の場づくりであるランチタイムやカフェコーナーの充実
- ③ 子どもの個性を尊重した日常活動の創意工夫 伝承遊びの普及、絵画・造形教室、囲碁教室、人形劇影絵劇あそび、草花クラブ等。24年度から取り入れた「こども会議」による館行事などへの参加
- ④ 利用者による愛好会(ハンドベル)、ボランティア活動(折り紙、生け花、中高生等)の展開。24年度発足した子育て支援クラブ「らふらふ」との連携。
- ⑤ 情操ゆたかな環境整備—"花と絵と音楽のある児童館"。
- ⑥ 17時以降の中学・高校生の利用数の拡大
- ⑦ 地域連携への模索―仙台工業高校とは吹奏楽部の定期演奏会や模型部のコマ撮りアニメ上映会の開催、近隣保育所・幼稚園との連携強化、地域で活動している演劇工房10-BOXとの連携、児童館運営委員会での情報交換や地域要求の把握

このように、「地域に開かれた児童館」としての着実な事業運営は、24年度は29000人を超える来館利用者数で実証されているものと考えます。この6年間の実績を踏まえ、これから更に地域連携強化、子育て支援活動の充実、広報活動の拡充、行事及び日々の活動の質的向上、大規模児童クラブへの対応の工夫等に努力していきたいと考えております。

障がい者事業

就労継続支援事業所 工房歩歩

1. 施設運営状況

【施設利用者数推移表】

平成 26 年 3 月 31 日現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月
男	14	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
女	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
合計	18	18	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17

【就労支援事業支援費収入推移表】

(単位:千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11 月	12月	1月	2月	3 月	合計
1,923	1,999	1,900	1,906	1,830	1,629	1,649	1,845	1,717	1,741	1,729	1,835	21,707

2. 施設運営について

(1)職員配置状況:管理者兼サービス管理責任者(1)生活支援員(1)就労支援員(1)職業指導員(1)支援員補助(2) 平成25年12月末 1名退職平成26年2月末1名採用

- (2) 利用者様状況:療育手帳B(12名)、精神保健手帳(5名)
- (3) 製造室が狭いため、利用者様がかなり窮屈な状況で作業を行っている。中期的計画として事業所の移転等を検討する必要がある。
- (4) 施設収入は利用者数の増加により、安定することができた。

【平成25年度パン清掃業務売上推移表】

(単位:千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
986	1,227	1,012	973	1,017	997	1,208	1,409	1,366	1,100	1,120	1,146	13,286

【平成25年度月別工賃支給額】

(単位:千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
604	639	579	609	598	526	538	588	545	552	548	585	6,911

3. 就労支援事業について

- (1) 法人内介護事業所の清掃業務を受託することで毎月 40 万円の収入を得ることができるようになった。
- (2) パンの売上を前年から伸ばすことができず就労支援事業収支が 2,600 千円赤字になってしまったことが反省すべき点である。
- (3) 1月より開所日を月曜日から金曜日に変更した。
- (4) 清掃業務を受託することで、利用者様の作業の幅を広げることができている。一般就労の訓練という観点でも清掃業務の位置づけは非常に重要なものとなっている。
- (5) 保育所等からの給食用パンの注文回数が増えた。また法人内社保財政活動でパンの販売協力も多くいただくことができた。

4. 平成 25 年度行事について

4月	観桜会	利用者様 15 名、職員 5 名
6月	保護者懇談会	保護者 13 名 職員 5 名
7月	個別面談実施	利用者様、保護者様

※平成25年度は大崎市への事業所建設があったため、工房歩歩での行事を数多く実施することができなかった。

5. 平成 25 年度総括

4月より2名の新規利用者様が通所することとなり、事業所の利用者数は17名となった。 しかしながら、長期休みの利用者様が2名出ており実質の利用者数は15名となっている。

パン製造における利用者様は製造スペースの関係から増やすことはできていないが、清掃業務においては、十符・風の音に加えて 11 月より田子のまちの清掃業務も受託することとなった。それに伴って、支援員補助として 1 名 6 時間パート職員を配置したが、清掃業務を担当している利用者の皆様は外部との接点が多い清掃業務の中で社会性及びコミュニケーションスキルを伸ばすことができた。

パン製造においても利用者様の成長が顕著にみられるようになり、これまで職員が行っていた作業も現在では全て利用者様が中心となって行うことができるようになっている。新規利用を希望される方たちも数名出てきているということから、スキルアップした利用者様についてはご本人及び保護者様と相談しながら、一般就労へ向けた本格的な訓練を平成26年度は実施していくことが大切であると考えております。

4月には大崎市当法人で2ヶ所目の障害者支援事業所が立ち上がります。工房歩歩と大崎の事業所が一体となって法人の障害児者支援を充実したものとなるよう努力して参ります。